



神奈川県  
政策局政策部  
情報公開広聴課

# 令和2年度 県民ニーズ調査

---

基本調査…………… 令和2年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査…………… 令和3年2月公表

テーマ「食・食育」「食の安全・安心」「神奈川県の農林水産業」

「ともに生きる社会かながわ」「男女共同参画」

「神奈川県の人権」「(SDGs)持続可能な開発目標」「3R」

「プラスチックごみ削減に向けて」「職業能力開発」

「犯罪被害者等への支援」「治安対策」

「ねんりんピックかながわ」

第2回課題調査…………… 令和3年3月公表

テーマ「気候変動への適応」「環境に配慮した生活」「生物多様性」

「アルコール依存症に対する意識」「肝炎対策」

「『未病改善』の取組み」「かながわの広報」

「地域コミュニティ」「子育てにおける体罰」

「消防団の認知度」「地震対策の取組み」

「自転車損害賠償責任保険等の加入」「スポーツ」

「東京2020大会に関する取組み」



## はじめに

神奈川県では、県民の意識・価値観などの変化や多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を施策に反映することにより、県民参加の行政を一層推進するため、毎年度「県民ニーズ調査」を実施しています。

県民ニーズ調査は、県民の生活や県政についての意識を継続的に調査している「基本調査」と、時勢に応じたテーマについて調査する「課題調査」があります。本報告書は、令和2年7月から8月にかけて実施した「基本調査」、9月から10月にかけて13テーマについて実施した「第1回課題調査」、及び10月から11月にかけて14テーマについて実施した「第2回課題調査」の結果をまとめたものです。

この報告書が、行政担当者のみならず、県民生活の現状と将来に関心を寄せる方々に広くご活用いただければ幸いです。

おわりに、このたびの調査にご協力いただきました県民の皆様をはじめ、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

神奈川県政策局長



## 目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

### 基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
-----------	---

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	11
-------------	----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	21
-------------	----

- 第1章 暮らし全般について
  - 1 生活総合満足度
  - 2 暮らし向きの変化
  - 3 今後の暮らし向きの見通し
  - 4 地域の住みよさ
  - 5 定住意向
- 第2章 生活意識
- 第3章 暮らしの満足度
  - 1 重要度
  - 2 満足度
- 第4章 県行政への要望

第Ⅳ部 県政への自由意見	91
--------------	----

第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	95
--------------------------	----

- 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）
- 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）
- 県行政への要望－過去との比較（図表C）

第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	121
----------------	-----

## 第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	135
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	143
第Ⅲ部 調査結果の詳細	155
第1章 食・食育	157
1 「食育」への関心	
2 朝食を同居の方と食べる頻度	
3 夕食を同居の方と食べる頻度	
4 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
5 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
6 歯と口の健康を保つために気をつけていること	
7 食事のマナーを正しくできていることへの意識	
8 健康的な食事内容の心がけ	
9 就寝前の食事を控えているか	
10 ゆっくりよく噛んで食べているか	
11 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか	
第2章 食の安全・安心	179
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第3章 神奈川県 of 農林水産業	185
1 「地産地消」の取組みの重要度	
2 農林水産物を購入する際に重視する点	
3 「かながわブランド」の認知度	
4 県の農業に期待する役割	
5 今後の県の農業に対する考え	
第4章 とともに生きる社会かながわ	195
1 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度	

2	ともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法	
3	身近で障がい者と接する機会	
4	障がい者に配慮した行動をとる人	
5	障がい者への差別・偏見の有無	
6	希望する手話の学習方法	
7	文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み	
第5章	男女共同参画	209
1	共働き家庭での育休取得	
2	妻が取得した方がよい育休期間	
3	夫が取得した方がよい育休期間	
4	妻が無職の家庭での夫の育休取得	
5	夫が無職の家庭での妻の育休取得	
6	男性の育休取得が進まない原因	
7	男性が積極的に育児にかかわるために必要なこと	
第6章	神奈川県の人権	223
1	基本的人権が尊重されている社会か	
2	普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題	
3	人権課題を解消するために力を入れるべき取組み	
4	人権教育・啓発活動で力を入れるべき取組み	
第7章	SDGs（持続可能な開発目標）	231
1	「SDGs」の認知度	
2	県のSDGs関連のイベントや普及啓発の取組みを知った媒体	
3	SDGs達成に向け行いたい取組み	
第8章	3R	237
1	3Rを推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動	
2	県に期待する役割	
第9章	プラスチックごみ削減に向けて	241
1	海洋プラスチックごみ問題の認知度	
2	プラスチックごみが河川から海へ流れ込んでいることの認知度	
3	リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていること	
4	海洋プラスチックごみ問題解決に向けて必要だと思う行動	
第10章	職業能力開発	249
1	就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能	
2	職業能力開発を行うことが望ましい期間と内容	
3	備わっているとよいと思う条件	
4	県が重点的に取り組むべきこと	
5	重点的に取り組むべき世代	
6	中心に進めていくべき職業能力開発	

第 11 章 犯罪被害者等への支援 -----	261
1 知っている犯罪被害者等への支援に関する相談機関・窓口	
2 「二次被害」の認知度	
3 「二次被害」を生じさせる可能性が高いと思うもの	
4 「二次被害」の防止に効果的だと思う取組み	
5 最初に相談する場所	
第 12 章 治安対策 -----	271
1 不安に感じる犯罪	
2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき	
3 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	
4 犯罪がなく安心してくらすために最も重要だと思うもの	
5 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの	
第 13 章 ねんりんピックかながわ -----	281
1 ねんりんピックかながわの開催の認知度	
2 「ねんりんピックかながわ」の観戦意向	
3 「ねんりんピックかながわ」のイベント参加意向	
4 ボランティア活動への興味・関心	
5 「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくために有効な方法	
第 V 部 調査票と単純集計結果 -----	291

## 第 2 回課題調査

第 I 部 調査の概要 -----	309
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第 II 部 調査結果の概要 -----	317
第 III 部 調査結果の詳細 -----	327
第 1 章 気候変動への適応 -----	331
1 「気候変動への適応」の認知度	
2 「気候変動への適応」への関心	
3 「気候変動への適応」の取組みが必要だと思うもの	



4 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由	
第2章 環境に配慮した生活	339
1 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望	
2 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望	
3 環境問題の情報収集の有無	
4 環境保全活動への参加希望	
5 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献	
第3章 生物多様性	349
1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度	
2 県における生物多様性の保全の取組みで重要なもの	
3 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組み	
第4章 アルコール依存症に対する意識	355
1 適度な飲酒量	
2 アルコールについて知っていること	
3 アルコール依存症について知っているもの	
4 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの	
5 アルコール依存症の相談意向	
第5章 肝炎対策	365
1 ウイルス性肝炎の認知度	
2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況	
3 検査結果の把握状況	
4 「肝炎ウイルス検査」を受検しない理由	
第6章 「未病改善」の取組み	373
1 「未病（ME-BYO）」の認知度	
2 「未病（ME-BYO）」の意味の認知度	
3 「未病改善」の取組みの実践	
4 「未病改善」の取組みに必要なだと思うもの	
第7章 かながわの広報	381
1 県の広報の達成度	
2 県の広報媒体の認知度	
3 県の情報の入手先	
第8章 地域コミュニティ	387
1 コロナ禍で増えていると思うコミュニケーション	
2 コロナ禍で増えているコミュニケーションの取りやすさ	
3 コロナ禍で増えているコミュニケーションが取りやすい理由	
4 コロナ禍で増えているコミュニケーションが取りにくい理由	
5 コロナ禍を機に始めたコミュニケーションの継続意向	

第9章 子育てにおける体罰 -----	397
1 体罰禁止が法定化されたことの認知度	
2 体罰が子どもに与える影響	
3 子どものしつけで困った時の相談先	
第10章 消防団の認知度 -----	403
1 消防団の認知度	
2 消防団への入団意向	
3 消防団の活動や消防団員の待遇で魅力を感じることに	
第11章 地震対策の取組み -----	409
1 大きな地震に備えた対策	
2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動	
3 「津波」に対する知識	
4 津波に対して実施が望まれる制度	
第12章 自転車損害賠償責任保険等の加入 -----	421
1 自転車の利用状況	
2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況	
3 自転車損害賠償責任保険等に加入することについての考え	
第13章 スポーツ -----	427
1 体力への自信の有無	
2 1年間のスポーツ実施日数	
3 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度	
4 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度	
5 「かながわのパラスポーツ」の認知度	
第14章 東京2020大会に関する取組み -----	437
1 セーリング競技への興味・関心	
2 セーリング競技の観戦意向	
3 セーリング競技の情報の入手方法	
4 大会開催時期に江の島を観光できることの認知度	
5 江の島の観光意向	
6 道路混雑緩和に向けた取組みへの協力意向	
<b>第V部 調査票と単純集計結果 -----</b>	<b>449</b>

# 第2回課題調査

## 第I部 調査の概要



## 1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

## 2 調査内容

- (1) 気候変動への適応
- (2) 環境に配慮した生活
- (3) 生物多様性
- (4) アルコール依存症に対する意識
- (5) 肝炎対策
- (6) 「未病改善」の取組み
- (7) かながわの広報
- (8) 地域コミュニティ
- (9) 子育てにおける体罰
- (10) 消防団の認知度
- (11) 地震対策の取組み
- (12) 自転車損害賠償責任保険等の加入
- (13) スポーツ
- (14) 東京2020大会に関する取組み

## 3 調査設計

- |            |                                      |
|------------|--------------------------------------|
| (1) 調査地域   | 神奈川県全域                               |
| (2) 調査対象   | 県内在住の満18歳以上の男女                       |
| (3) 標本数    | 3,000標本                              |
| (4) 標本抽出方法 | 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出                   |
| (5) 調査方法   | ア 郵送による調査票の配布<br>イ 郵送回答とインターネット回答の併用 |
| (6) 調査期間   | 令和2年10月30日（金）～11月24日（火）              |
| (7) 調査委託機関 | 株式会社 CCNグループ                         |

## 4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000標本
有効回収数	1,507標本 〔 郵送回答 : 951件 インターネット回答 : 556件 〕
有効回収率	50.2%

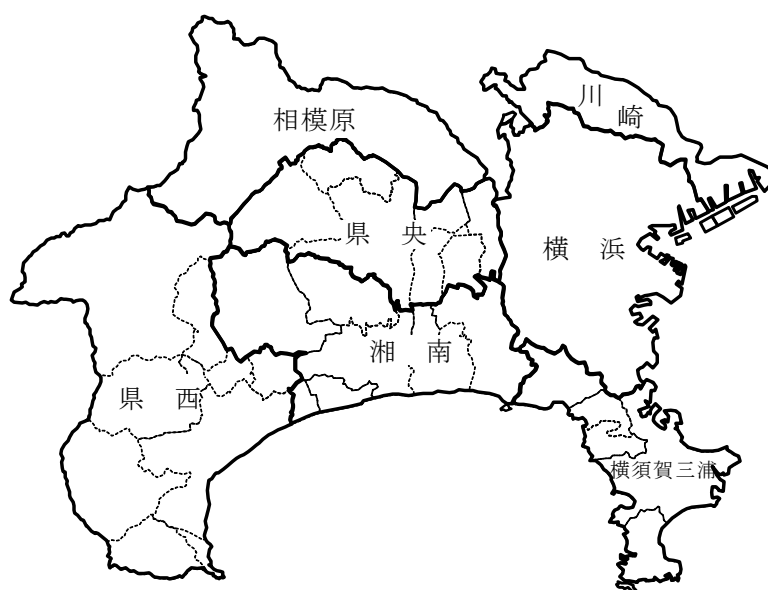
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	588	49.0
川崎	川崎市	460	212	46.1
相模原	相模原市	220	99	45.0
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	130	50.0
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	154	51.3
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	216	49.1
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	62	51.7
無 回 答			46	
全 体		3,000	1,507	50.2

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（平成31年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



## 地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,166,448人 60地点 1,200標本	-	-	3,166,448人 60地点 1,200標本
川 崎	1,257,176人 23地点 460標本	-	-	1,257,176人 23地点 460標本
相模原	612,764人 11地点 220標本	-	-	612,764人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	575,348人 12地点 240標本	26,162人 1地点 20標本	601,510人 13地点 260標本
県 央	-	680,966人 14地点 280標本	36,148人 1地点 20標本	717,114人 15地点 300標本
湘 南	-	1,011,601人 20地点 400標本	91,091人 2地点 40標本	1,102,692人 22地点 440標本
県 西	-	199,149人 4地点 80標本	93,221人 2地点 40標本	292,370人 6地点 120標本
人口計	5,036,388人	2,467,064人	246,622人	7,750,074人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（平成31年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

## 6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 男女の18～29歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がない場合がある。
- (7) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (8) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

## 7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本誤差  
 $N$  = 母集団数  
 $n$  = 回答者数  
 $P$  = 回答比率

上の式により、回答者数（ $n$ ）、および回答比率（ $P$ ）ごとに信頼度95%のときの標本誤差（%）を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率（ $P$ ） 回答者数（ $n$ ）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,507	± 2.19	± 2.91	± 3.34	± 3.57	± 3.64
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} \div 1$  として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（ $n$ ）が 1,507 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.57%以内（真の値は、63.57%～56.43%）である」とみることができる。



## 8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1,507) (%)

横浜	39.0
川崎	14.1
相模原	6.6
横須賀三浦	8.6
県央	10.2
湘南	14.3
県西	4.1

(無回答 3.1)

(2) 性別 (n=1,507) (%)

男性	41.7
女性	53.1

(無回答 5.2)

(3) 年齢 (n=1,507) (%)

18～29 歳	4.1
30～39 歳	13.2
40～49 歳	21.6
50～59 歳	23.0
60～69 歳	17.5
70～74 歳	10.7
75 歳以上	6.7

(無回答 3.2)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1,507) (%)

小学校入学前	10.4
小学校在学中	12.2
中学校在学中	7.7
高校在学中	8.6
短大、専門学校等在学中	1.4
大学、大学院等在学中	7.9
学校教育終了[未婚]	22.0
学校教育終了[既婚]	24.4
その他	2.8
子どもはいない	26.3

(無回答 4.2)

(5) 家族形態 (n=1,507) (%)

一人暮らし (単身世帯)	10.9
夫婦のみ (1 世代世帯)	26.5
親と子の世帯 (2 世代世帯)	48.2
祖父母と親と子の世帯 (3 世代世帯)	6.3
その他の世帯	4.5

(無回答 3.5)

(6) 職業区分 (n=1,507) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	5.8
	家族従業者	1.7
勤め・内職	勤め (フルタイム)	40.4
	勤め (パートタイム)	16.9
	内職	0.1
主婦・主夫 (勤めについていない)	16.7	
学生	0.6	
無職	13.3	
その他	1.3	

(無回答 3.3)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=978) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.4
	商工サービス業	5.8
	自由業	4.5
勤め・内職	経営・管理職	9.1
	専門・技術職	19.6
	事務職	21.8
	教育職	4.4
	技能・労務職	8.9
	販売・サービス職	21.5

(無回答 4.0)



## 第 2 回課題調査

# 第Ⅱ部 調査結果の概要



## 調査結果の概要

### 【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。  
例：問2で「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせたものを《関心がある》と表現している。  
また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

## 1 気候変動への適応（問1～問2-2）

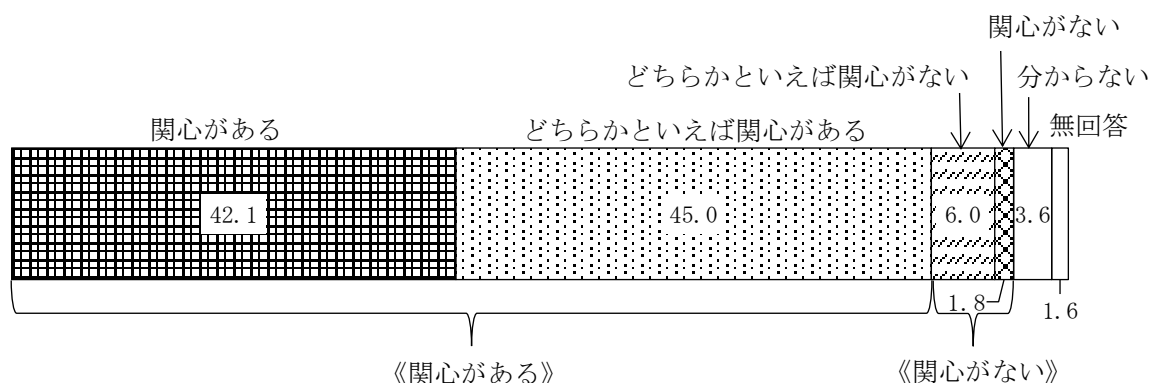
地球温暖化などの気候変動の影響は、熱中症搬送者数の増加、自然災害の発生などに、既に現れています。県では、こうした被害を避けたり、軽減したりする「気候変動への適応」の取組みを進めています。今回、「気候変動への適応」への関心などについて調査しました。

### ▼「気候変動への適応」への関心（問2）

「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（42.1%）と「どちらかといえば関心がある」（45.0%）を合わせた《関心がある》は87.1%であった。

一方、「関心がない」（1.8%）と「どちらかといえば関心がない」（6.0%）を合わせた《関心がない》は7.8%であった。[図表1]

図表1 「気候変動への適応」への関心（n=1,507）（%）



## 2 環境に配慮した生活（問3～問7）

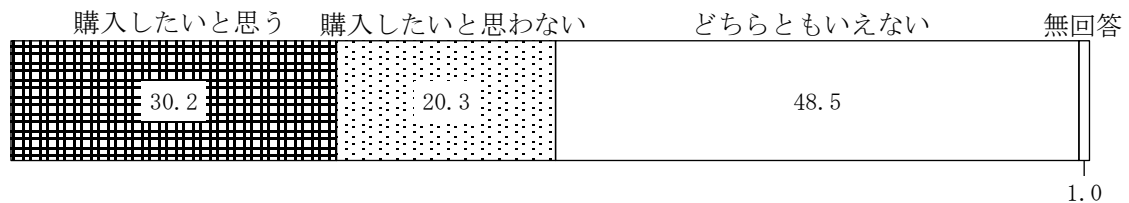
県では、神奈川県環境基本計画に基づき、環境施策に取り組んでいます。今回、再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望などについて調査しました。

### ▼再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望（問3）

多少値段が高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が30.2%であった。

一方、「購入したいと思わない」が20.3%であった。[図表2]

図表2 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望（n=1,507）（%）



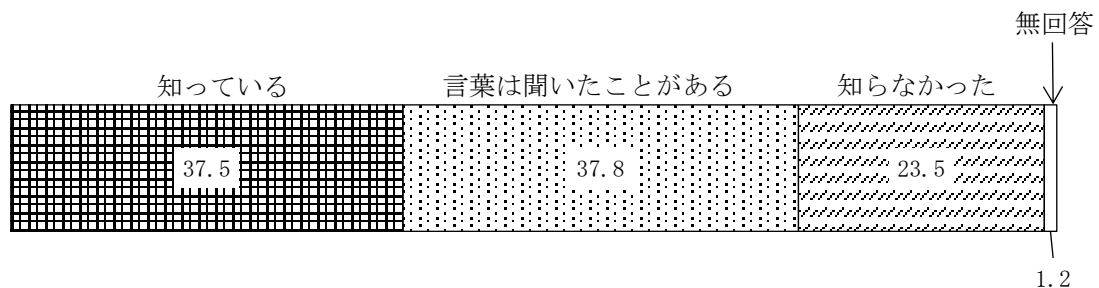
## 3 生物多様性（問8～問10）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、「生物多様性」の言葉の意味の認知度などについて調査しました。

### ▼「生物多様性」の言葉の意味の認知度（問8）

「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が37.5%であった。一方、「知らなかった」が23.5%であった。[図表3]

図表3 「生物多様性」の言葉の意味の認知度（n=1,507）（%）



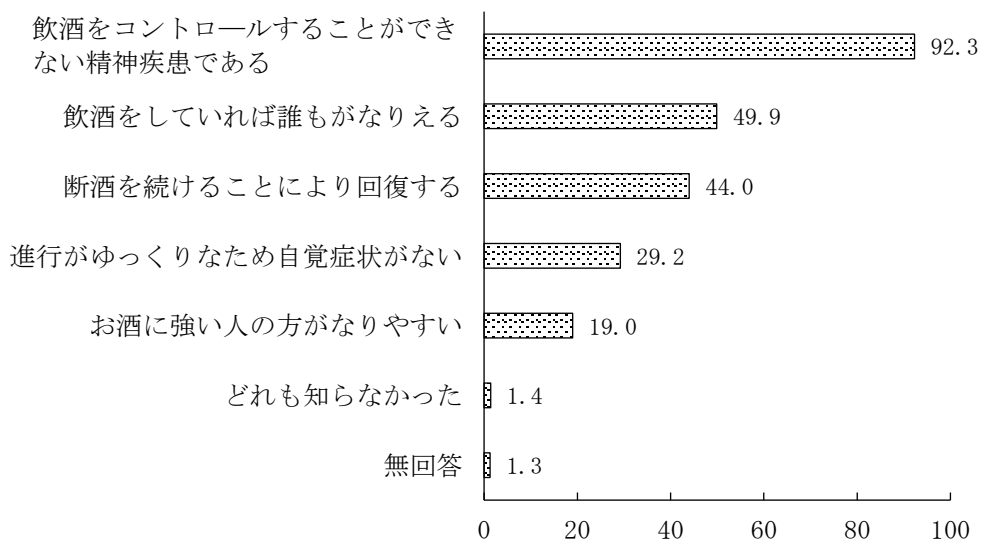
#### 4 アルコール依存症に対する意識（問 11～問 15）

県では、神奈川県アルコール健康障害対策推進計画を策定し、アルコール依存症者やその家族が、適切な治療や支援を受けることができるよう普及啓発や支援体制の充実等に取り組んでいます。今回、アルコール依存症について知っているものなどについて調査しました。

##### ▼アルコール依存症について知っているもの（問 13）

アルコール依存症について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「飲酒をコントロールすることができない精神疾患である」が 92.3%で最も多く、次いで「飲酒をしていれば誰もがなりえる」が 49.9%であった。[図表 4]

図表 4 アルコール依存症について知っているもの（複数回答）（n=1,507）（%）



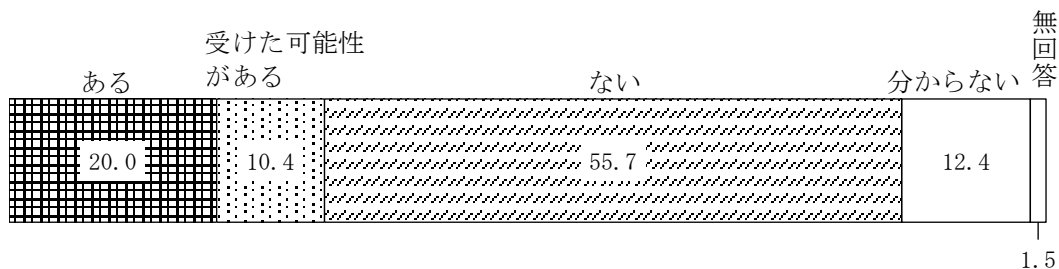
#### 5 肝炎対策（問 16～問 17-2）

県では、神奈川県肝炎対策推進計画を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

##### ▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 17）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 20.0%であった。一方、「ない」が 55.7%であった。[図表 5]

図表 5 「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,507）（%）



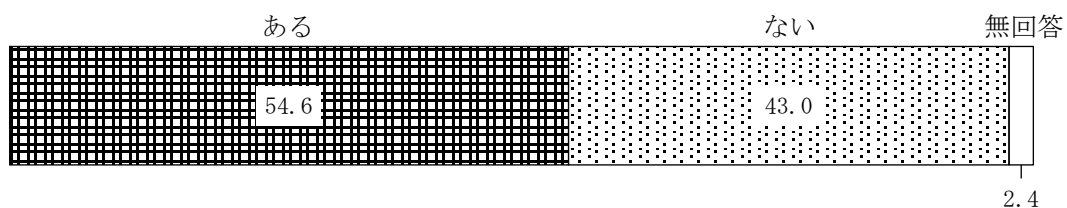
## 6 「未病改善」の取組み（問 18～問 20）

「未病」とは、健康と病気を2つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。今回、「未病（ME-BYO）」の認知度などについて調査しました。

### ▼「未病（ME-BYO）」の認知度（問 18）

「未病（ME-BYO）」という言葉聞いたことがあるか尋ねたところ、「ある」が54.6%であった。一方、「ない」が43.0%であった。〔図表6〕

図表6 「未病（ME-BYO）」の認知度（n=1,507）（%）



## 7 かながわの広報（問 21～問 23）

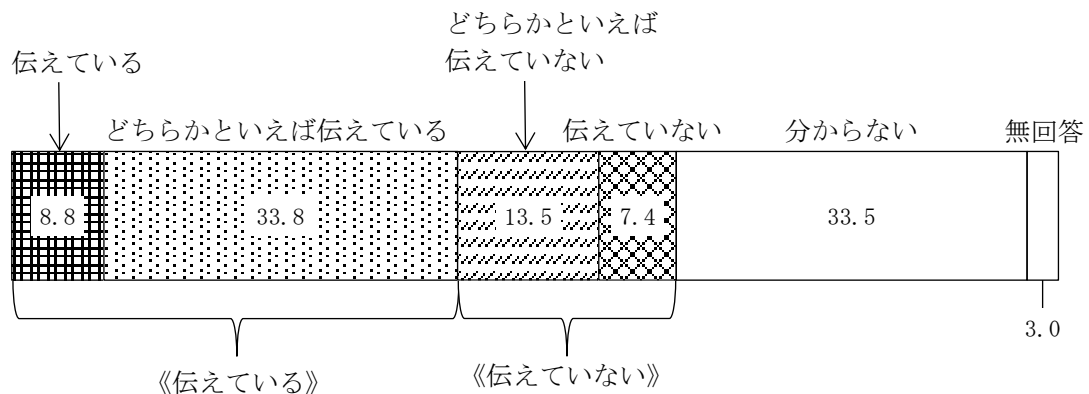
県では、「県のたより」などの広報紙や県提供のテレビ・ラジオ番組、インターネット、ホームページなどを通じて、いろいろな県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

### ▼県の広報の達成度（問 21）

県が県政の情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」（8.8%）と「どちらかといえば伝えている」（33.8%）を合わせた《伝えている》は42.5%であった。

一方、「伝えていない」（7.4%）と「どちらかといえば伝えていない」（13.5%）を合わせた《伝えていない》は21.0%であった。〔図表7〕

図表7 県の広報の達成度（n=1,507）（%）





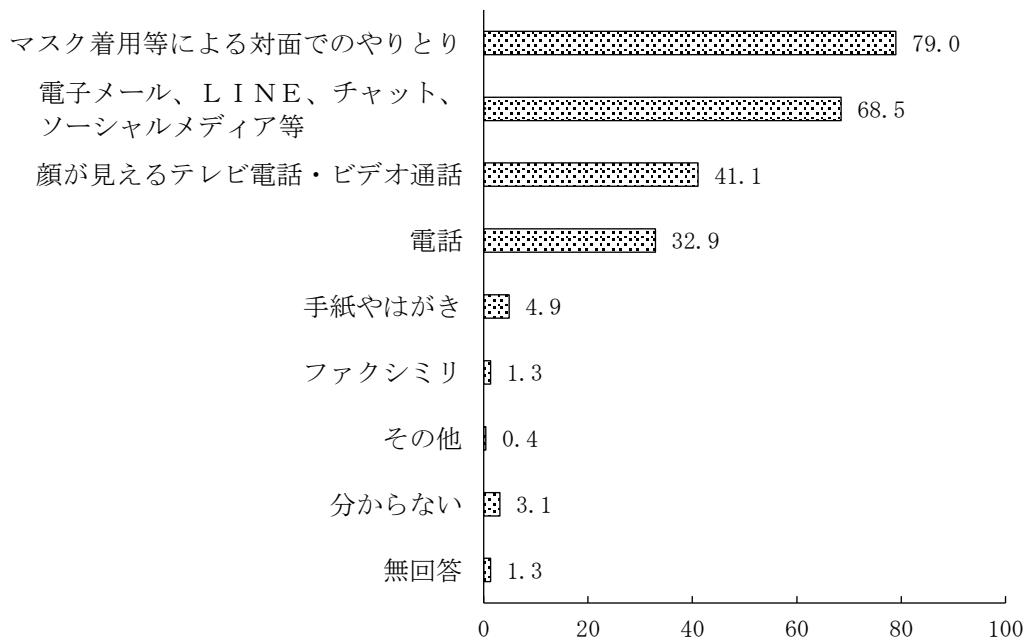
## 8 地域コミュニティ（問 24～問 25）

県では、高齢化の進展による地域コミュニティの衰退など住生活に係る課題解決に向けて、「多世代居住のまちづくり」などの施策を推進しています。今回、コロナ禍で増えていると思うコミュニケーションなどについて調査しました。

### ▼コロナ禍で増えていると思うコミュニケーション（問 24）

3密を避ける生活様式が求められる中、地域住民・家族・親族・友人等とのコミュニティにおいて、どのような手段によるコミュニケーションが増えていると思うか複数回答で尋ねたところ、「マスク着用等による対面でのやりとり」が 79.0%で最も多く、次いで「電子メール、LINE、チャット、ソーシャルメディア等」が 68.5%であった。〔図表 8-1〕

図表 8-1 コロナ禍で増えていると思うコミュニケーション（n=1,507）（%）

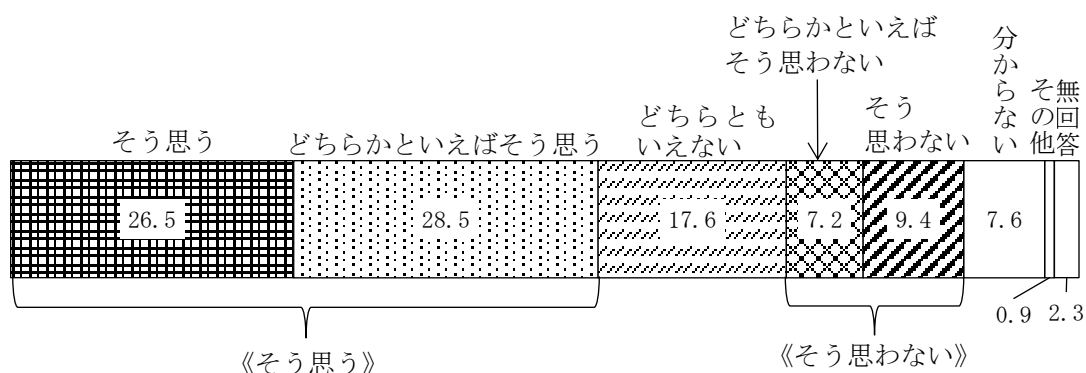


### ▼コロナ禍を機に始めたコミュニケーションの継続意向（問 25）

コロナ禍を機に始めたコミュニケーションの取り方を今後も続けたいと思うか尋ねたところ、「そう思う」（26.5%）と「どちらかといえばそう思う」（28.5%）を合わせた《そう思う》は 55.0%であった。

一方、「そう思わない」（9.4%）と「どちらかといえばそう思わない」（7.2%）を合わせた《そう思わない》は 16.7%であった。〔図表 8-2〕

図表 8-2 コロナ禍を機に始めたコミュニケーションの継続意向（n=1,507）（%）



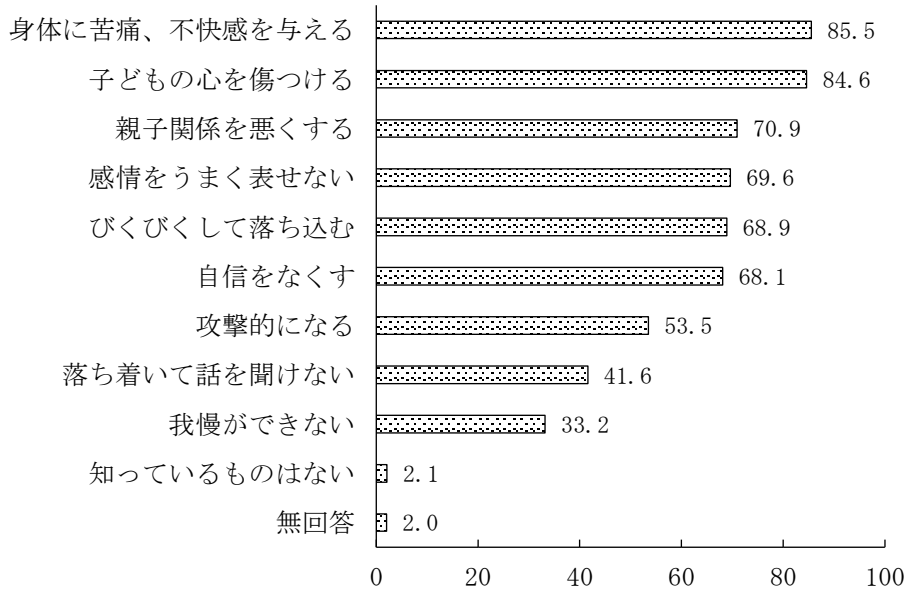
## 9 子育てにおける体罰（問 26～問 28）

県では、令和元年6月に改正された児童虐待防止法等に盛り込まれた体罰禁止について、様々な方法により普及啓発を行い、子どもから大人まで幅広くこの認識を広げることで、虐待の未然防止に取り組んでいます。今回、子育てにおける体罰の認識などについて調査しました。

### ▼体罰が子どもに与える影響（問 27）

体罰等が子どもに与える影響について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「身体に苦痛、不快感を与える」が85.5%で最も多く、次いで「子どもの心を傷つける」が84.6%であった。[図表9]

図表9 体罰が子どもに与える影響（複数回答）（n=1,507）（%）



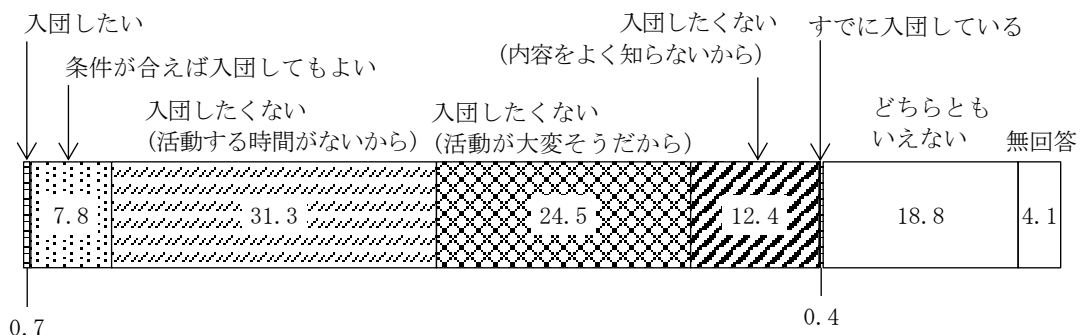
## 10 消防団の認知度（問 29～問 31）

県では、地域の安全・安心を支える地域防災の要である消防団の充実強化のための取組みを進めています。今回、消防団の入団意向などについて調査しました。

### ▼消防団への入団意向（問 30）

消防団に入団したいと思うか尋ねたところ、「入団したくない(活動する時間がないから)」が31.3%で最も多く、次いで「入団したくない(活動が大変そうだから)」が24.5%であった。[図表10]

図表10 消防団への入団意向（n=1,507）（%）



## 11 地震対策の取組み（問 32～問 35）

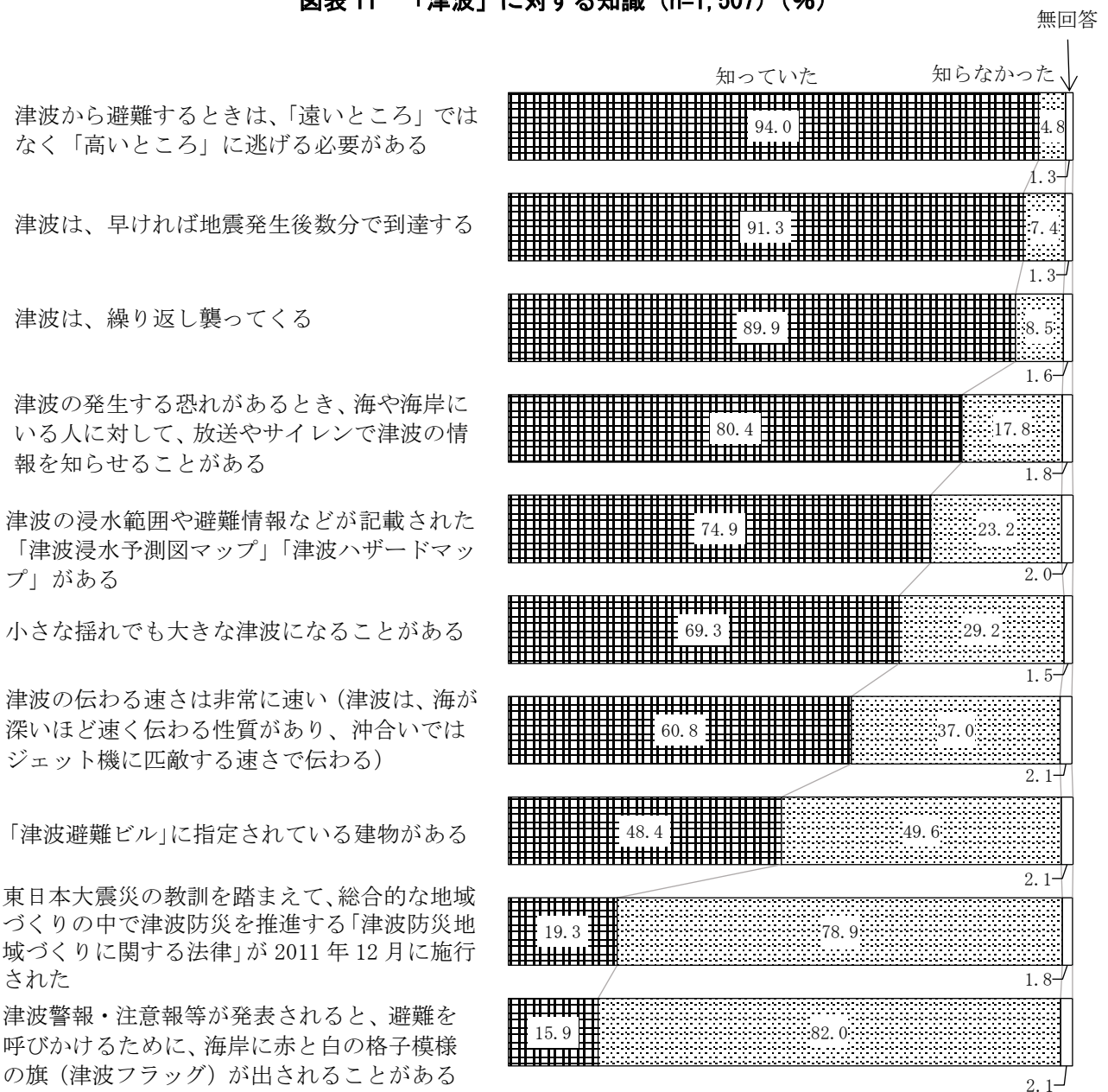
県では、「県民のいのちを守る」ことを最優先としたアクションプランである地震防災戦略を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、「津波」に対する知識や理解などについて調査しました。

### ▼「津波」に対する知識（問 34）

津波に関する 10 項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」が 94.0%で最も多かった。

一方、「知らなかった」では、「津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸に赤と白の格子模様の旗（津波フラッグ）が出されることがある」が 82.0%で最も多かった。〔図表 11〕

図表 11 「津波」に対する知識（n=1,507）（%）



## 12 自転車損害賠償責任保険等の加入（問 36～問 37）

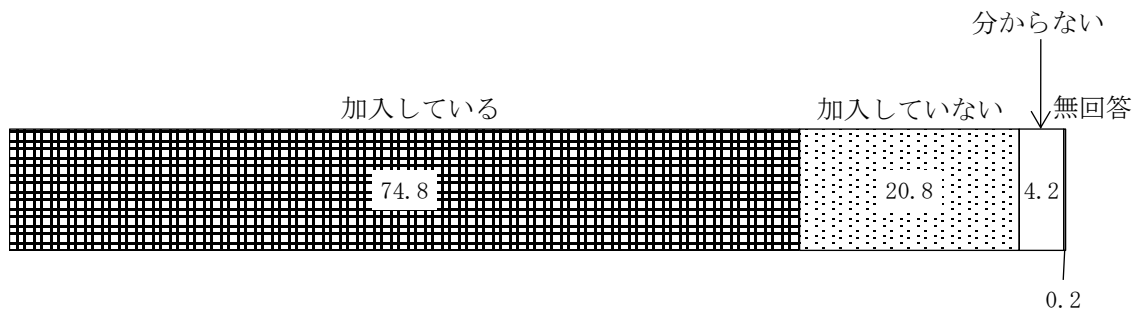
県では、自転車利用者が加害者となる重大事故の発生や全国的に自転車に関係する交通事故で高額な賠償が命じられる判決が出ている状況から、自転車の安全で適正な利用の促進と自転車損害賠償責任保険等の加入義務化を柱とした「神奈川県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を平成31年4月に施行しました。今回、自転車損害賠償責任保険等の加入状況などについて調査しました。

### ▼自転車損害賠償責任保険等への加入状況（問 36-1）

自転車の利用状況（問 36）で「利用している」と回答した480人に、自転車損害賠償責任保険等に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が74.8%であった。

一方、「加入していない」が20.8%であった。[図表 12]

図表 12 自転車損害賠償責任保険等への加入状況（n=480）（%）



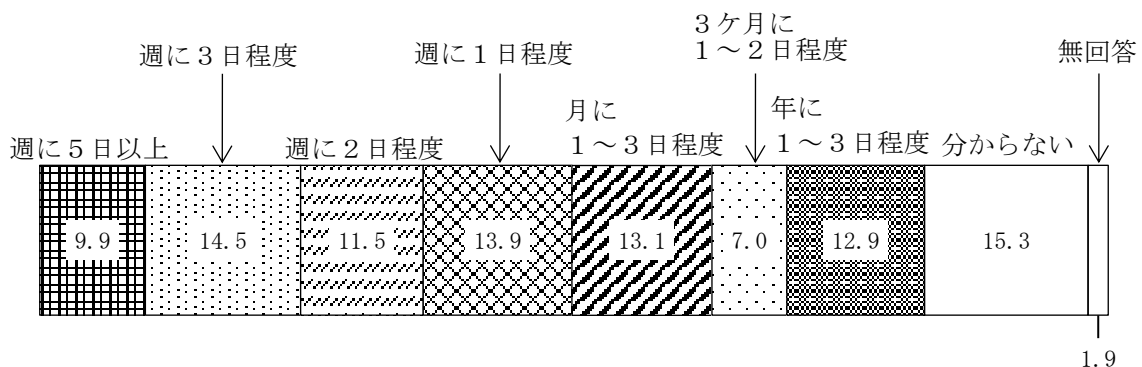
## 13 スポーツ（問 38～問 42）

県では、神奈川県スポーツ推進条例に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

### ▼1年間のスポーツ実施日数（問 39）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度」が14.5%で最も多く、次いで「週に1日程度」が13.9%であった。[図表 13]

図表 13 1年間のスポーツ実施日数（n=1,507）（%）



## 14 東京 2020 大会に関する取組み（問 43～問 48）

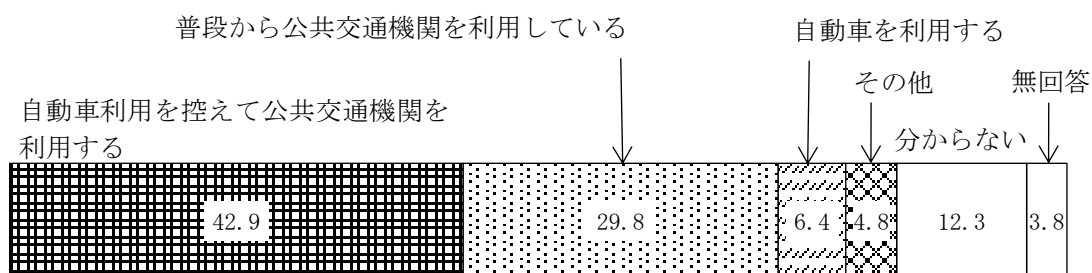
県は、野球・ソフトボールや自転車競技など 4 競技の会場所在自治体であり、なかでも、セーリング競技は会場所所有自治体として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020 大会）に向けた取組みを進めています。今回、東京 2020 大会のセーリング競技開催時における道路混雑緩和に向けた取組みへの協力意向などについて調査しました。

### ▼道路混雑緩和に向けた取組みへの協力意向（問 48）

東京 2020 オリンピック競技大会開催時に、江の島周辺へ行く際、道路混雑緩和のため公共交通機関の利用を呼びかけられた場合、どう行動するか尋ねたところ、「自動車利用を控えて公共交通機関を利用する」が 42.9%で最も多く、次いで「普段から公共交通機関を利用している」が 29.8%であった。

[図表 14]

図表 14 道路混雑緩和に向けた取組みへの協力意向（n=1,507）（%）





# 第Ⅲ部 調査結果の詳細

### 【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 男女の18～29歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がない場合がある。
- (注7) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。





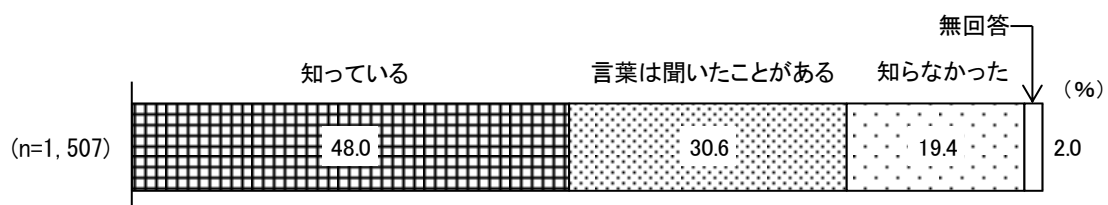
## 第1章 気候変動への適応【問1～問2-2】

### 1 「気候変動への適応」の認知度【問1】

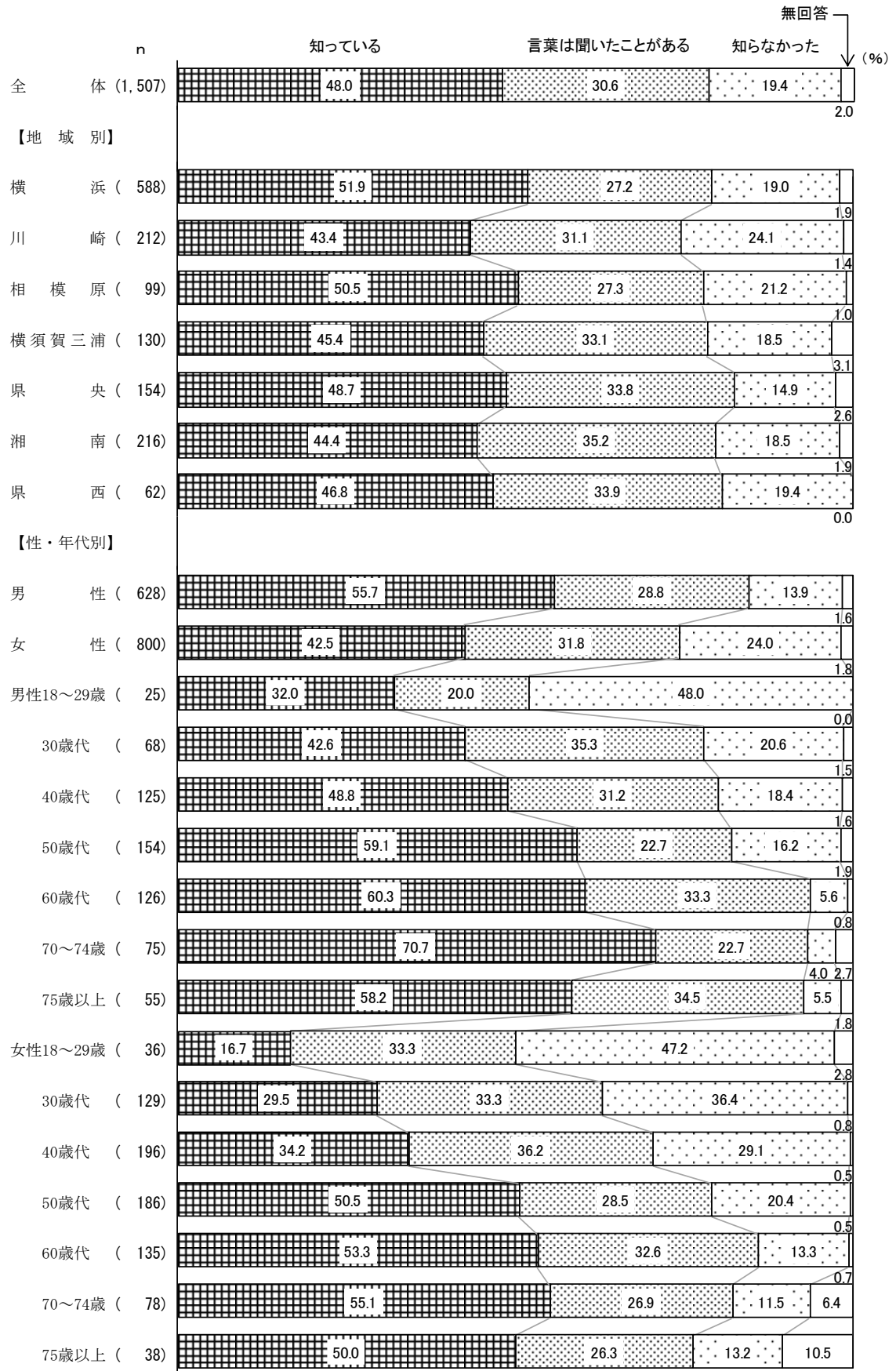
#### 【全体の状況】

「気候変動への適応」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が48.0%であった。一方、「知らなかった」は、19.4%であった。(図表1-1-1)

図表1-1-1 「気候変動への適応」の認知度



図表1-1-2 「気候変動への適応」の認知度—地域別、性・年代別



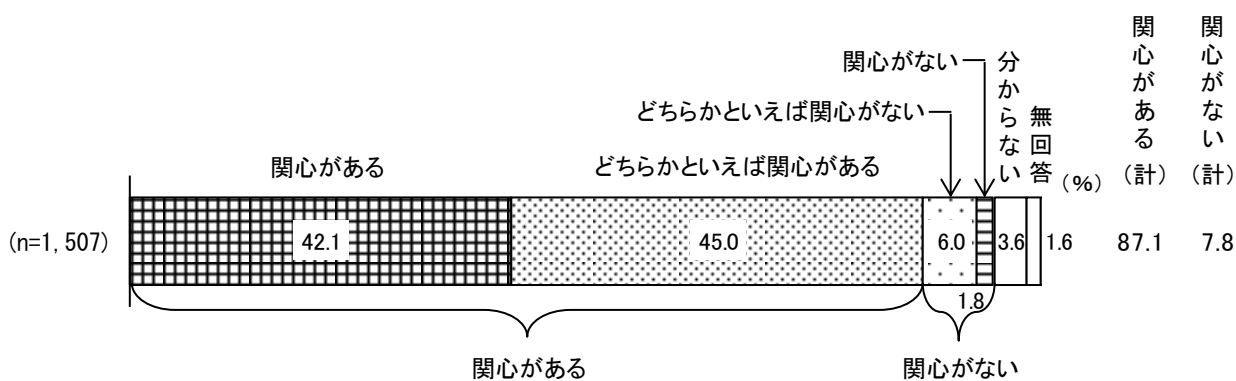
## 2 「気候変動への適応」への関心【問2】

### 【全体の状況】

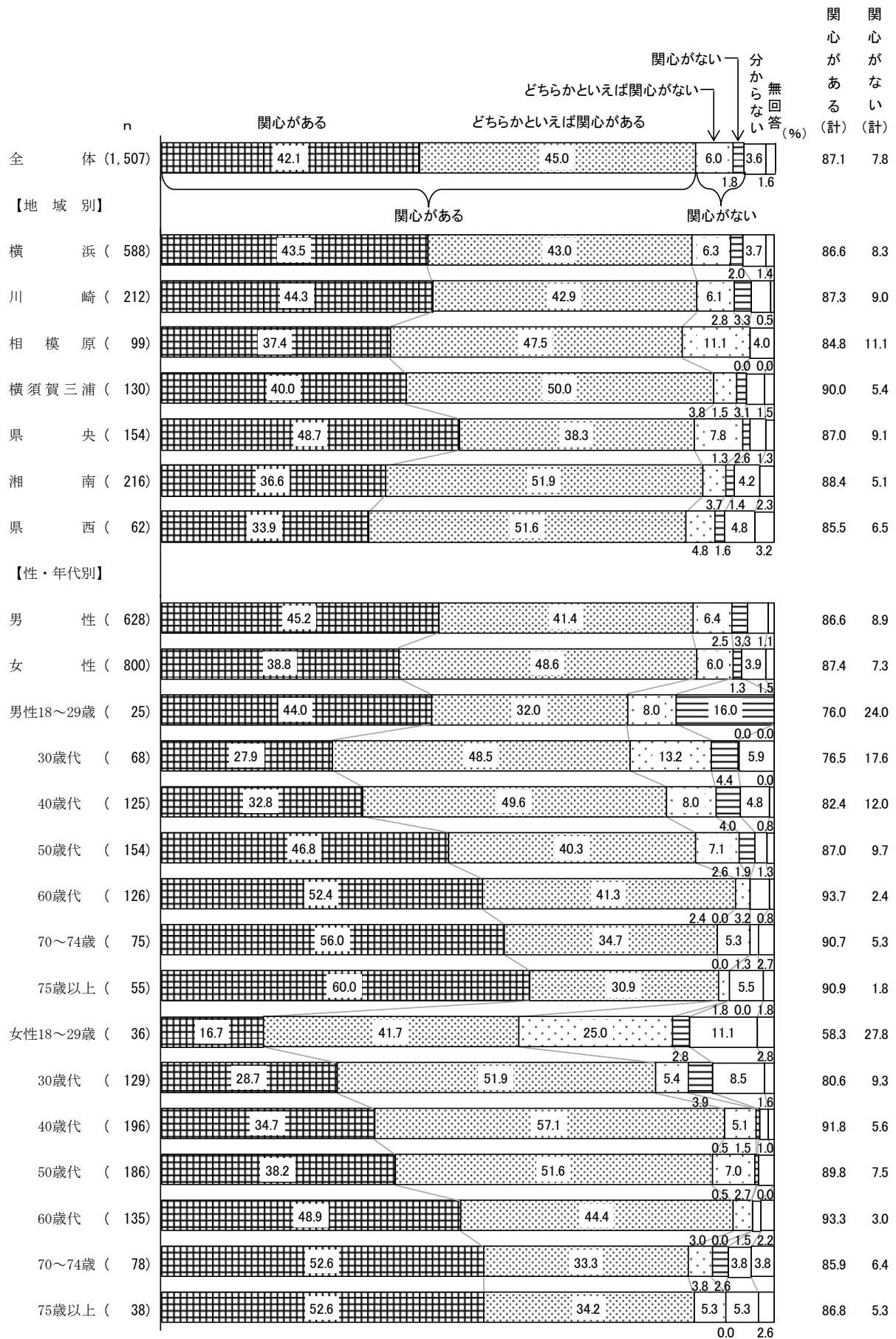
「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(42.1%)と「どちらかといえば関心がある」(45.0%)を合わせた《関心がある》が87.1%であった。

一方、「関心がない」(1.8%)と「どちらかといえば関心がない」(6.0%)を合わせた《関心がない》は7.8%であった。(図表1-2-1)

図表1-2-1 「気候変動への適応」への関心



図表1-2-2 「気候変動への適応」への関心—地域別、性・年代別

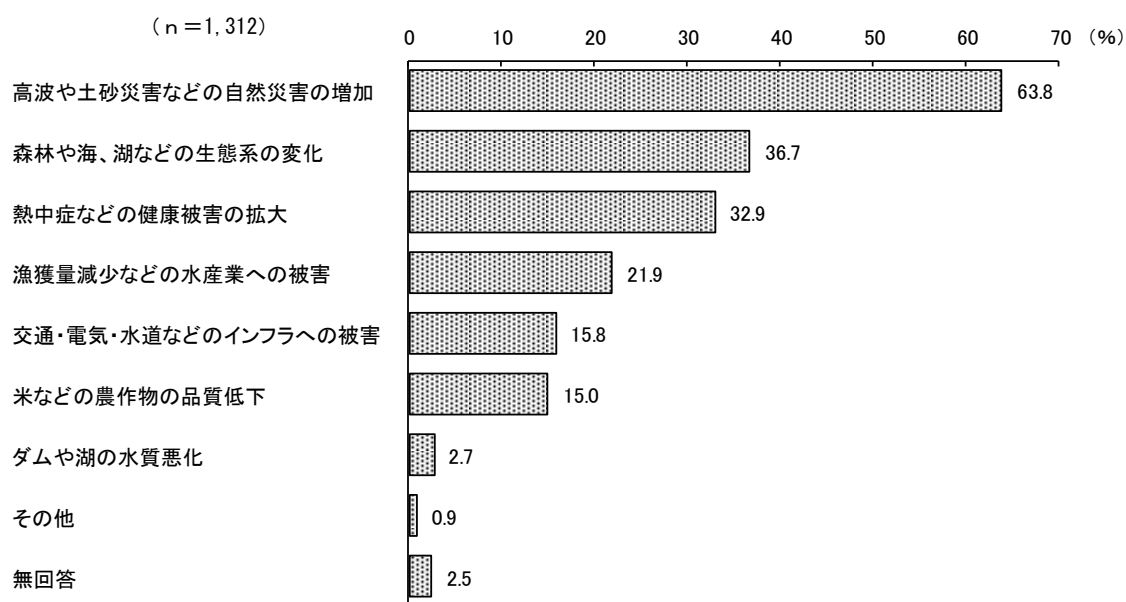


### 3 「気候変動への適応」の取組みが必要だと思うもの【問2-1】

#### 【全体の状況】

「気候変動への適応」への関心（問2）で、《関心がある》と回答した1,312人に気候変動の影響のうち、特に「気候変動への適応」の取組みが必要だと思うものを複数回答（2つまで選択可）で尋ねたところ、「高波や土砂災害などの自然災害の増加」が63.8%で最も多く、次いで「森林や海、湖などの生態系の変化」が36.7%であった。（図表1-3-1）

図表1-3-1 「気候変動への適応」の取組みが必要だと思うもの（複数回答）



図表1-3-2 「気候変動への適応」の取組みが必要だと思うもの（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

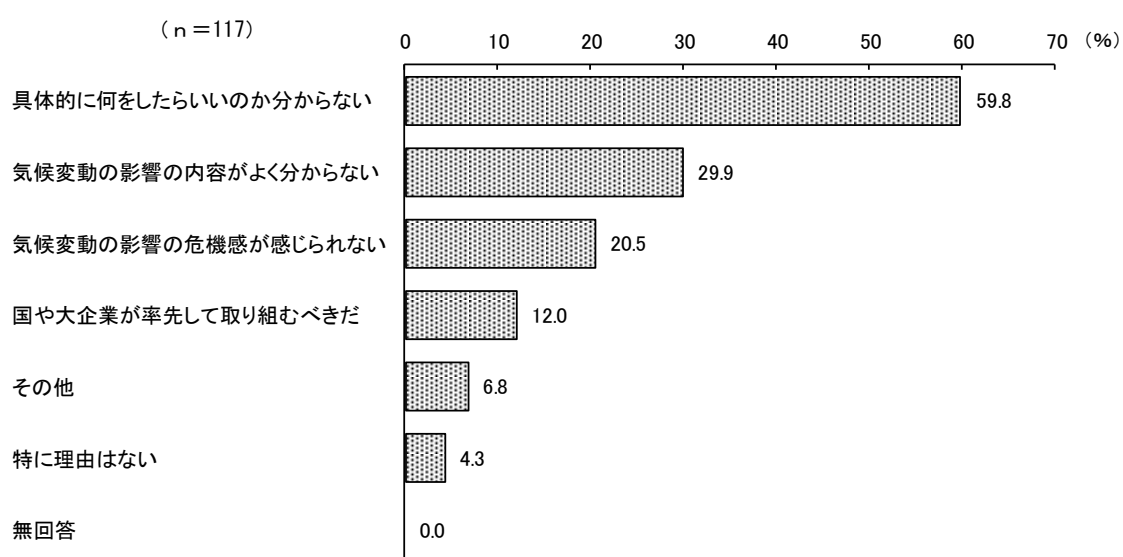
	n	増加 高波や土砂災害などの自然災害の	森林や海、湖などの生態系の変化	熱中症などの健康被害の拡大	漁獲量減少などの水産業への被害	交通・電気・水道などのインフラへの被害	米などの農作物の品質低下	ダムや湖の水質悪化	その他	無回答
全体	1,312	63.8	36.7	32.9	21.9	15.8	15.0	2.7	0.9	2.5
【地域別】										
横浜	509	63.3	36.3	27.9	25.9	16.1	14.7	3.1	0.4	2.9
川崎	185	64.3	40.0	35.7	17.3	15.1	16.8	2.2	2.2	2.2
相模原	84	61.9	32.1	35.7	16.7	19.0	20.2	3.6	1.2	3.6
横須賀三浦	117	65.8	43.6	39.3	16.2	13.7	8.5	1.7	0.9	3.4
県央	134	64.9	35.8	38.8	23.9	15.7	11.9	3.0	1.5	-
湘南	191	61.8	37.2	34.6	19.4	14.7	17.3	3.1	0.5	2.1
県西	53	69.8	24.5	35.8	22.6	24.5	15.1	-	1.9	-
【性・年代別】										
男性	544	62.5	36.0	28.9	25.0	18.0	16.7	2.2	1.5	1.7
女性	699	65.1	38.2	36.2	19.6	14.2	13.4	3.1	0.3	2.7
男性18～29歳	19	57.9	36.8	36.8	21.1	42.1	-	-	-	-
30歳代	52	55.8	25.0	32.7	19.2	25.0	19.2	3.8	1.9	5.8
40歳代	103	57.3	39.8	29.1	25.2	21.4	15.5	2.9	1.9	1.0
50歳代	134	61.2	43.3	28.4	25.4	13.4	18.7	2.2	0.7	0.7
60歳代	118	68.6	33.1	28.8	25.4	12.7	15.3	1.7	2.5	1.7
70～74歳	68	67.6	29.4	23.5	27.9	16.2	25.0	1.5	1.5	-
75歳以上	50	64.0	36.0	30.0	26.0	22.0	10.0	2.0	-	4.0
女性18～29歳	21	76.2	33.3	33.3	14.3	14.3	19.0	-	-	-
30歳代	104	56.7	41.3	37.5	18.3	10.6	20.2	4.8	-	2.9
40歳代	180	66.7	38.3	32.8	22.8	13.3	16.7	2.2	0.6	0.6
50歳代	167	67.1	38.3	36.5	19.8	12.6	9.6	2.4	0.6	4.8
60歳代	126	69.0	39.7	40.5	14.3	15.1	9.5	4.0	-	3.2
70～74歳	67	65.7	37.3	34.3	20.9	17.9	10.4	4.5	-	1.5
75歳以上	33	51.5	27.3	39.4	24.2	27.3	9.1	3.0	-	6.1

#### 4 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由【問2-2】

##### 【全体の状況】

「気候変動への適応」への関心（問2）で、「関心がない」と回答した117人に「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由を複数回答（2つまで選択可）で尋ねたところ、「具体的に何をしたらいいのかわからない」が59.8%で最も多く、次いで「気候変動の影響の内容がよくわからない」が29.9%であった。（図表1-4-1）

図表1-4-1 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由（複数回答）



図表1-4-2 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由（複数回答）

－地域別、性・年代別

（サンプル数が少ないため参考）

（％）

	n	具体的な何をしたらいいのかわからない	気候変動の影響の内容がよくわからない	気候変動の影響の危機感が感じられない	国や大企業が率先して取り組むべきだ	その他	特に理由はない	無回答
全体	117	59.8	29.9	20.5	12.0	6.8	4.3	-
【地域別】								
横浜	49	59.2	32.7	20.4	8.2	10.2	4.1	-
川崎	19	63.2	36.8	15.8	26.3	-	5.3	-
相模原	11	63.6	36.4	9.1	-	9.1	-	-
横須賀三浦	7	71.4	28.6	28.6	-	14.3	-	-
県央	14	71.4	28.6	14.3	7.1	-	7.1	-
湘南	11	45.5	9.1	45.5	9.1	9.1	9.1	-
県西	4	50.0	-	25.0	50.0	-	-	-
【性・年代別】								
男性	56	51.8	30.4	21.4	14.3	10.7	7.1	-
女性	58	69.0	29.3	20.7	8.6	3.4	1.7	-
男性18～29歳	6	33.3	50.0	16.7	-	-	33.3	-
30歳代	12	66.7	41.7	-	8.3	25.0	-	-
40歳代	15	40.0	26.7	33.3	20.0	13.3	6.7	-
50歳代	15	46.7	13.3	33.3	20.0	6.7	-	-
60歳代	3	66.7	-	-	33.3	-	33.3	-
70～74歳	4	75.0	75.0	25.0	-	-	-	-
75歳以上	1	100.0	-	-	-	-	-	-
女性18～29歳	10	80.0	30.0	20.0	10.0	-	10.0	-
30歳代	12	41.7	66.7	25.0	8.3	-	-	-
40歳代	11	81.8	9.1	27.3	9.1	-	-	-
50歳代	14	64.3	7.1	28.6	7.1	7.1	-	-
60歳代	4	100.0	50.0	-	-	-	-	-
70～74歳	5	60.0	20.0	-	20.0	20.0	-	-
75歳以上	2	100.0	50.0	-	-	-	-	-



## 第2章 環境に配慮した生活【問3～問7】

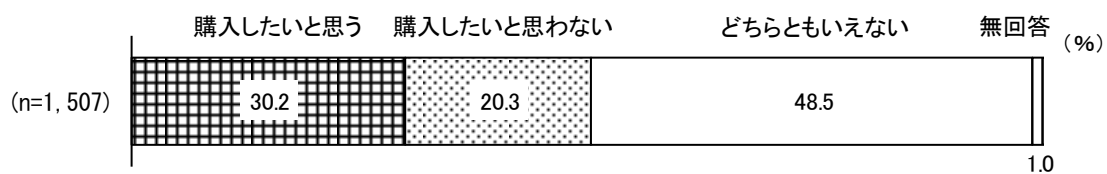
### 1 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望【問3】

#### 【全体の状況】

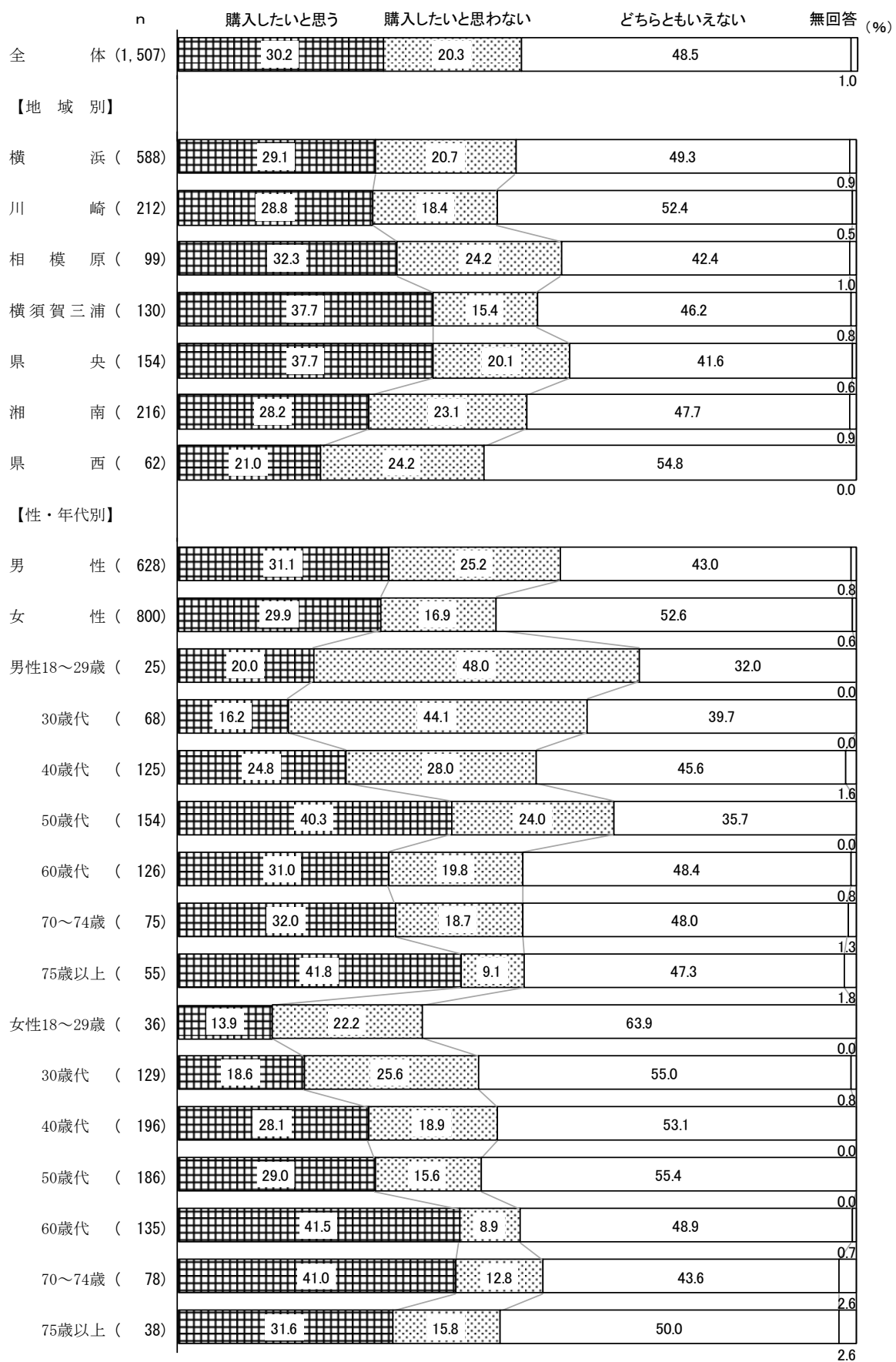
多少値段が高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が30.2%であった。

一方、「購入したいと思わない」が20.3%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望



図表2-1-2 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望—地域別、性・年代別



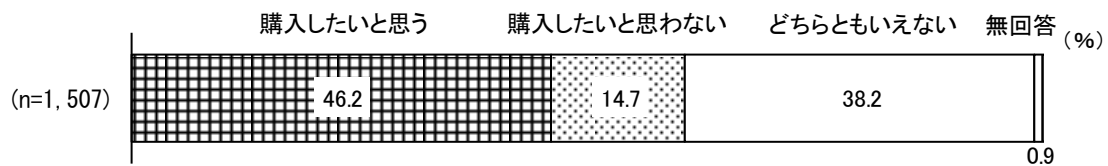
## 2 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望【問4】

### 【全体の状況】

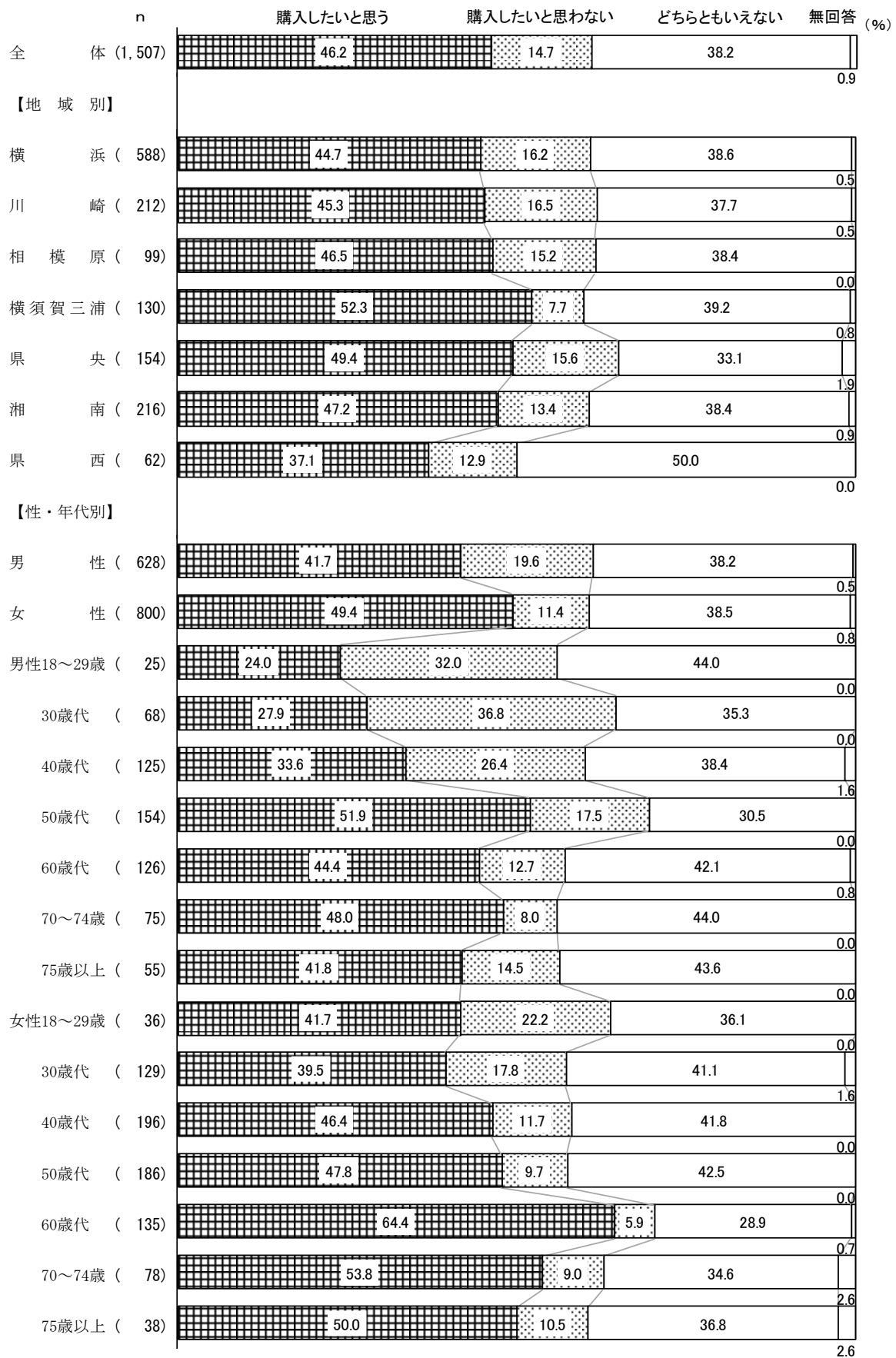
多少値段が高くても有機栽培など環境にやさしい方法で作られた農作物を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が46.2%であった。

一方、「購入したいと思わない」が14.7%であった。(図表2-2-1)

図表2-2-1 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望



図表2-2-2 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望－地域別、性・年代別



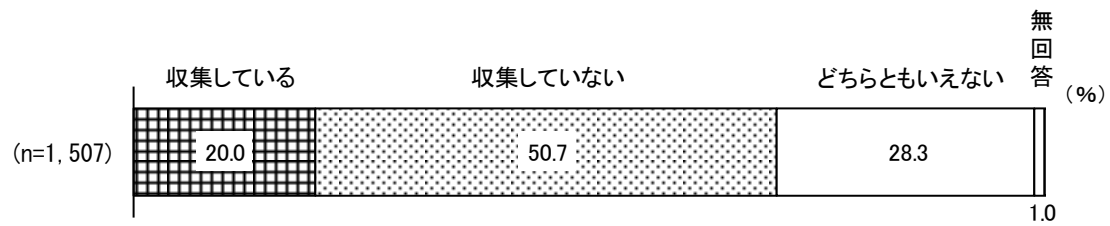
### 3 環境問題の情報収集の有無【問5】

#### 【全体の状況】

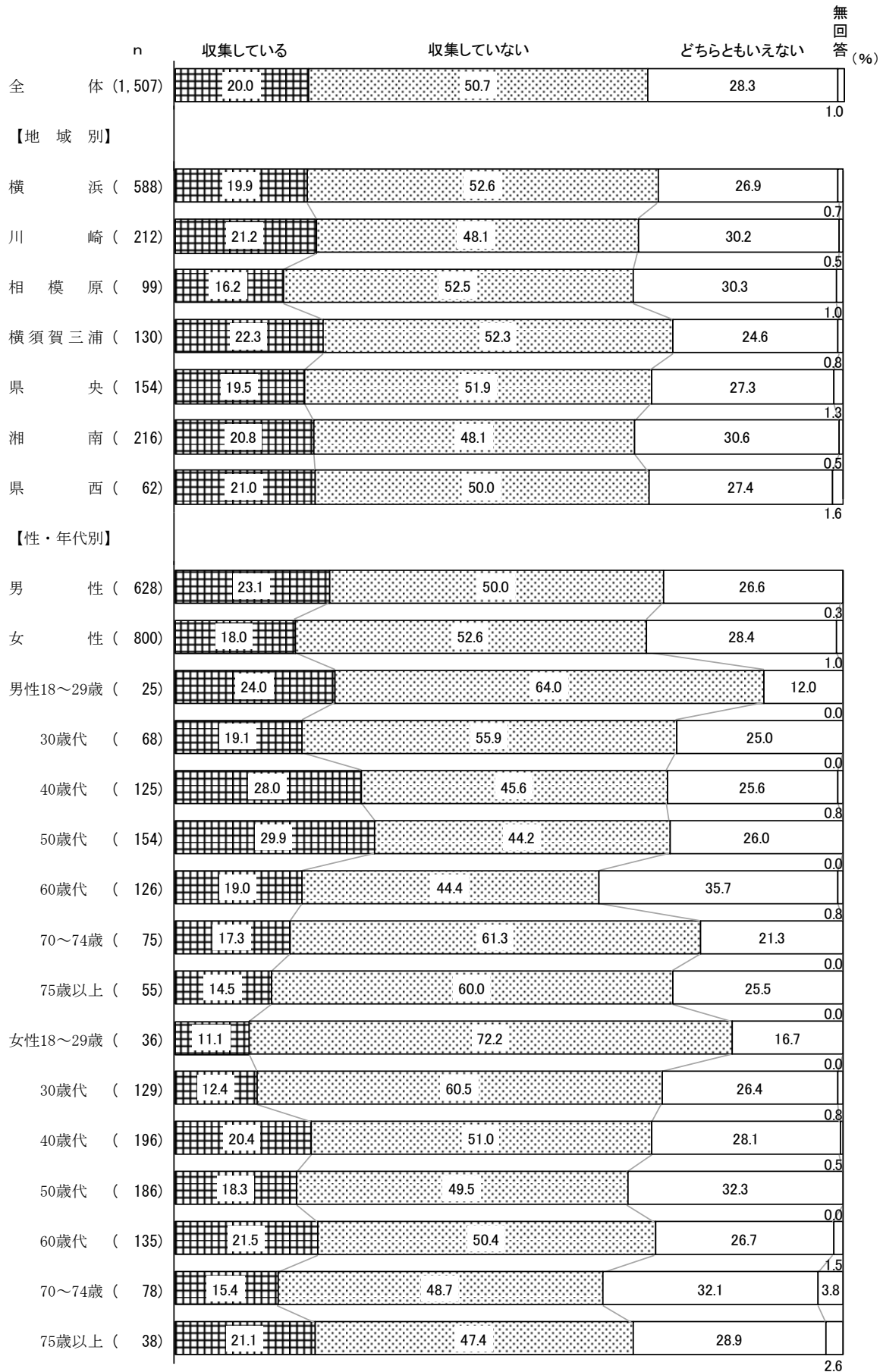
興味のある環境問題について情報を収集しているか尋ねたところ、「収集している」が20.0%であった。

一方、「収集していない」が50.7%であった。(図表2-3-1)

図表2-3-1 環境問題の情報収集の有無



図表2-3-2 環境問題の情報収集の有無—地域別、性・年代別



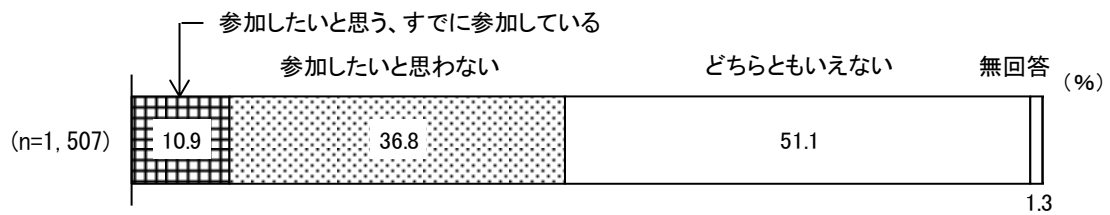
#### 4 環境保全活動への参加希望【問6】

##### 【全体の状況】

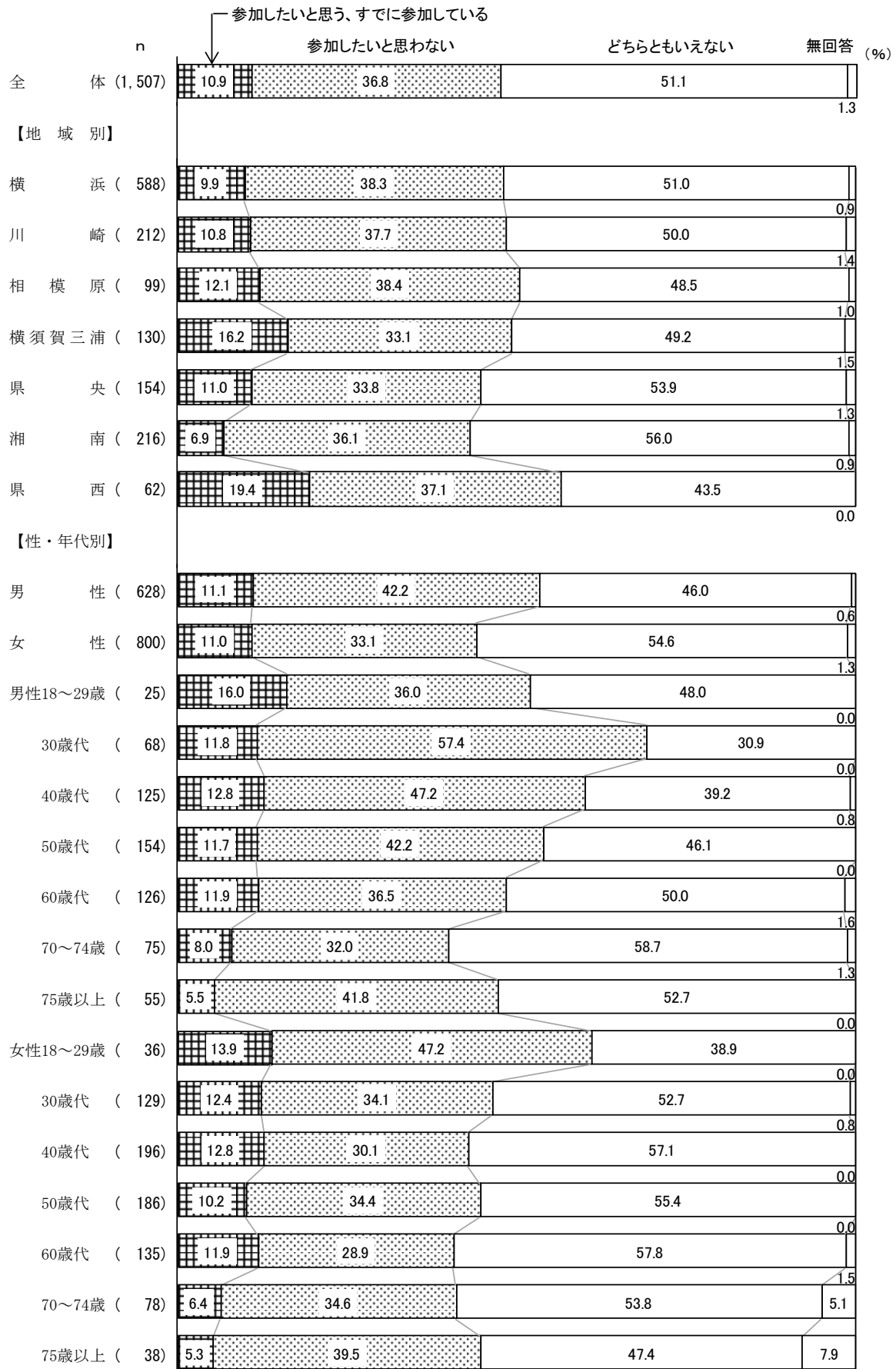
NPO等が行っている環境保全活動に参加したいか尋ねたところ、「参加したいと思う、すでに参加している」が10.9%であった。

一方、「参加したいと思わない」が36.8%であった。(図表2-4-1)

図表2-4-1 環境保全活動への参加希望



図表2-4-2 環境保全活動への参加希望—地域別、性・年代別





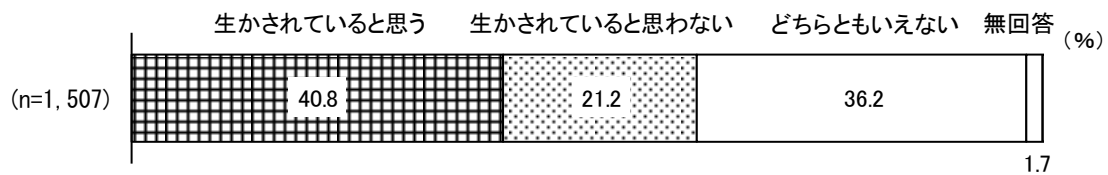
## 5 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献【問7】

### 【全体の状況】

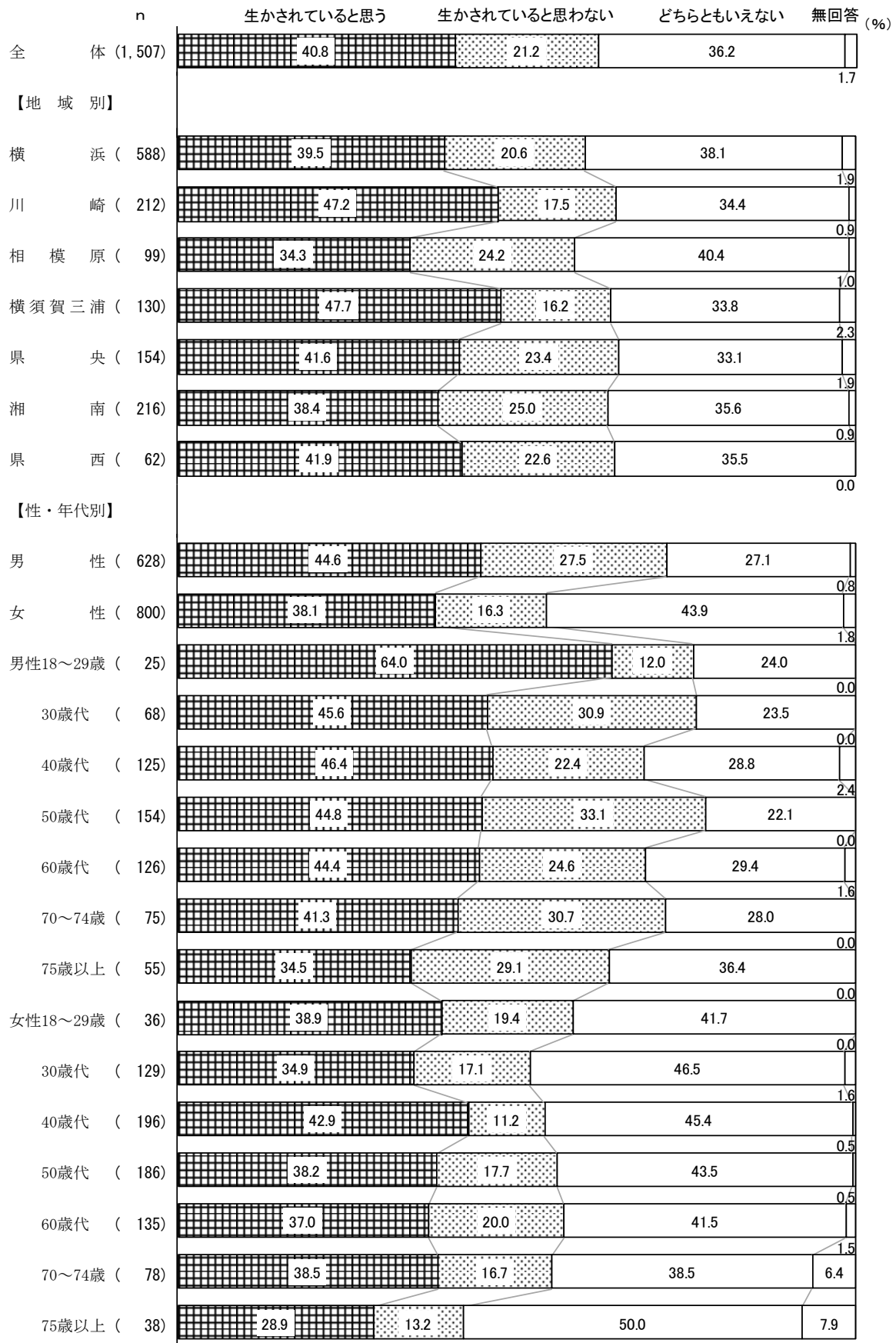
企業等の持つ技術力が地球温暖化などの環境問題の解決に生かされていると思うか尋ねたところ、「生かされていると思う」が40.8%であった。

一方、「生かされていると思わない」が21.2%であった。(図表2-5-1)

図表2-5-1 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献



図表2-5-2 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献—地域別、性・年代別



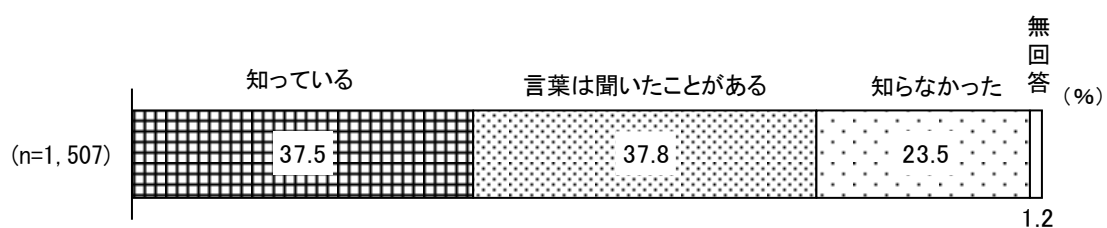
### 第3章 生物多様性【問8～問10】

#### 1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度【問8】

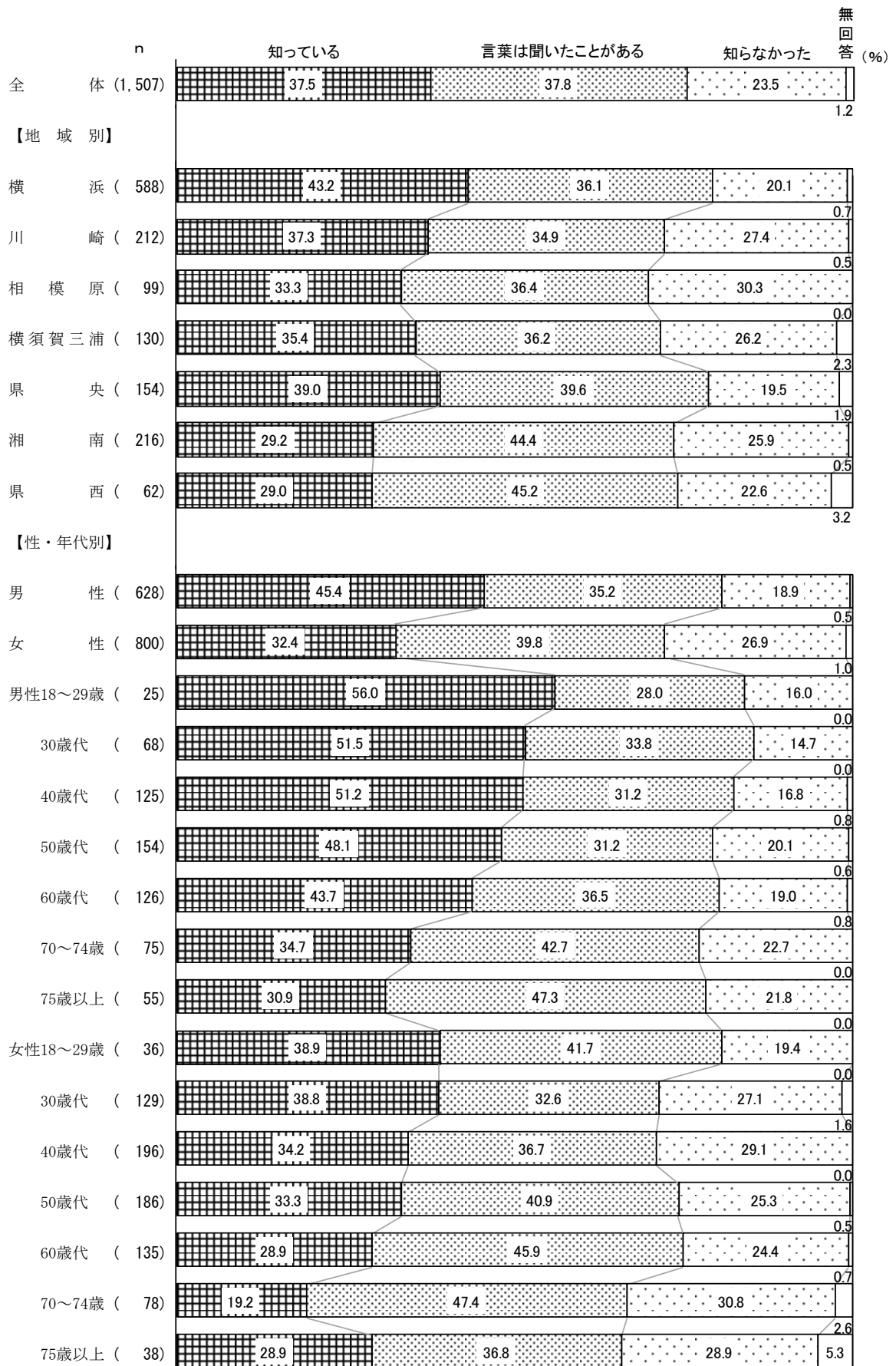
##### 【全体の状況】

「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が37.5%であった。一方、「知らなかった」が23.5%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度



図表3-1-2 「生物多様性」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別

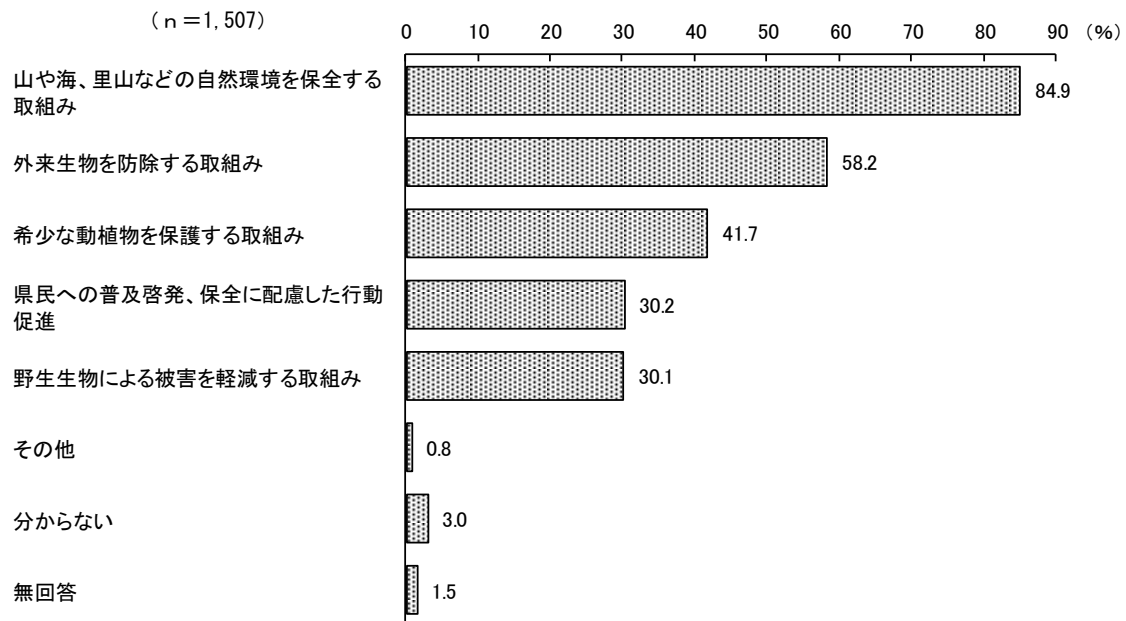


## 2 県における生物多様性の保全の取組みで重要なもの【問9】

### 【全体の状況】

県における生物多様性の保全について、どの取組みが重要だと思うか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「山や海、里山などの自然環境を保全する取組み」が84.9%で最も多く、次いで「外来生物を防除する取組み」が58.2%であった。（図表3-2-1）

図表3-2-1 県における生物多様性の保全の取組みで重要なもの（複数回答）



図表3-2-2 県における生物多様性の保全の取組みで重要なもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

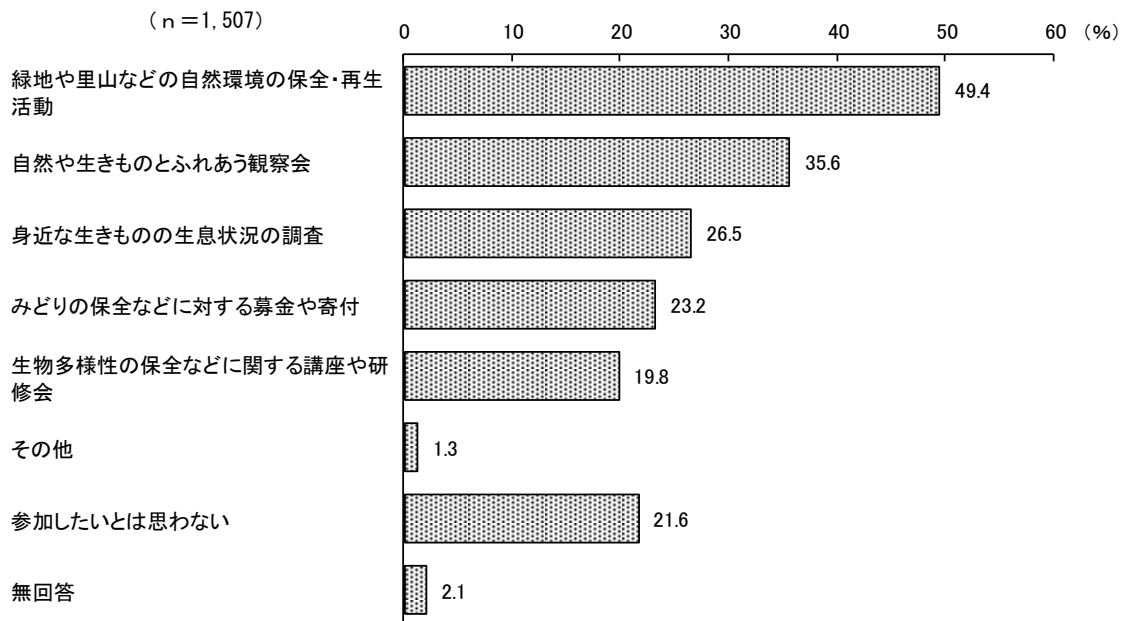
	n	山や海、里山などの自然環境を保全する取組み	外来生物を防除する取組み	希少な動植物を保護する取組み	県民への普及啓発、保全に配慮した行動促進	野生生物による被害を軽減する取組み	その他	分からない	無回答
全体	1,507	84.9	58.2	41.7	30.2	30.1	0.8	3.0	1.5
【地域別】									
横浜	588	86.1	60.9	44.9	28.7	28.9	0.5	2.4	1.4
川崎	212	84.4	59.0	47.6	30.2	25.9	1.4	1.9	1.4
相模原	99	76.8	51.5	40.4	30.3	39.4	-	7.1	1.0
横須賀三浦	130	87.7	63.8	33.1	37.7	25.4	-	4.6	1.5
県央	154	84.4	59.1	37.7	27.3	37.7	0.6	3.2	0.6
湘南	216	87.0	51.4	40.7	30.6	28.2	0.9	3.2	0.9
県西	62	82.3	54.8	33.9	30.6	38.7	-	1.6	1.6
【性・年代別】									
男性	628	83.1	58.9	39.2	32.0	31.7	0.6	3.3	0.8
女性	800	87.5	58.9	44.5	28.6	29.1	0.5	2.5	1.3
男性18～29歳	25	80.0	60.0	52.0	40.0	24.0	-	-	-
30歳代	68	77.9	45.6	48.5	33.8	22.1	1.5	5.9	1.5
40歳代	125	84.0	53.6	43.2	31.2	28.0	0.8	3.2	1.6
50歳代	154	85.7	66.2	41.6	32.5	26.0	-	2.6	-
60歳代	126	81.0	63.5	35.7	31.0	37.3	1.6	1.6	1.6
70～74歳	75	89.3	57.3	28.0	26.7	48.0	-	5.3	-
75歳以上	55	78.2	58.2	29.1	36.4	36.4	-	5.5	-
女性18～29歳	36	86.1	33.3	61.1	22.2	16.7	-	5.6	-
30歳代	129	85.3	52.7	51.9	26.4	24.0	-	1.6	0.8
40歳代	196	92.3	59.7	49.0	30.1	21.4	0.5	2.0	0.5
50歳代	186	86.6	60.2	43.0	27.4	30.6	1.1	3.2	1.1
60歳代	135	90.4	67.4	40.0	33.3	34.8	0.7	0.7	0.7
70～74歳	78	80.8	61.5	32.1	26.9	38.5	-	3.8	2.6
75歳以上	38	81.6	57.9	28.9	28.9	52.6	-	2.6	7.9

### 3 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組み【問10】

#### 【全体の状況】

生物多様性について知る、または行動する機会として、どの取組みに参加したいと思うか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「緑地や里山などの自然環境の保全・再生活動」が49.4%で最も多く、次いで「自然や生きものとふれあう観察会」が35.6%であった。（図表3-3-1）

図表3-3-1 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組み（複数回答）



図表3-3-2 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組み（複数回答）  
—地域別、性・年代別

		(%)									
	n	全緑地や里山などの自然環境の保全・再生活動	自然や生きものとのふれあう観察会	身近な生きものの生息状況の調査	寄付	みどりの保全などに対する募金や	座や研修会	生物多様性の保全などに関する講	その他	参加したいとは思わない	無回答
全体	1,507	49.4	35.6	26.5	23.2	19.8	1.3	21.6	2.1		
【地域別】											
横浜	588	49.1	37.4	28.2	23.5	20.2	1.0	20.9	1.9		
川崎	212	50.5	37.3	27.8	20.8	17.5	2.8	22.6	2.4		
相模原	99	46.5	38.4	30.3	21.2	18.2	1.0	25.3	2.0		
横須賀三浦	130	51.5	30.0	28.5	24.6	20.0	-	23.1	3.1		
県央	154	49.4	33.8	22.1	27.9	27.9	2.6	16.2	2.6		
湘南	216	49.5	36.6	24.5	20.8	17.6	0.9	22.7	0.5		
県西	62	51.6	25.8	19.4	24.2	17.7	-	21.0	3.2		
【性・年代別】											
男性	628	51.4	35.0	31.2	16.7	20.9	1.4	23.7	2.1		
女性	800	48.3	36.8	23.8	28.5	19.1	1.3	19.1	1.8		
男性18～29歳	25	44.0	56.0	52.0	16.0	28.0	-	20.0	-		
30歳代	68	36.8	42.6	35.3	14.7	17.6	1.5	26.5	-		
40歳代	125	55.2	40.8	36.8	15.2	9.6	0.8	26.4	0.8		
50歳代	154	51.9	27.9	29.2	24.0	29.2	1.9	19.5	2.6		
60歳代	126	54.0	27.8	24.6	15.1	24.6	0.8	27.0	1.6		
70～74歳	75	62.7	45.3	32.0	12.0	18.7	1.3	20.0	-		
75歳以上	55	41.8	25.5	23.6	12.7	18.2	3.6	25.5	10.9		
女性18～29歳	36	38.9	47.2	33.3	27.8	5.6	-	19.4	-		
30歳代	129	46.5	54.3	31.0	23.3	13.2	-	15.5	-		
40歳代	196	50.5	42.9	29.6	30.6	16.8	1.5	17.3	1.0		
50歳代	186	51.6	26.3	22.0	25.3	25.8	0.5	19.9	1.6		
60歳代	135	49.6	32.6	15.6	31.1	19.3	1.5	20.0	1.5		
70～74歳	78	44.9	24.4	17.9	34.6	26.9	2.6	21.8	5.1		
75歳以上	38	36.8	26.3	7.9	31.6	15.8	5.3	26.3	7.9		



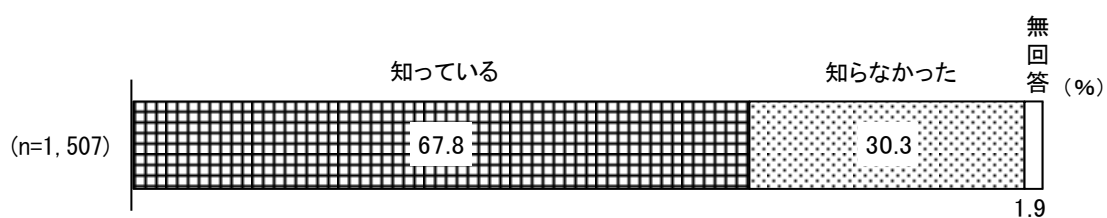
## 第4章 アルコール依存症に対する意識【問11～問15】

### 1 適度な飲酒量【問11】

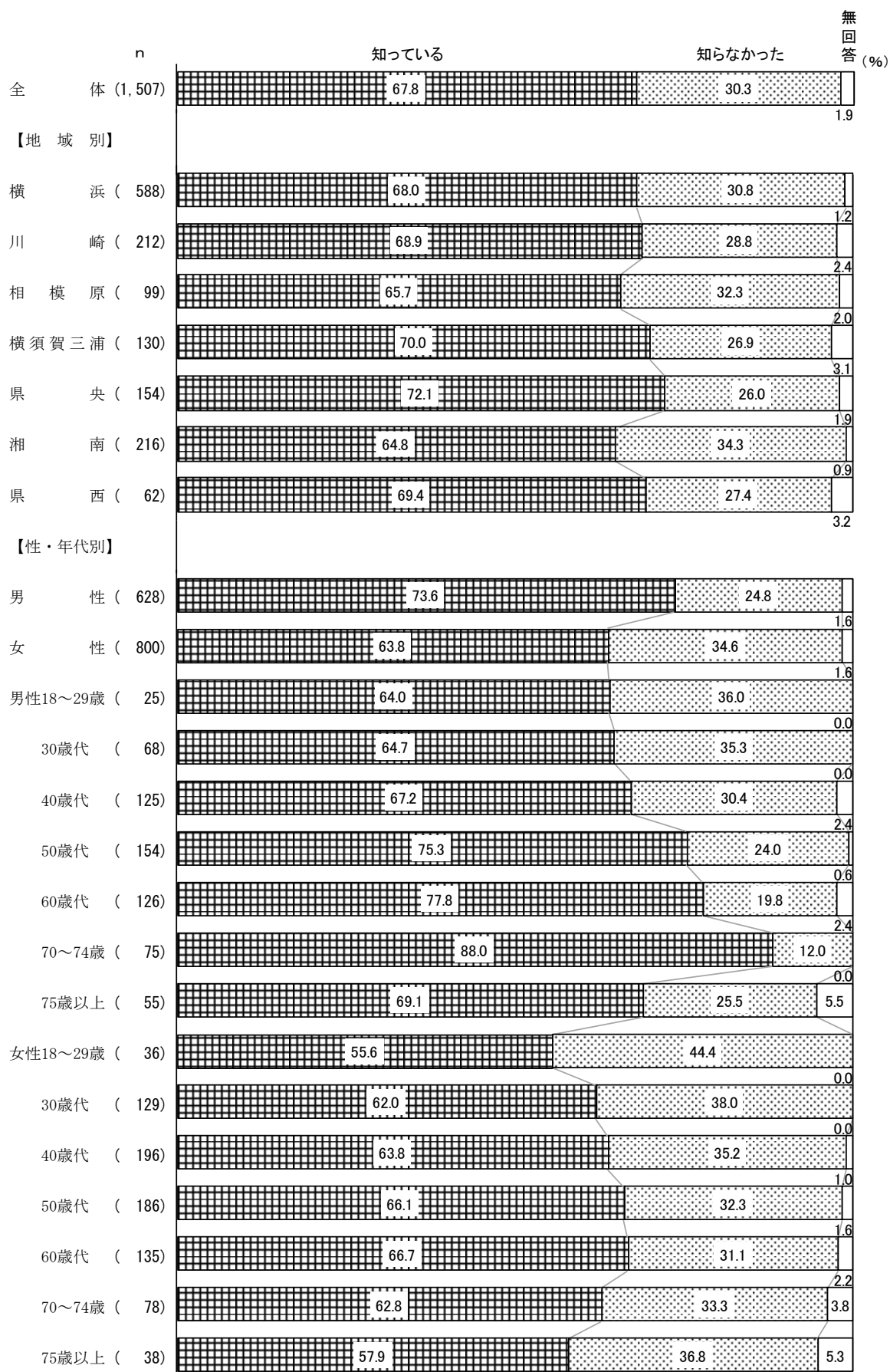
#### 【全体の状況】

適度な飲酒量を知っているか尋ねたところ、「知っている」が67.8%であった。一方、「知らなかった」が30.3%であった。(図表4-1-1)

図表4-1-1 適度な飲酒量



図表4-1-2 適度な飲酒量—地域別、性・年代別

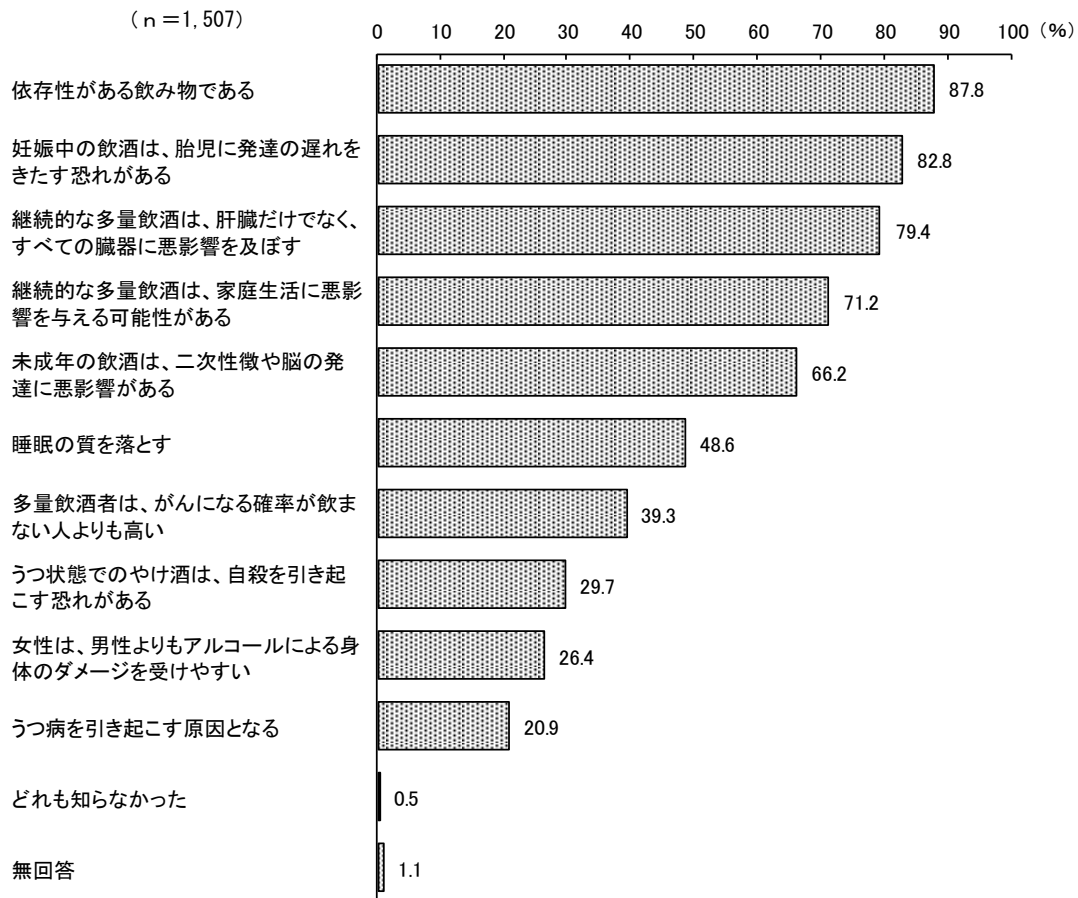


## 2 アルコールについて知っていること【問12】

### 【全体の状況】

アルコールについて、知っていることを複数回答で尋ねたところ、「依存性がある飲み物である」が87.8%で最も多く、次いで「妊娠中の飲酒は、胎児に発達の遅れをきたす恐れがある」が82.8%であった。(図表 4-2-1)

図表4-2-1 アルコールについて知っていること（複数回答）



図表4-2-2 アルコールについて知っていること（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

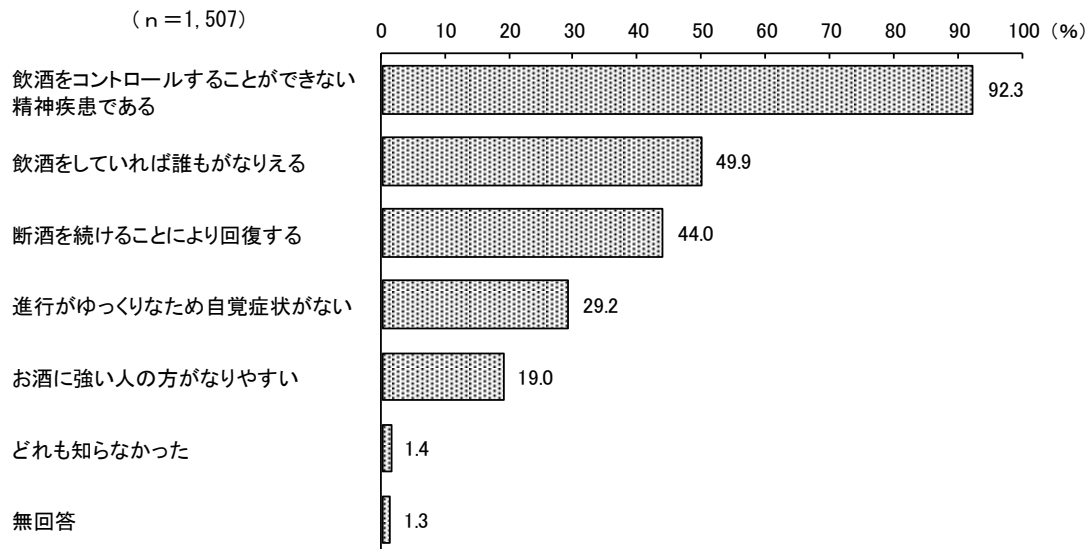
	n	依存性がある飲み物である	妊娠中の飲酒は、胎児に発達の遅れをきたす恐れがある	継続的な多量飲酒は、肝臓だけでなく、すべての臓器に悪影響を及ぼす	継続的な多量飲酒は、家庭生活に悪影響を与える可能性がある	未成年の飲酒は、二次性徴や脳の発達に悪影響がある	睡眠の質を落とす	多量飲酒者は、がんになる確率が飲まない人よりも高い	うつ状態でのやけ酒は、自殺を引き起こす恐れがある	女性は、男性よりもアルコールによる身体へのダメージを受けやすい	うつ病を引き起こす原因となる	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,507	87.8	82.8	79.4	71.2	66.2	48.6	39.3	29.7	26.4	20.9	0.5	1.1
【地 域 別】													
横 浜	588	89.5	83.5	79.3	71.8	66.5	49.3	37.9	28.6	24.7	20.7	0.2	0.5
川 崎	212	84.9	83.5	80.7	71.7	72.2	51.9	42.9	29.7	27.4	18.9	0.5	2.4
相 模 原	99	87.9	80.8	73.7	63.6	57.6	43.4	35.4	27.3	24.2	21.2	-	1.0
横 須 賀 三 浦	130	86.2	80.8	80.0	75.4	66.9	48.5	38.5	30.0	27.7	23.1	1.5	2.3
県 央	154	93.5	80.5	80.5	76.0	63.6	46.8	39.6	29.9	32.5	18.8	-	0.6
湘 南	216	82.9	86.1	80.6	66.2	68.1	49.1	39.8	32.4	26.4	24.5	1.4	-
県 西	62	88.7	74.2	80.6	72.6	62.9	45.2	43.5	32.3	25.8	22.6	-	3.2
【性・年代別】													
男 性	628	88.7	73.9	81.2	67.2	59.9	46.3	36.3	24.0	21.2	18.3	0.5	0.8
女 性	800	88.0	90.4	78.3	74.9	72.1	50.8	41.6	33.8	30.5	23.3	0.5	1.0
男性 18～29歳	25	92.0	88.0	56.0	68.0	76.0	68.0	24.0	16.0	24.0	16.0	-	-
30 歳 代	68	91.2	86.8	88.2	69.1	76.5	63.2	36.8	47.1	16.2	26.5	-	-
40 歳 代	125	92.8	78.4	84.0	62.4	63.2	62.4	35.2	32.0	21.6	22.4	0.8	0.8
50 歳 代	154	89.0	74.7	76.6	64.9	63.0	52.6	36.4	17.5	17.5	20.1	-	-
60 歳 代	126	88.9	74.6	87.3	71.4	52.4	34.9	44.4	23.8	28.6	15.1	0.8	1.6
70～74歳	75	86.7	58.7	84.0	66.7	45.3	30.7	29.3	14.7	20.0	16.0	-	-
75歳以上	55	76.4	58.2	72.7	72.7	52.7	9.1	34.5	12.7	20.0	5.5	1.8	3.6
女性 18～29歳	36	86.1	97.2	75.0	66.7	69.4	55.6	50.0	41.7	30.6	33.3	-	-
30 歳 代	129	88.4	96.9	76.7	72.1	82.2	58.1	41.1	42.6	28.7	21.7	-	-
40 歳 代	196	91.3	94.4	77.6	73.0	75.0	61.7	40.8	43.4	28.6	30.6	-	1.0
50 歳 代	186	88.7	88.7	81.7	75.3	74.2	57.0	45.7	33.3	28.0	22.6	0.5	1.1
60 歳 代	135	87.4	89.6	79.3	77.0	67.4	37.0	37.8	21.5	34.1	18.5	0.7	0.7
70～74歳	78	82.1	78.2	75.6	80.8	60.3	28.2	37.2	17.9	32.1	11.5	2.6	2.6
75歳以上	38	81.6	78.9	76.3	84.2	57.9	31.6	44.7	26.3	44.7	26.3	-	2.6

### 3 アルコール依存症について知っているもの【問13】

#### 【全体の状況】

アルコール依存症について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「飲酒をコントロールすることができない精神疾患である」が92.3%で最も多く、次いで「飲酒をしていれば誰もがなりえる」が49.9%であった。(図表 4-3-1)

図表4-3-1 アルコール依存症について知っているもの（複数回答）



図表4-3-2 アルコール依存症について知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

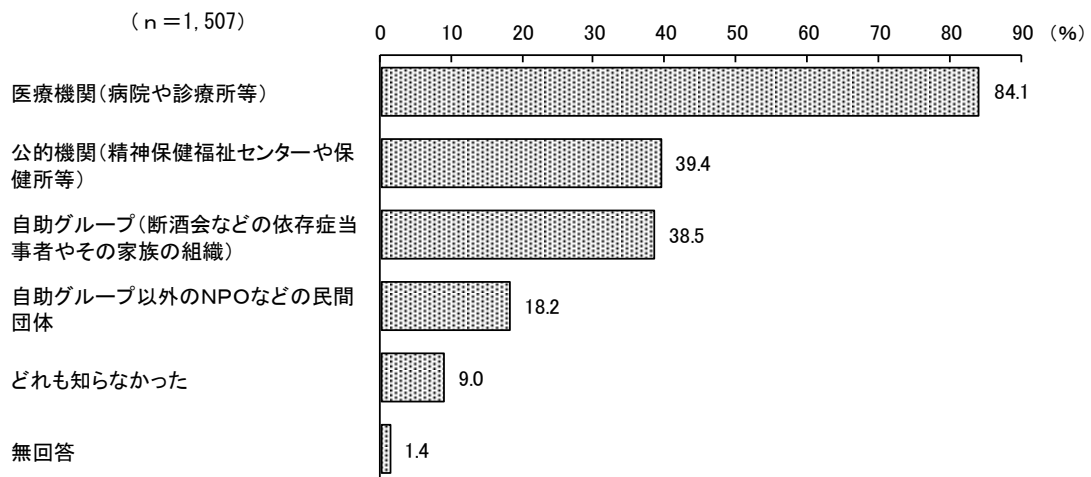
	n	飲酒をコントロールする ことができない 精神疾患である	飲酒をしてい れば誰もが なりえる	断酒を続ける ことにより 回復する	進 行 が ゆ っ く り な た め 自 覚 症 状 が な い	お酒に強い 人の方が なりやすい	どれも 知らな かった	無 回 答
全 体	1,507	92.3	49.9	44.0	29.2	19.0	1.4	1.3
【地 域 別】								
横 浜	588	92.3	50.2	44.6	29.4	20.1	1.5	0.9
川 崎	212	92.0	49.5	40.6	30.2	16.5	1.4	2.4
相 模 原	99	94.9	50.5	42.4	25.3	23.2	1.0	1.0
横 須 賀 三 浦	130	92.3	49.2	48.5	32.3	20.8	0.8	3.1
県 央	154	91.6	47.4	47.4	26.0	17.5	1.9	0.6
湘 南	216	93.5	49.5	39.8	28.2	16.7	0.9	-
県 西	62	88.7	56.5	38.7	29.0	22.6	1.6	3.2
【性・年代別】								
男 性	628	90.3	48.7	39.8	31.4	21.7	1.9	1.0
女 性	800	94.1	51.3	46.1	26.9	17.3	1.0	1.3
男性18～29歳	25	80.0	60.0	28.0	20.0	24.0	4.0	-
30歳代	68	89.7	66.2	42.6	29.4	23.5	2.9	-
40歳代	125	90.4	56.0	34.4	36.8	21.6	4.0	1.6
50歳代	154	95.5	46.8	33.1	27.3	16.9	0.6	-
60歳代	126	91.3	41.3	48.4	41.3	23.8	0.8	1.6
70～74歳	75	88.0	41.3	44.0	25.3	25.3	1.3	-
75歳以上	55	81.8	38.2	47.3	23.6	21.8	1.8	3.6
女性18～29歳	36	88.9	52.8	25.0	25.0	16.7	2.8	-
30歳代	129	93.8	62.8	37.2	27.9	19.4	1.6	-
40歳代	196	95.9	56.6	46.4	23.0	18.4	-	1.0
50歳代	186	95.2	51.6	43.0	26.9	15.1	1.1	1.6
60歳代	135	96.3	43.7	55.6	27.4	14.1	-	0.7
70～74歳	78	88.5	39.7	56.4	30.8	23.1	3.8	3.8
75歳以上	38	89.5	34.2	57.9	36.8	15.8	-	2.6

#### 4 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの【問14】

##### 【全体の状況】

アルコール依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「医療機関（病院や診療所等）」が84.1%で最も多く、次いで「公的機関（精神保健福祉センターや保健所等）」が39.4%であった。（図表4-4-1）

図表4-4-1 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）



図表4-4-2 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）  
—地域別、性・年代別

(%)

	n	医療機関 (病院や診療所等)	公的機関 (精神保健福祉センター や保健所等)	自助グループ (断酒会などの依存 症当事者やその家族の組織)	民間団体 自助グループ以外の NPOなどの	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,507	84.1	39.4	38.5	18.2	9.0	1.4
【地 域 別】							
横 浜	588	85.9	38.6	37.1	17.2	8.2	1.2
川 崎	212	87.3	40.6	40.1	23.1	6.1	1.9
相 模 原	99	80.8	37.4	39.4	13.1	13.1	1.0
横 須 賀 三 浦	130	83.8	49.2	33.8	18.5	6.9	2.3
県 央	154	77.3	39.0	40.9	20.1	14.3	1.3
湘 南	216	84.7	35.6	40.3	17.1	8.8	-
県 西	62	80.6	35.5	33.9	17.7	9.7	3.2
【性・年代別】							
男 性	628	82.3	38.2	29.5	16.6	10.5	1.1
女 性	800	86.8	40.4	45.1	19.8	7.4	1.3
男性18～29歳	25	84.0	32.0	16.0	12.0	12.0	-
30歳代	68	83.8	42.6	32.4	17.6	10.3	-
40歳代	125	87.2	36.0	32.8	16.0	8.8	0.8
50歳代	154	85.1	37.0	31.2	21.4	9.1	-
60歳代	126	82.5	46.8	28.6	15.1	8.7	1.6
70～74歳	75	76.0	36.0	21.3	14.7	16.0	1.3
75歳以上	55	69.1	27.3	32.7	10.9	14.5	5.5
女性18～29歳	36	77.8	30.6	36.1	11.1	19.4	-
30歳代	129	93.8	38.0	37.2	19.4	4.7	-
40歳代	196	89.8	39.3	50.0	24.5	5.1	0.5
50歳代	186	88.2	41.9	45.2	21.0	5.4	1.1
60歳代	135	86.7	46.7	45.9	16.3	5.9	1.5
70～74歳	78	71.8	41.0	53.8	19.2	17.9	2.6
75歳以上	38	78.9	34.2	36.8	13.2	10.5	7.9



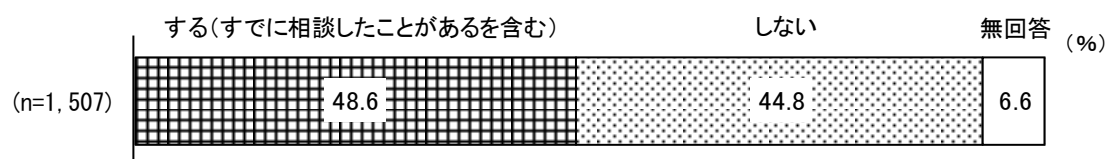
## 5 アルコール依存症の相談意向【問15】

### 【全体の状況】

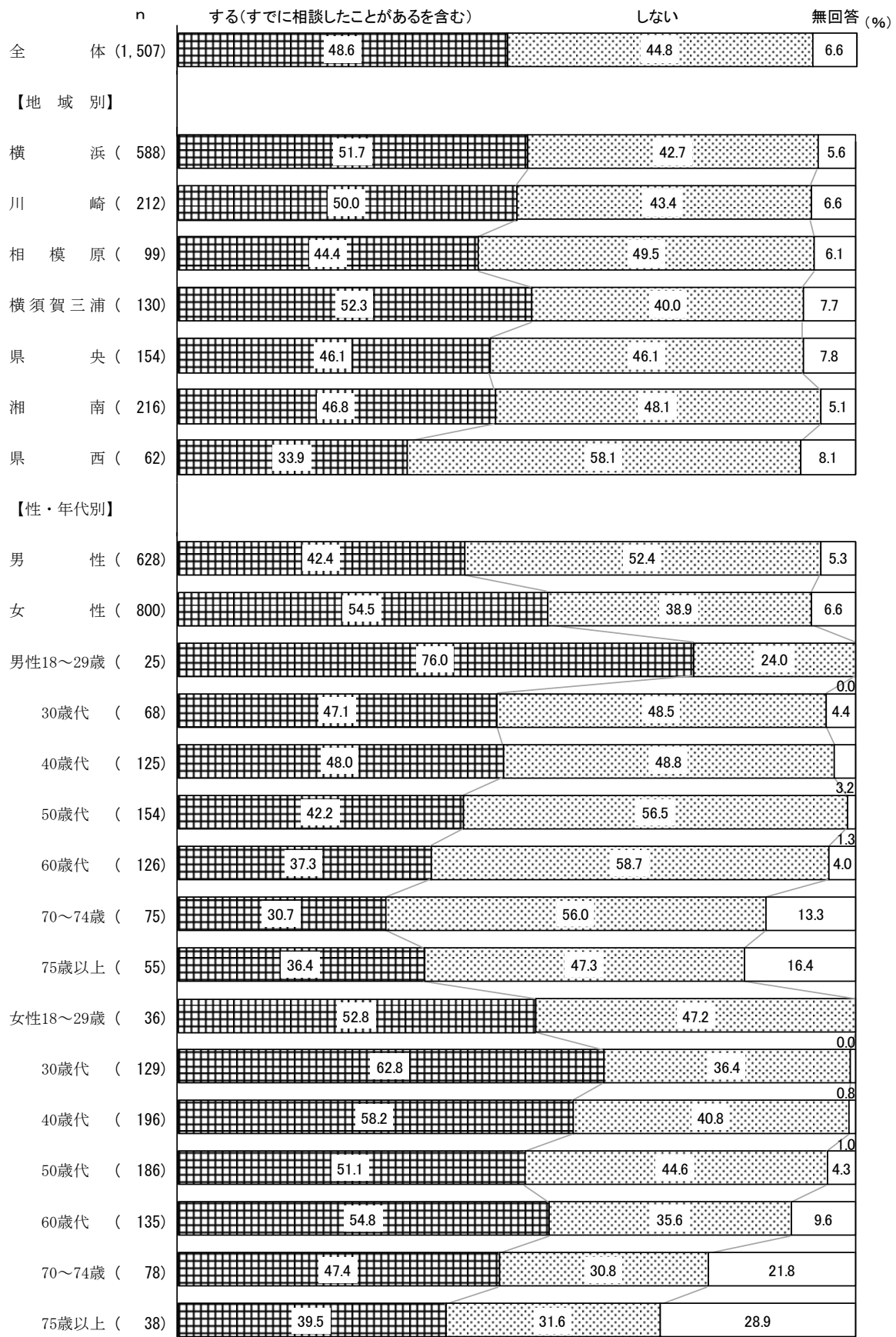
アルコール依存症について、相談場所を知っていれば、相談するか尋ねたところ、「する（すでに相談したことがあるを含む）」が48.6%であった。

一方、「しない」が44.8%であった。（図表4-5-1）

図表4-5-1 アルコール依存症の相談意向



図表4-5-2 アルコール依存症の相談意向—地域別、性・年代別



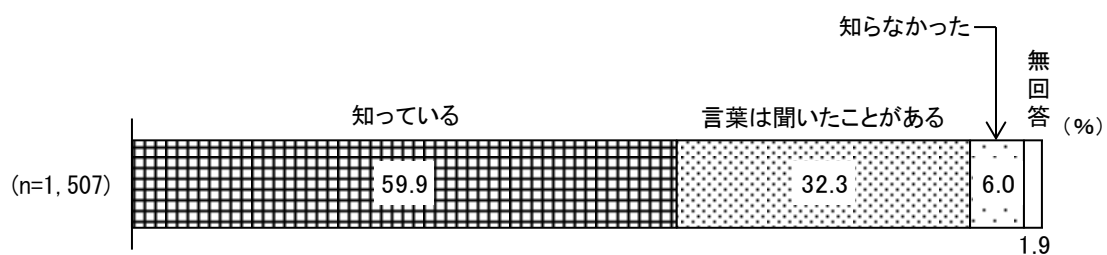
## 第5章 肝炎対策【問16～問17-2】

### 1 ウイルス性肝炎の認知度【問16】

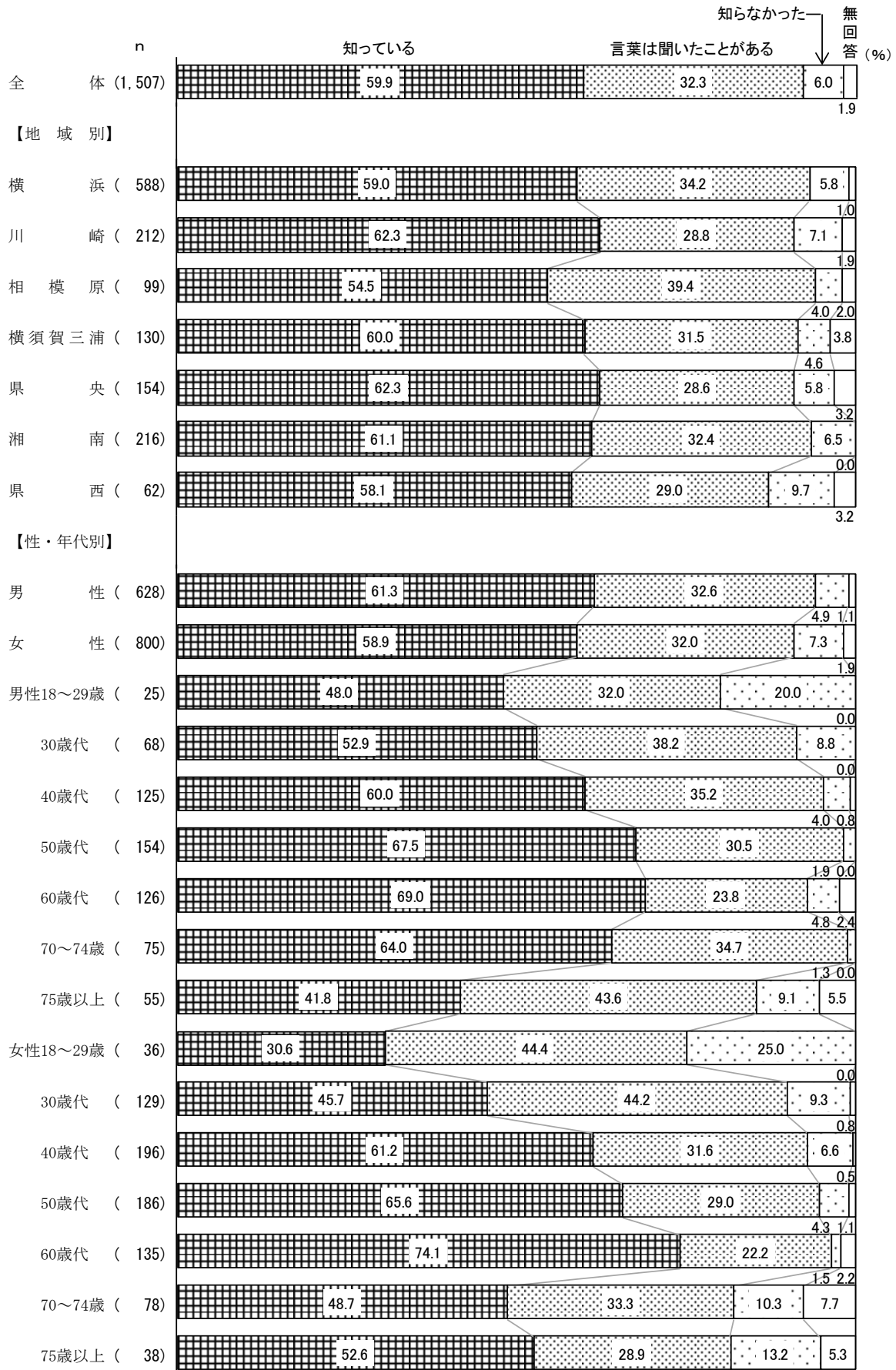
#### 【全体の状況】

ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「知っている」が59.9%であった。一方、「知らなかった」は、6.0%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 ウイルス性肝炎の認知度



図表5-1-2 ウイルス性肝炎の認知度—地域別、性・年代別



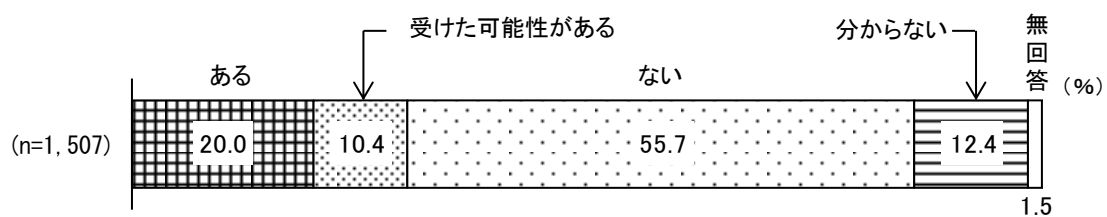
## 2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況【問17】

### 【全体の状況】

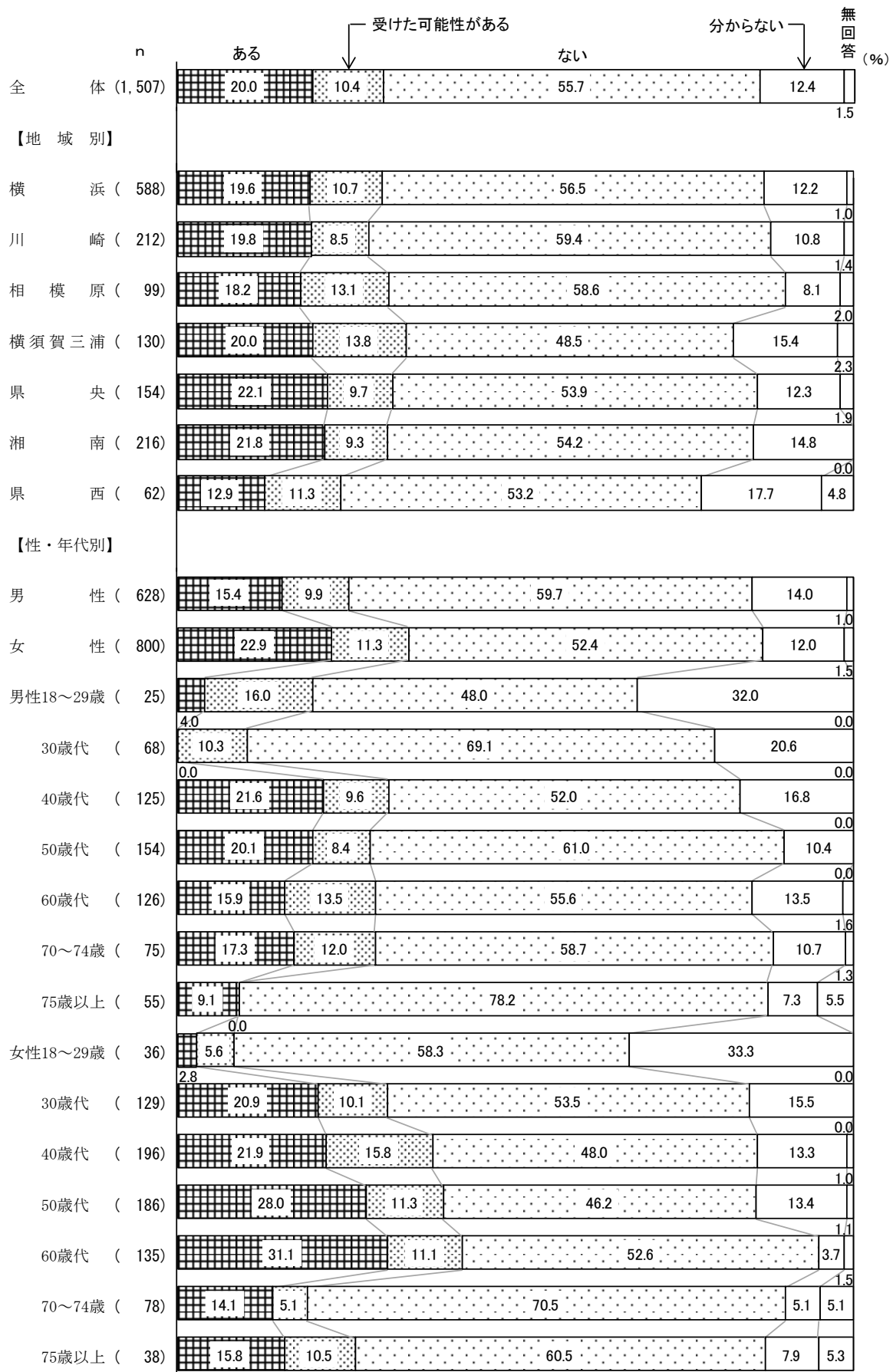
これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が20.0%であった。

一方、「ない」が55.7%であった。(図表5-2-1)

図表5-2-1 「肝炎ウイルス検査」の受検状況



図表5-2-2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況—地域別、性・年代別

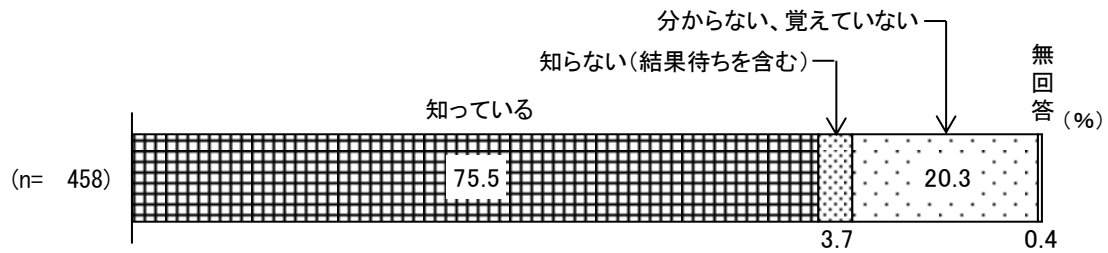


### 3 検査結果の把握状況【問17-1】

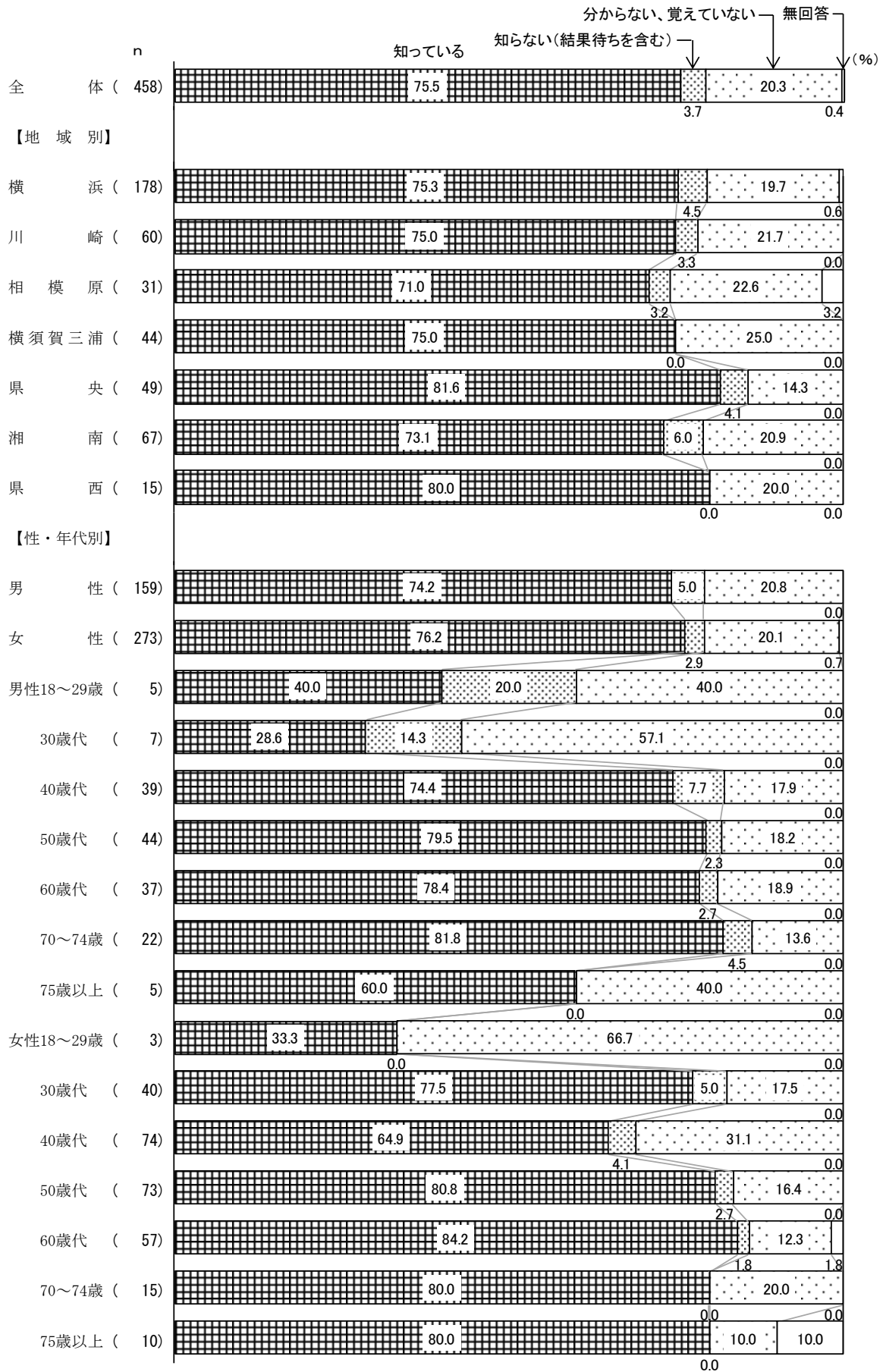
#### 【全体の状況】

「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問17）で、「ある」または「受けた可能性がある」と回答した458人に、検査の結果を知っているか尋ねたところ、「知っている」が75.5%で最も多く、次いで「分からない、覚えていない」が20.3%であった。（図表5-3-1）

図表5-3-1 検査結果の把握状況



図表5-3-2 検査結果の把握状況—地域別、性・年代別



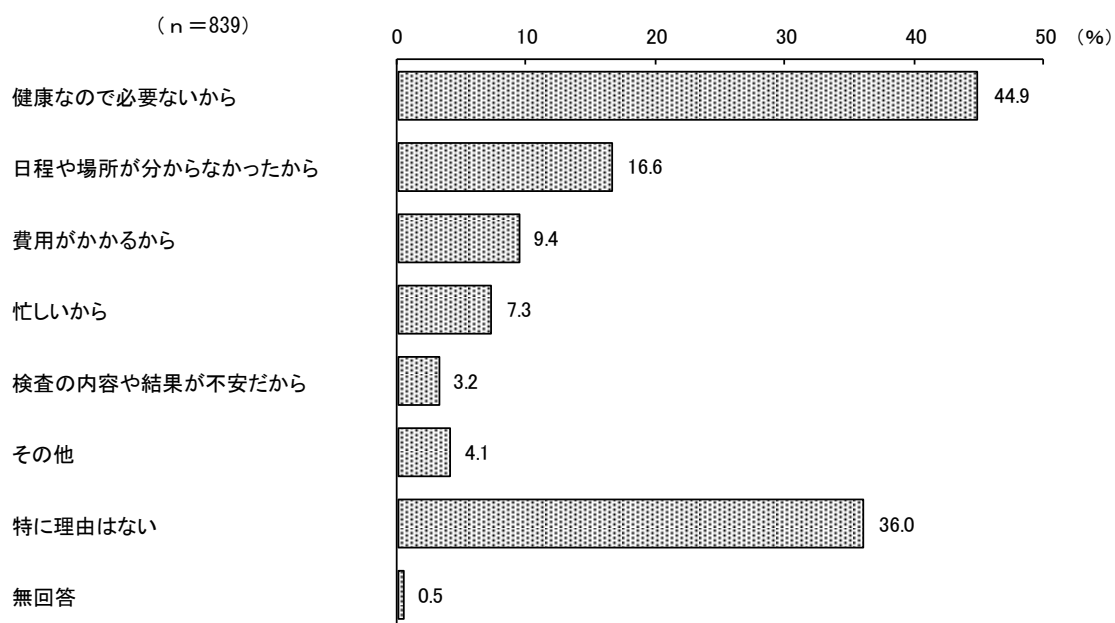


#### 4 「肝炎ウイルス検査」を受検しない理由【問17-2】

##### 【全体の状況】

「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問17）で、「ない」と回答した839人に、受検しない理由について複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「健康なので必要ないから」が44.9%で最も多く、次いで「日程や場所が分からなかったから」が16.6%であった。（図表5-4-1）

図表5-4-1 「肝炎ウイルス検査」を受検しない理由（複数回答）



図表5-4-2 「肝炎ウイルス検査」を受検しない理由（複数回答）－地域別、性・年代別

		(%)							
	n	健康なので 必要ないから	日程や場所が 分からなかったから	費用がかかるから	忙しいから	検査の内容や結果が不安だから	その他	特に理由はない	無回答
全体	839	44.9	16.6	9.4	7.3	3.2	4.1	36.0	0.5
【地域別】									
横 浜	332	44.3	17.5	10.2	6.6	3.6	4.2	35.2	0.3
川 崎	126	50.0	14.3	5.6	8.7	3.2	6.3	32.5	1.6
相 模 原	58	37.9	15.5	12.1	10.3	3.4	-	39.7	1.7
横 須 賀 三 浦	63	38.1	11.1	9.5	6.3	-	3.2	44.4	-
県 央	83	48.2	21.7	8.4	4.8	3.6	2.4	36.1	-
湘 南	117	46.2	13.7	12.8	6.8	3.4	3.4	38.5	-
県 西	33	51.5	18.2	6.1	9.1	3.0	9.1	27.3	-
【性・年代別】									
男 性	375	50.7	18.1	11.5	9.6	2.9	4.0	29.9	0.8
女 性	419	40.8	15.0	8.4	5.3	3.3	4.3	41.1	-
男性18～29歳	12	66.7	8.3	8.3	8.3	-	8.3	16.7	-
30歳代	47	40.4	21.3	14.9	12.8	2.1	6.4	36.2	-
40歳代	65	38.5	16.9	18.5	23.1	4.6	6.2	32.3	1.5
50歳代	94	45.7	21.3	7.4	11.7	3.2	3.2	34.0	1.1
60歳代	70	58.6	15.7	15.7	4.3	2.9	2.9	25.7	-
70～74歳	44	65.9	20.5	6.8	-	2.3	4.5	18.2	2.3
75歳以上	43	58.1	14.0	4.7	-	2.3	-	32.6	-
女性18～29歳	21	28.6	23.8	9.5	4.8	4.8	9.5	42.9	-
30歳代	69	43.5	15.9	7.2	7.2	2.9	4.3	34.8	-
40歳代	94	31.9	20.2	10.6	9.6	2.1	4.3	46.8	-
50歳代	86	41.9	12.8	10.5	8.1	1.2	3.5	41.9	-
60歳代	71	36.6	8.5	5.6	-	4.2	1.4	52.1	-
70～74歳	55	56.4	14.5	5.5	-	5.5	3.6	32.7	-
75歳以上	23	52.2	13.0	8.7	-	8.7	13.0	17.4	-

## 第6章 「未病改善」の取組み【問18～問20】

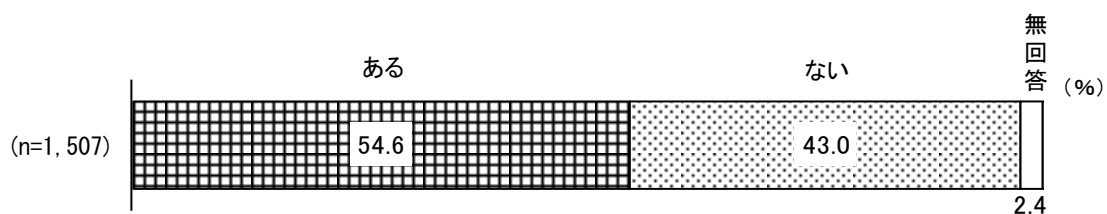
### 1 「未病（ME-BYO）」の認知度【問18】

#### 【全体の状況】

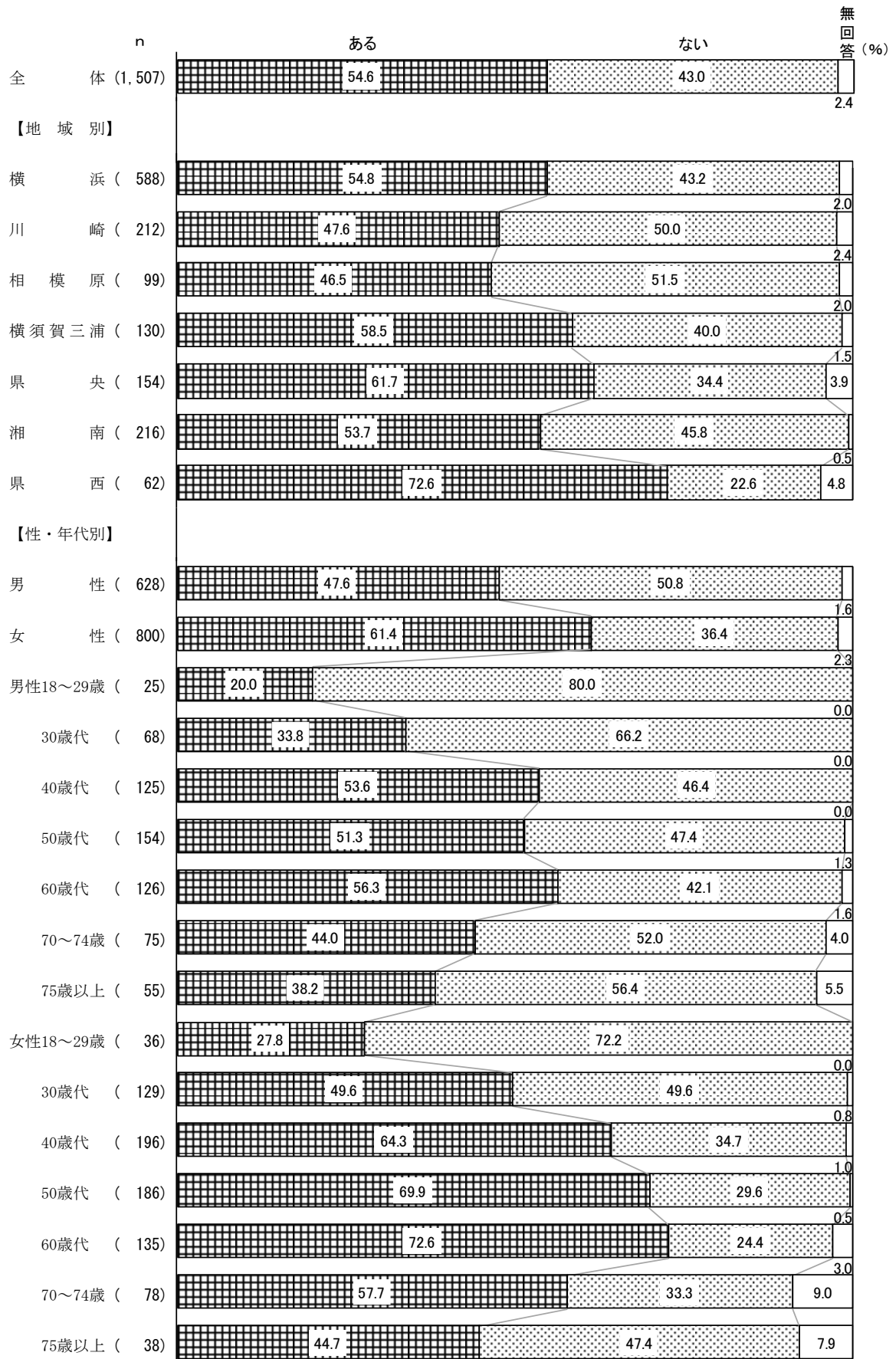
「未病（ME-BYO）」という言葉を知ったことがあるか尋ねたところ、「ある」が54.6%であった。

一方、「ない」が43.0%であった。（図表6-1-1）

図表6-1-1 「未病（ME-BYO）」の認知度



図表6-1-2 「未病（ME-BYO）」の認知度—地域別、性・年代別



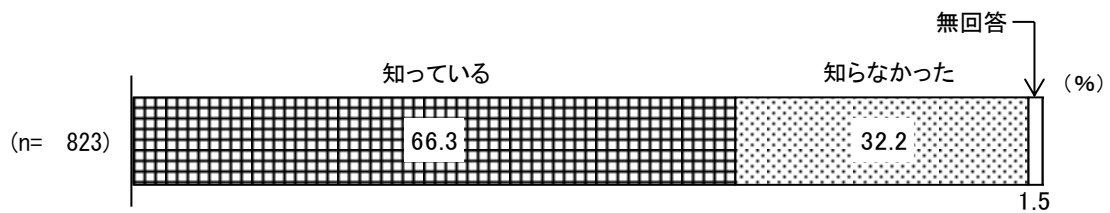
## 2 「未病（ME－BYO）」の意味の認知度【問18-1】

### 【全体の状況】

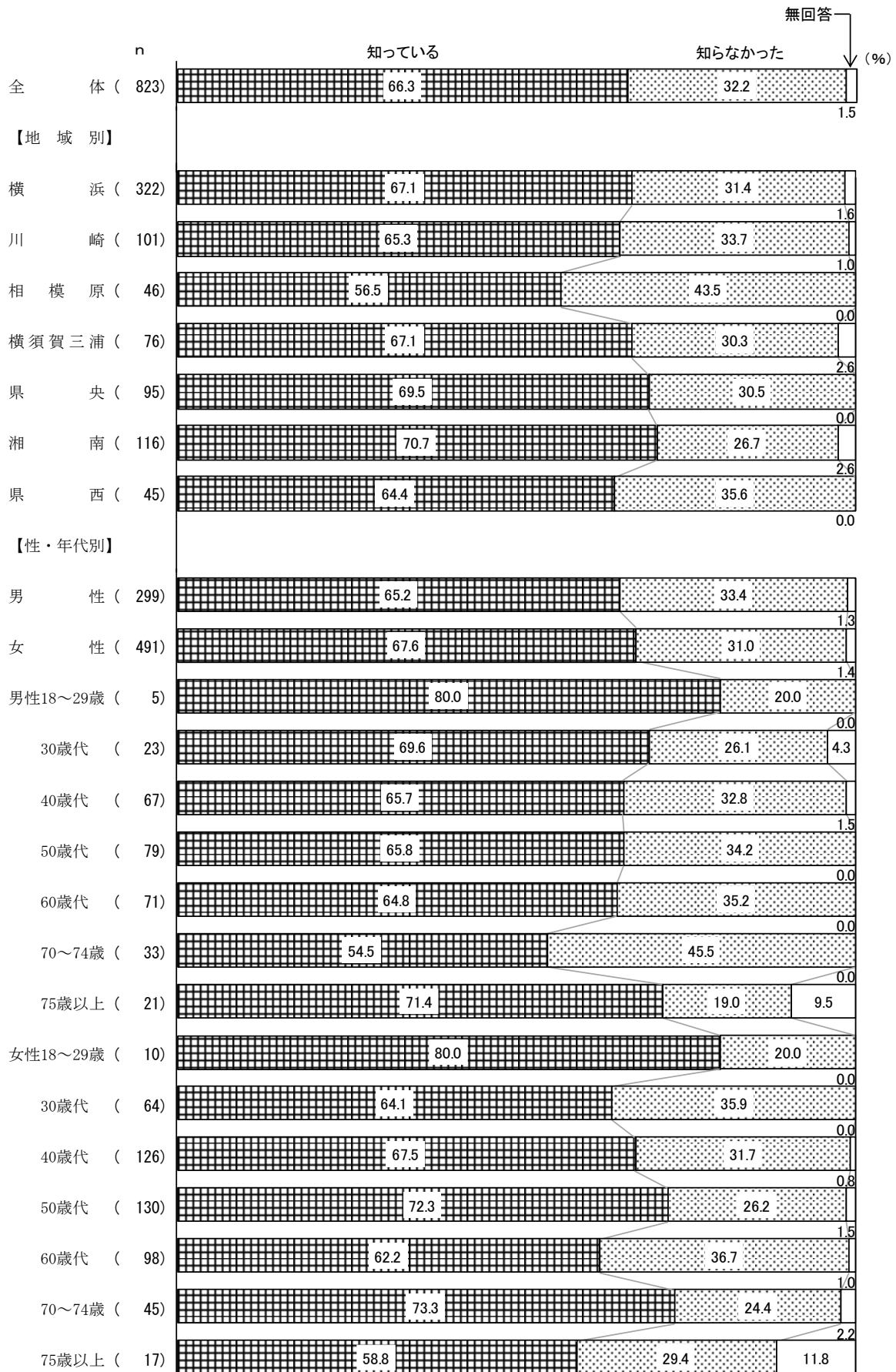
「未病（ME－BYO）」の認知度（問18）で、「ある」と回答した823人に、「未病（ME－BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」は66.3%であった。

一方、「知らなかった」が32.2%であった。（図表6-2-1）

図表6-2-1 「未病（ME－BYO）」の意味の認知度



図表6-2-2 「未病（ME-BYO）」の意味の認知度—地域別、性・年代別

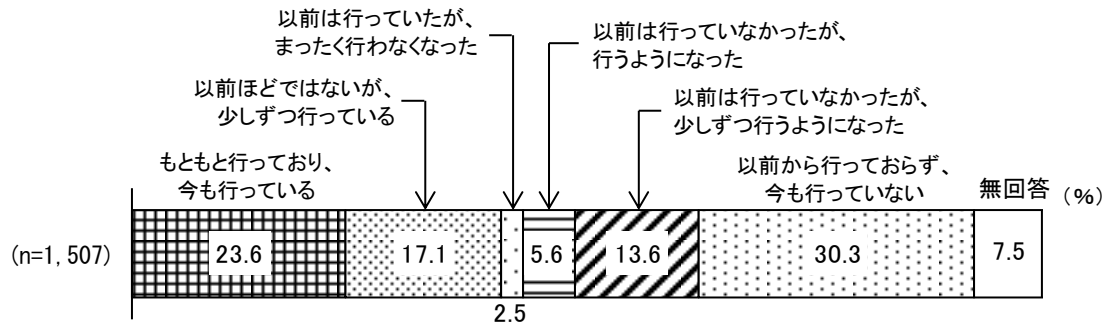


### 3 「未病改善」の取組みの実践【問19】

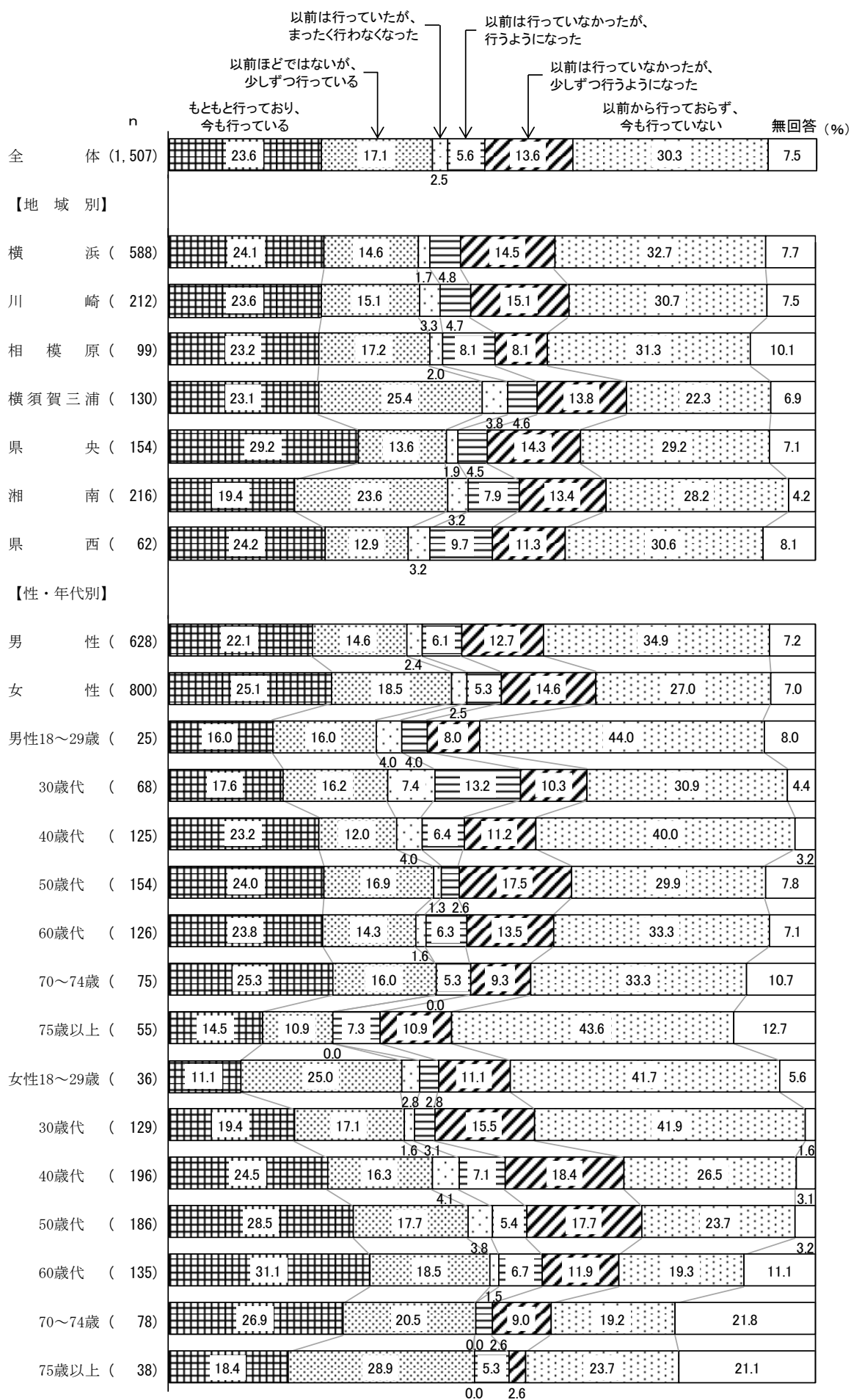
#### 【全体の状況】

過去の1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流等）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「以前から行っておらず、今も行っていない」が30.3%で最も多く、次いで「もともと行っており、今もやっている」が23.6%であった。（図表6-3-1）

図表6-3-1 「未病改善」の取組みの実践



図表6-3-2 「未病改善」の取組みの実践—地域別、性・年代別



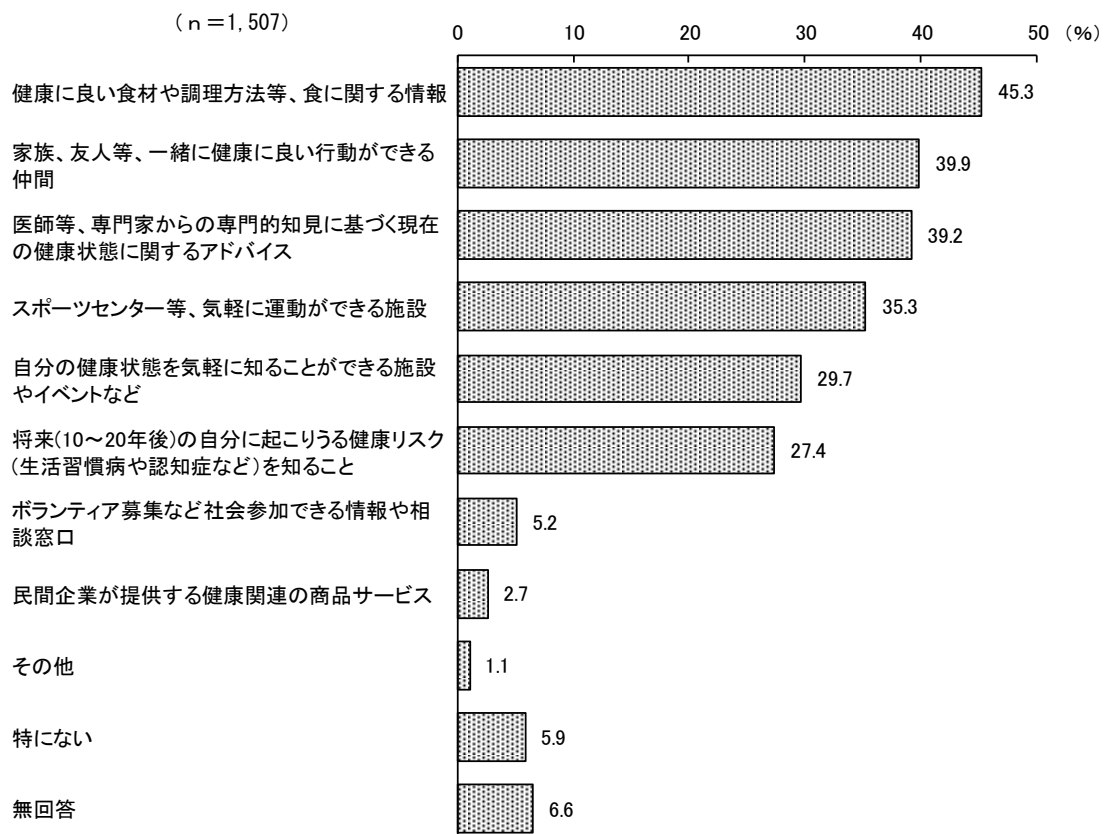


#### 4 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの【問20】

##### 【全体の状況】

「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流等）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報」が45.3%で最も多く、次いで「家族、友人等、一緒に健康に良い行動ができる仲間」が39.9%であった。（図表6-4-1）

図表6-4-1 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの（複数回答）



図表6-4-2 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報	家族、友人等、一緒に健康に良い行動ができる仲間	医師等、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス	スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設	自分の健康状態を気軽に知ることが出来る施設やイベントなど	将来（10～20年後）の自分に関する健康リスク（生活習慣病や認知症など）を知ること	ポランテア募集など社会参加できる情報や相談窓口	民間企業が提供する健康関連の商品サービス	その他	特にない	無回答
全体	1,507	45.3	39.9	39.2	35.3	29.7	27.4	5.2	2.7	1.1	5.9	6.6
【地域別】												
横浜	588	46.3	40.8	37.4	33.3	26.9	28.1	5.1	3.4	1.4	5.8	7.7
川崎	212	46.7	38.2	39.2	34.0	32.5	28.3	5.7	3.3	1.4	8.5	4.7
相模原	99	42.4	40.4	43.4	38.4	29.3	30.3	6.1	2.0	3.0	6.1	7.1
横須賀三浦	130	50.0	46.2	37.7	37.7	38.5	20.0	9.2	2.3	0.8	1.5	4.6
県央	154	46.8	36.4	46.8	37.7	25.3	30.5	5.2	0.6	0.6	5.2	5.2
湘南	216	43.1	40.3	37.5	39.4	33.8	25.9	3.2	1.9	-	7.4	5.1
県西	62	37.1	33.9	38.7	33.9	22.6	27.4	4.8	4.8	1.6	1.6	9.7
【性・年代別】												
男性	628	41.6	36.0	41.7	36.8	26.1	24.4	4.0	2.5	1.6	8.1	7.0
女性	800	48.6	43.4	36.9	34.8	33.0	30.6	6.6	2.9	0.9	3.6	5.6
男性18～29歳	25	28.0	40.0	52.0	56.0	24.0	20.0	-	-	-	12.0	12.0
30歳代	68	38.2	50.0	38.2	50.0	23.5	30.9	5.9	1.5	4.4	5.9	2.9
40歳代	125	47.2	42.4	38.4	48.8	20.8	17.6	4.8	3.2	2.4	7.2	2.4
50歳代	154	40.3	31.2	39.0	35.7	30.5	29.9	3.9	2.6	1.3	7.1	6.5
60歳代	126	41.3	38.1	42.9	31.0	32.5	23.8	6.3	4.0	0.8	6.3	7.9
70～74歳	75	41.3	29.3	49.3	24.0	21.3	21.3	-	1.3	1.3	10.7	10.7
75歳以上	55	43.6	20.0	43.6	18.2	21.8	23.6	1.8	1.8	-	14.5	14.5
女性18～29歳	36	38.9	63.9	27.8	38.9	16.7	5.6	8.3	8.3	5.6	16.7	-
30歳代	129	52.7	48.8	36.4	34.1	31.8	31.8	3.9	3.9	0.8	3.9	3.1
40歳代	196	51.0	45.4	33.2	39.3	40.3	31.6	6.6	2.0	1.0	2.6	3.6
50歳代	186	45.7	38.7	38.2	33.9	33.9	39.8	6.5	2.2	1.1	4.8	1.6
60歳代	135	45.2	37.8	40.7	38.5	36.3	28.9	7.4	2.2	-	1.5	9.6
70～74歳	78	53.8	39.7	38.5	25.6	21.8	26.9	7.7	3.8	-	2.6	12.8
75歳以上	38	50.0	44.7	39.5	18.4	23.7	15.8	10.5	2.6	-	-	21.1

## 第7章 かながわの広報【問21～問23】

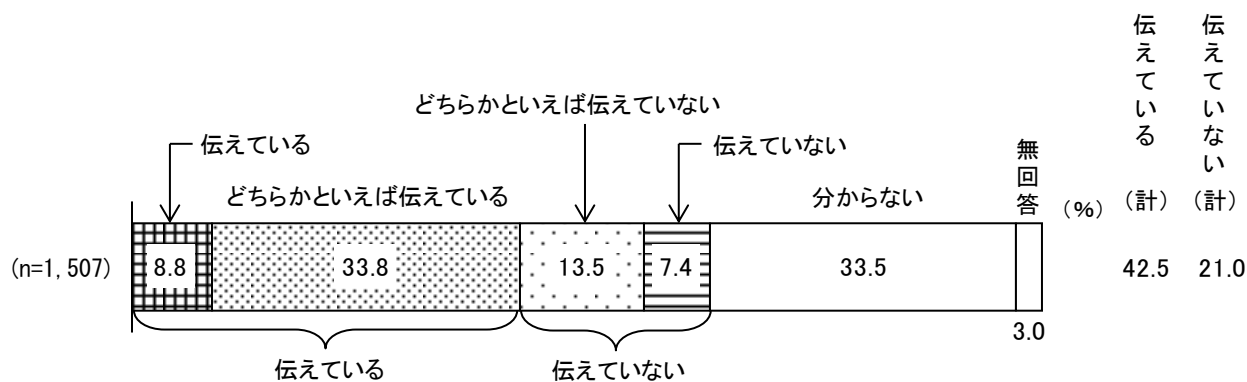
### 1 県の広報の達成度【問21】

#### 【全体の状況】

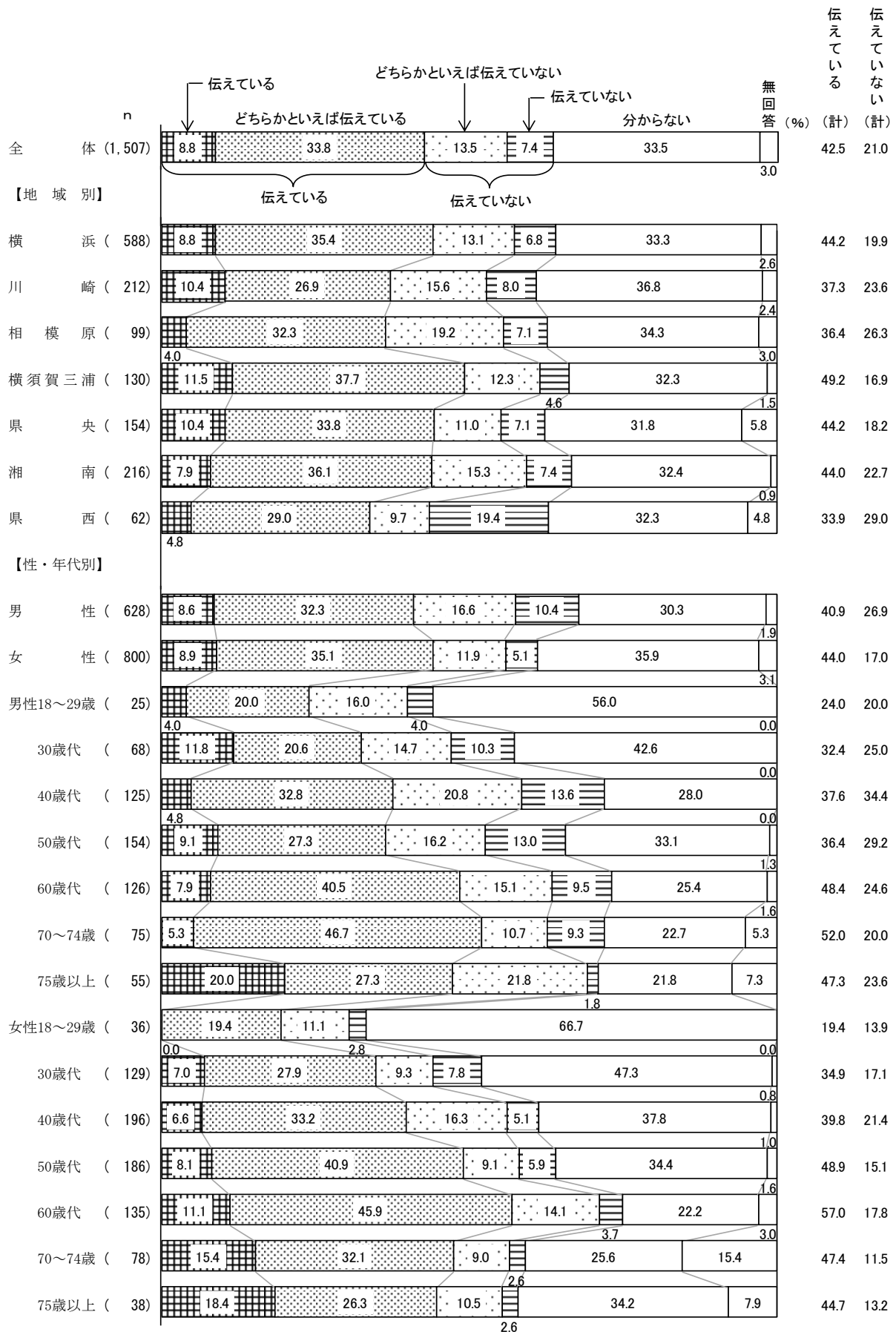
県が県政の情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」(8.8%)と「どちらかといえば伝えている」(33.8%)を合わせた《伝えている》は42.5%であった。

一方、「伝えていない」(7.4%)と「どちらかといえば伝えていない」(13.5%)を合わせた《伝えていない》は21.0%であった。(図表7-1-1)

図表7-1-1 県の広報の達成度



図表7-1-2 県の広報の達成度—地域別、性・年代別



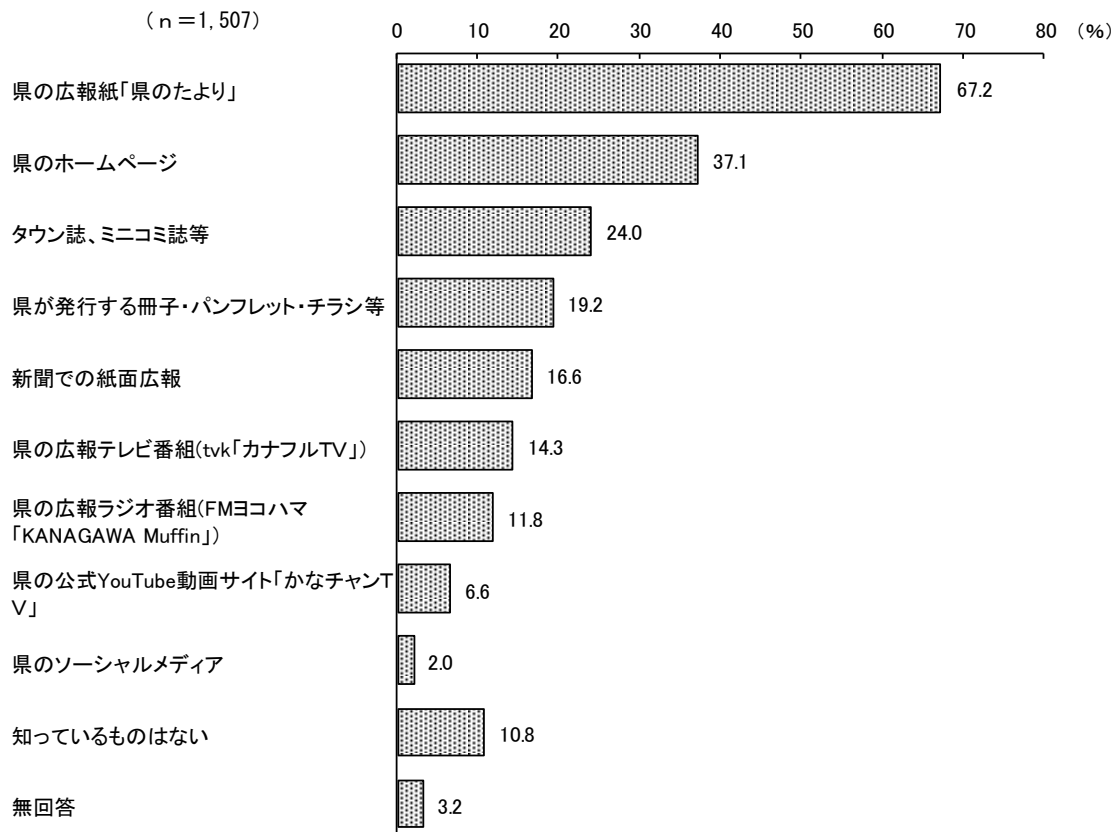
## 2 県の広報媒体の認知度【問22】

### 【全体の状況】

県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が67.2%で最も多く、次いで「県のホームページ」が37.1%であった。

(図表7-2-1)

図表7-2-1 県の広報媒体の認知度（複数回答）



図表7-2-2 県の広報媒体の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	県の広報紙「県のとより」	県のホームページ	タウン誌、ミニコミ誌等	県が発行する冊子・パンフレット・チラシ等	新聞での紙面広報	県の広報テレビ番組（tvk「カナフルTV」）	MAKAGAWA Muffin	県の広報ラジオ番組（FMヨコハ）	県の公式YouTube動画サイト「かなちゃんTV」	県のソーシャルメディア	知っているものはない	無回答
全体	1,507	67.2	37.1	24.0	19.2	16.6	14.3	11.8	6.6	2.0	10.8	3.2	
【地域別】													
横浜	588	71.4	36.1	20.6	20.9	13.9	13.8	10.0	6.1	1.4	9.7	3.6	
川崎	212	60.8	38.7	27.4	22.6	16.5	12.7	6.1	4.7	1.9	15.1	2.4	
相模原	99	47.5	32.3	17.2	12.1	18.2	11.1	11.1	6.1	4.0	17.2	4.0	
横須賀三浦	130	75.4	41.5	24.6	14.6	16.2	12.3	8.5	5.4	2.3	9.2	1.5	
県央	154	65.6	40.9	29.9	22.1	20.8	14.9	16.2	7.8	-	11.0	3.9	
湘南	216	62.5	37.5	26.9	16.2	17.6	17.6	20.8	9.7	4.2	9.7	0.9	
県西	62	75.8	46.8	22.6	14.5	21.0	19.4	9.7	6.5	-	6.5	4.8	
【性・年代別】													
男性	628	62.7	37.9	21.5	20.7	17.0	13.5	12.6	6.7	1.3	14.0	2.9	
女性	800	70.5	38.5	25.8	18.3	15.8	14.8	11.4	6.6	2.5	8.5	2.9	
男性18～29歳	25	20.0	28.0	16.0	12.0	12.0	8.0	16.0	4.0	4.0	44.0	4.0	
30歳代	68	44.1	36.8	26.5	19.1	19.1	19.1	33.8	2.9	4.4	16.2	-	
40歳代	125	55.2	41.6	22.4	17.6	9.6	9.6	13.6	6.4	-	17.6	0.8	
50歳代	154	64.3	48.7	16.2	16.9	13.0	17.5	13.0	11.0	1.3	14.3	2.6	
60歳代	126	73.0	42.9	21.4	25.4	19.8	14.3	7.9	6.3	1.6	11.1	1.6	
70～74歳	75	74.7	24.0	21.3	22.7	28.0	8.0	5.3	5.3	-	9.3	5.3	
75歳以上	55	78.2	12.7	30.9	30.9	23.6	12.7	1.8	3.6	-	1.8	10.9	
女性18～29歳	36	19.4	36.1	11.1	16.7	16.7	11.1	25.0	5.6	5.6	19.4	-	
30歳代	129	48.1	36.4	24.0	13.2	10.1	12.4	14.7	3.1	4.7	14.7	1.6	
40歳代	196	68.4	46.9	23.0	17.3	10.7	11.7	10.2	10.7	2.0	11.2	2.6	
50歳代	186	79.6	48.4	31.2	16.1	14.0	16.1	9.1	4.8	3.8	7.0	1.1	
60歳代	135	86.7	34.8	24.4	23.0	17.8	17.8	13.3	9.6	0.7	3.0	2.2	
70～74歳	78	82.1	19.2	35.9	28.2	28.2	17.9	6.4	2.6	-	1.3	9.0	
75歳以上	38	81.6	10.5	18.4	15.8	36.8	18.4	7.9	5.3	-	2.6	10.5	

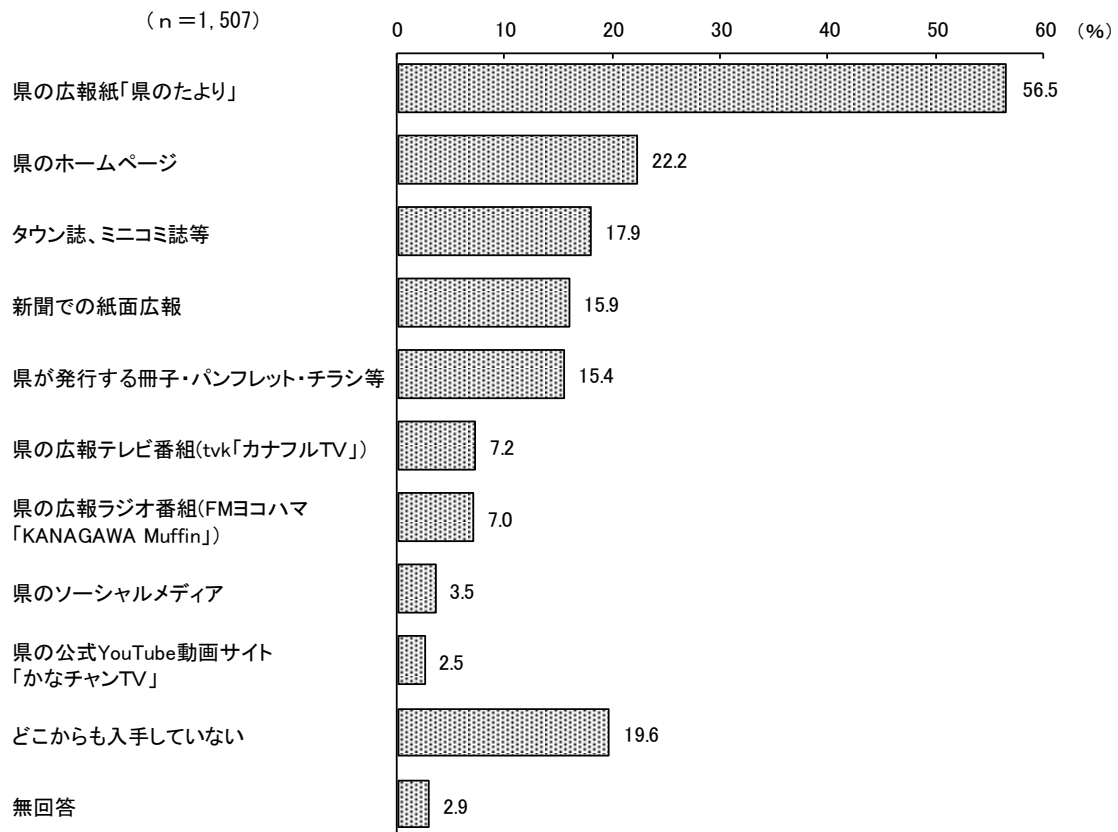
### 3 県の情報の入手先【問23】

#### 【全体の状況】

県の事業や行事、お知らせ等の情報をどこから入手しているか複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が56.5%で最も多く、次いで「県のホームページ」が22.2%であった。

(図表7-3-1)

図表7-3-1 県の情報の入手先（複数回答）



図表7-3-2 県の情報の入手先（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	タウン誌、ミニコミ誌等	新聞での紙面広報	県が発行する冊子・パンフレット・チラシ等	県の広報テレビ番組（tvk「カナフルTV」）	マフフィン（MufFin）	県の広報ラジオ番組（FMヨコハマKANAGAWA）	県のソーシャルメディア	県の公式YouTube動画サイト「かなちゃんTV」	どこからも入手していない	無回答
全体	1,507	56.5	22.2	17.9	15.9	15.4	7.2	7.0	3.5	2.5	19.6	2.9	
【地域別】													
横浜	588	60.7	20.1	15.1	13.1	16.2	7.5	4.6	3.9	1.9	17.3	3.2	
川崎	212	52.4	21.7	18.9	13.2	19.8	4.2	2.4	2.4	0.5	26.9	1.9	
相模原	99	31.3	20.2	14.1	19.2	8.1	3.0	10.1	4.0	4.0	34.3	3.0	
横須賀三浦	130	65.4	27.7	19.2	13.8	12.3	10.0	7.7	4.6	2.3	15.4	1.5	
県央	154	56.5	26.6	24.0	20.1	18.8	7.1	7.8	-	5.2	14.3	3.2	
湘南	216	50.0	24.5	21.3	18.1	12.5	8.8	12.5	6.0	3.7	21.8	1.9	
県西	62	66.1	27.4	11.3	22.6	14.5	6.5	9.7	3.2	3.2	14.5	3.2	
【性・年代別】													
男性	628	51.3	24.5	15.1	16.6	17.2	7.5	7.6	1.9	2.7	23.2	2.5	
女性	800	60.1	21.4	19.9	14.9	14.4	6.8	6.1	4.9	2.3	17.5	2.6	
男性18~29歳	25	16.0	12.0	8.0	16.0	8.0	4.0	8.0	8.0	-	56.0	-	
30歳代	68	22.1	19.1	13.2	8.8	10.3	7.4	22.1	4.4	-	42.6	-	
40歳代	125	40.8	24.0	13.6	4.8	16.0	4.0	7.2	0.8	1.6	32.8	0.8	
50歳代	154	48.7	33.1	14.3	13.0	11.7	8.4	8.4	2.6	4.5	22.1	2.6	
60歳代	126	64.3	31.0	16.7	22.2	21.4	8.7	2.4	1.6	2.4	13.5	2.4	
70~74歳	75	74.7	17.3	17.3	30.7	20.0	8.0	6.7	-	2.7	8.0	5.3	
75歳以上	55	72.7	9.1	20.0	30.9	34.5	10.9	1.8	-	5.5	9.1	7.3	
女性18~29歳	36	11.1	11.1	5.6	8.3	8.3	2.8	11.1	11.1	-	58.3	-	
30歳代	129	38.0	21.7	14.0	6.2	14.0	4.7	7.8	8.5	0.8	29.5	0.8	
40歳代	196	53.1	25.5	17.3	6.1	10.7	2.6	4.1	6.6	2.6	21.4	1.5	
50歳代	186	65.6	29.0	23.1	12.9	11.3	6.5	5.9	4.8	1.1	13.4	1.6	
60歳代	135	81.5	21.5	21.5	22.2	17.8	14.1	8.1	1.5	5.2	4.4	2.2	
70~74歳	78	78.2	3.8	34.6	37.2	28.2	6.4	5.1	-	2.6	5.1	10.3	
75歳以上	38	81.6	7.9	15.8	34.2	15.8	15.8	2.6	-	2.6	5.3	7.9	



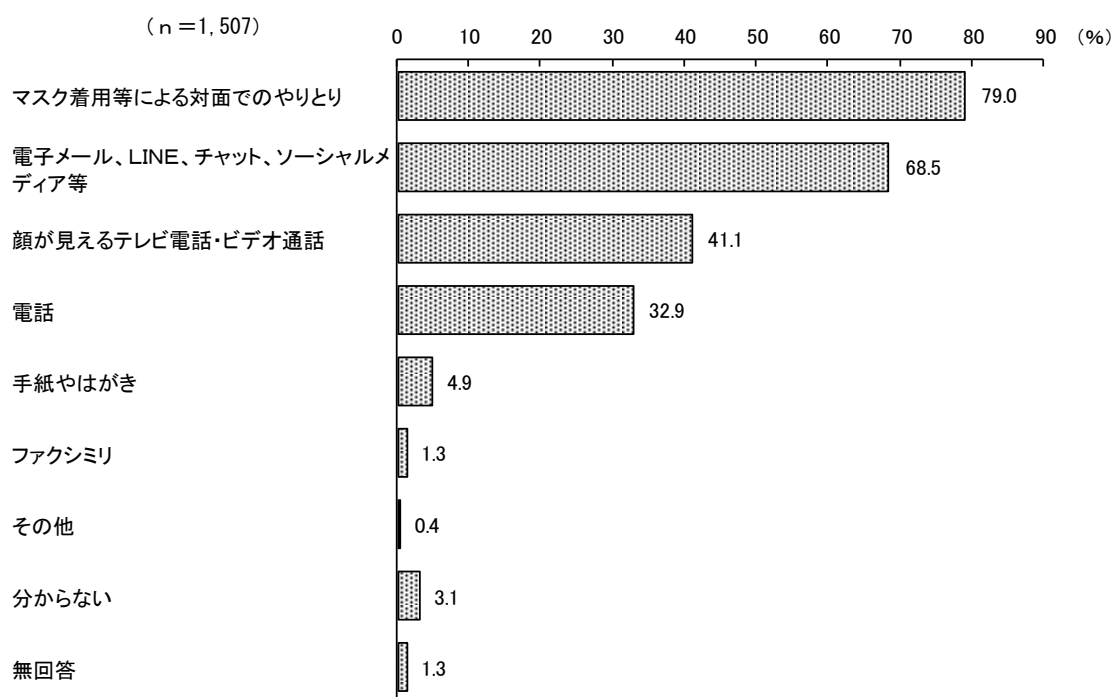
## 第8章 地域コミュニティ【問24～問25】

### 1 コロナ禍で増えていると思うコミュニケーション【問24】

#### 【全体の状況】

3密を避ける生活様式が求められる中、地域住民、家族、親族、友人等とのコミュニティにおいて、どのような手段によるコミュニケーションが増えていると思うか複数回答で尋ねたところ、「マスク着用等による対面でのやりとり」が79.0%で最も多く、次いで「電子メール、LINE、チャット、ソーシャルメディア等」が68.5%であった。(図表8-1-1)

図表8-1-1 コロナ禍で増えていると思うコミュニケーション（複数回答）



図表8-1-2 コロナ禍で増えていると思うコミュニケーション（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	マスク着用等による対面でのやりとり	電子メール、LINE、チャット、ソーシャルメディア等	顔が見えるテレビ電話・ビデオ通話	電話	手紙やはがき	ファクシミリ	その他	分からない	無回答
全 体	1,507	79.0	68.5	41.1	32.9	4.9	1.3	0.4	3.1	1.3
【地 域 別】										
横 浜	588	76.4	68.4	40.8	32.1	5.1	1.0	0.3	3.1	1.9
川 崎	212	76.4	65.6	46.7	36.8	8.5	2.8	0.5	3.8	1.4
相 模 原	99	79.8	67.7	35.4	32.3	4.0	2.0	2.0	5.1	-
横 須 賀 三 浦	130	85.4	79.2	43.8	26.9	2.3	-	-	2.3	-
県 央	154	79.9	69.5	39.6	37.7	5.2	1.9	-	0.6	0.6
湘 南	216	81.5	68.5	44.9	31.5	4.2	0.9	-	3.2	-
県 西	62	85.5	69.4	35.5	30.6	3.2	1.6	1.6	1.6	1.6
【性・年代別】										
男 性	628	75.3	61.1	39.5	29.5	3.3	1.6	0.5	4.5	1.0
女 性	800	81.9	76.3	44.6	34.9	6.4	1.3	0.4	1.8	0.9
男性18～29歳	25	76.0	60.0	60.0	32.0	-	-	-	4.0	-
30歳代	68	79.4	72.1	48.5	26.5	-	-	-	4.4	-
40歳代	125	76.0	63.2	48.0	19.2	4.0	2.4	-	3.2	1.6
50歳代	154	71.4	66.9	40.3	28.6	3.2	1.9	-	3.9	-
60歳代	126	80.2	61.1	38.1	27.0	4.8	0.8	1.6	4.0	0.8
70～74歳	75	69.3	56.0	24.0	41.3	4.0	2.7	-	8.0	1.3
75歳以上	55	76.4	34.5	21.8	47.3	3.6	1.8	1.8	5.5	3.6
女性18～29歳	36	69.4	77.8	66.7	22.2	8.3	-	-	2.8	-
30歳代	129	83.7	82.2	62.8	27.9	3.1	-	-	0.8	-
40歳代	196	83.2	81.1	47.4	25.5	5.6	-	0.5	1.0	1.0
50歳代	186	80.1	81.2	39.8	26.9	4.8	2.7	-	2.2	0.5
60歳代	135	83.0	84.4	41.5	43.0	5.9	1.5	-	2.2	1.5
70～74歳	78	84.6	47.4	24.4	65.4	14.1	1.3	1.3	1.3	2.6
75歳以上	38	78.9	39.5	26.3	68.4	13.2	5.3	2.6	5.3	-

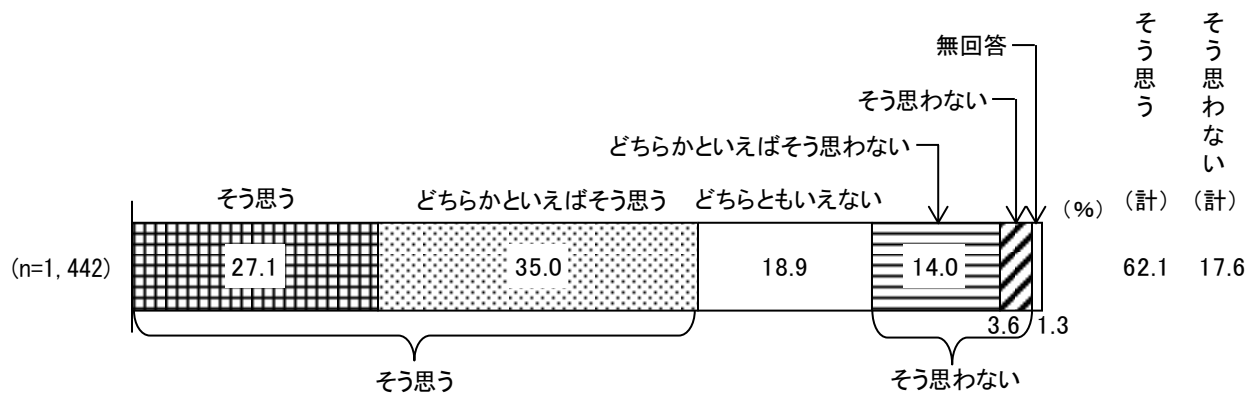
## 2 コロナ禍で増えているコミュニケーションの取りやすさ【問24-1】

### 【全体の状況】

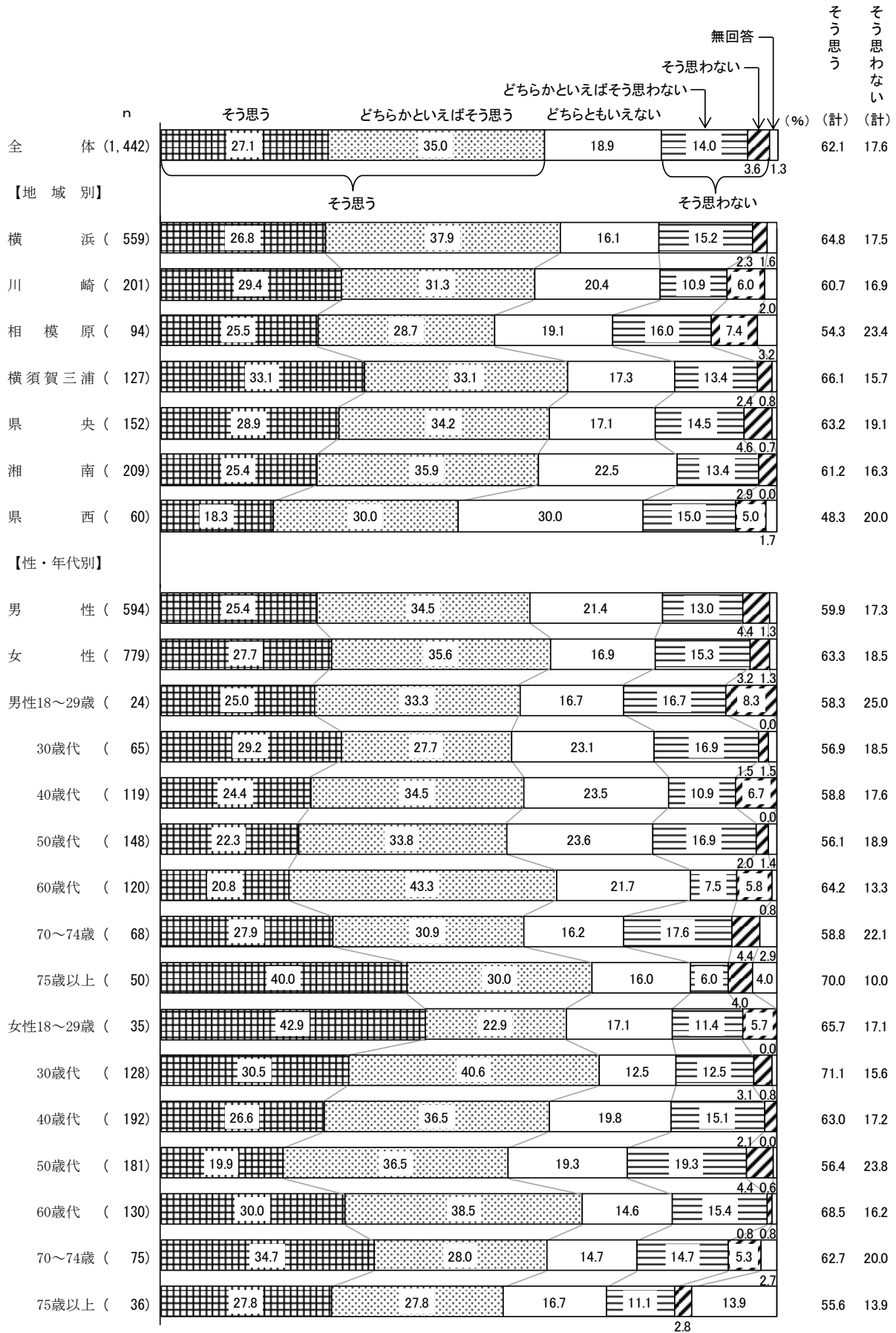
コロナ禍で増えていると思うコミュニケーション（問24）で「マスク着用等による対面でのやりとり」、「顔が見えるテレビ電話、ビデオ通話」、「電子メール、LINE、チャット、ソーシャルメディア等」、「電話」、「手紙やはがき」、「ファクシミリ」、「その他」のいずれかを回答した1,442人に、これらのコミュニケーションは取りやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」（27.1%）と「どちらかといえばそう思う」（35.0%）を合わせた《そう思う》は62.1%であった。

一方、「そう思わない」（3.6%）と「どちらかといえばそう思わない」（14.0%）を合わせた《そう思わない》は17.6%であった。（図表8-2-1）

図表8-2-1 コロナ禍で増えているコミュニケーションの取りやすさ



図表8-2-2 コロナ禍で増えているコミュニケーションの取りやすさ—地域別、性・年代別

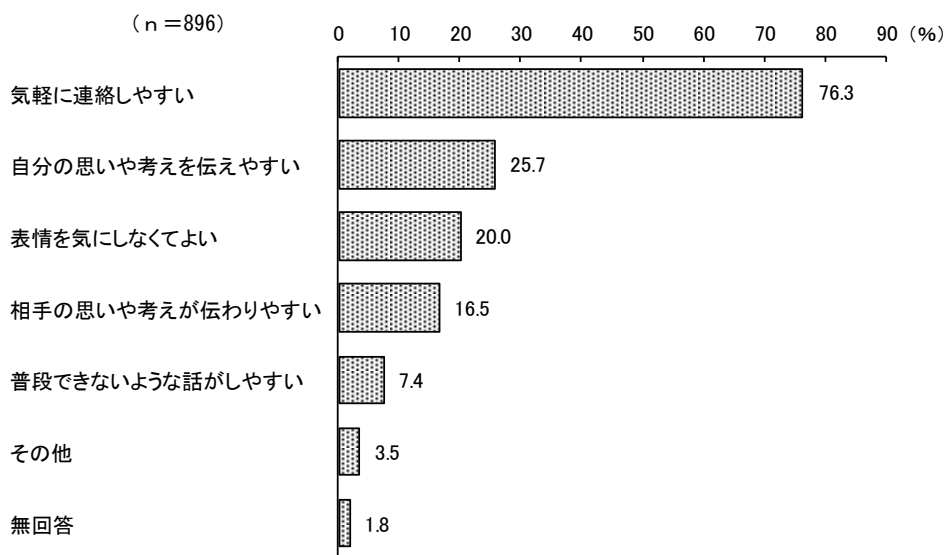


### 3 コロナ禍で増えているコミュニケーションが取りやすい理由【問24-1-1】

#### 【全体の状況】

コロナ禍で増えているコミュニケーションの取りやすさ（問24-1）で「そう思う」または、「どちらかといえばそう思う」と回答した896人に、取りやすいと思う理由を複数回答で尋ねたところ、「気軽に連絡しやすい」が76.3%で最も多く、次いで「自分の思いや考えを伝えやすい」が25.7%であった。（図表8-3-1）

図表8-3-1 コロナ禍で増えているコミュニケーションが取りやすい理由（複数回答）



図表8-3-2 コロナ禍で増えているコミュニケーションが取りやすい理由（複数回答）

—地域別、性・年代別

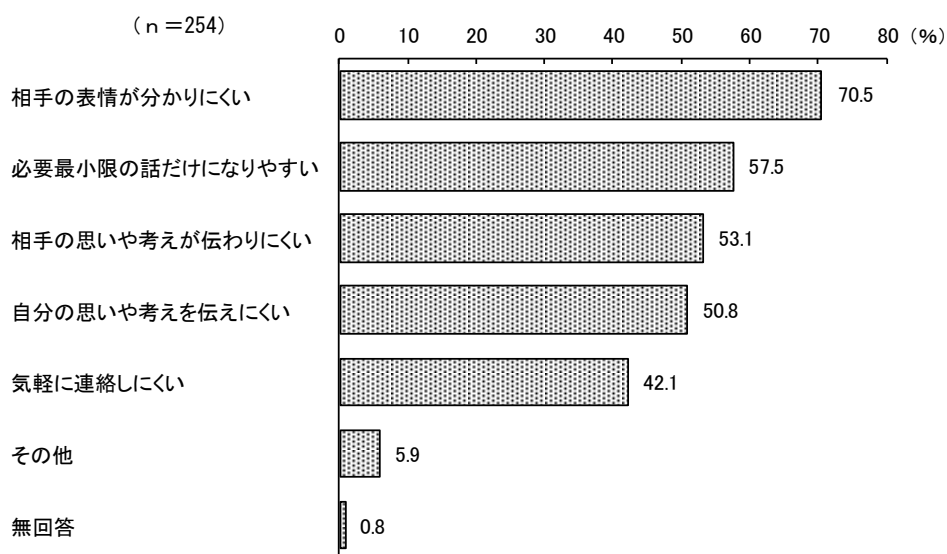
		(%)						
	n	気軽に連絡しやすい	自分の思いや考えを伝えやすい	表情を気にしなくてよい	相手の思いや考えが伝わりやすい	普段できないような話がしやすい	その他	無回答
全 体	896	76.3	25.7	20.0	16.5	7.4	3.5	1.8
<b>【地 域 別】</b>								
横 浜	362	76.5	25.7	19.6	17.7	6.6	2.8	1.7
川 崎	122	80.3	24.6	19.7	13.1	9.0	4.1	0.8
相 模 原	51	68.6	27.5	27.5	17.6	3.9	3.9	3.9
横須賀三浦	84	81.0	23.8	17.9	13.1	9.5	4.8	-
県 央	96	81.3	27.1	16.7	18.8	6.3	3.1	2.1
湘 南	128	75.0	24.2	22.7	15.6	8.6	3.1	1.6
県 西	29	65.5	27.6	13.8	13.8	6.9	3.4	6.9
<b>【性・年代別】</b>								
男 性	356	69.9	30.1	21.6	18.8	10.1	3.4	2.0
女 性	493	81.9	22.3	18.3	14.4	5.5	3.7	1.2
男性18～29歳	14	78.6	7.1	7.1	-	21.4	-	-
30歳代	37	67.6	27.0	27.0	8.1	16.2	8.1	-
40歳代	70	65.7	17.1	22.9	14.3	10.0	2.9	1.4
50歳代	83	73.5	25.3	16.9	13.3	1.2	7.2	2.4
60歳代	77	71.4	33.8	19.5	19.5	7.8	1.3	2.6
70～74歳	40	70.0	47.5	17.5	35.0	10.0	-	-
75歳以上	35	65.7	51.4	40.0	40.0	25.7	-	5.7
女性18～29歳	23	82.6	13.0	47.8	4.3	-	-	-
30歳代	91	76.9	20.9	15.4	7.7	7.7	5.5	-
40歳代	121	84.3	11.6	19.8	9.1	5.0	5.8	-
50歳代	102	86.3	17.6	19.6	7.8	1.0	2.9	2.0
60歳代	89	83.1	30.3	10.1	15.7	7.9	2.2	2.2
70～74歳	47	78.7	46.8	17.0	44.7	10.6	2.1	2.1
75歳以上	20	70.0	35.0	20.0	45.0	5.0	-	5.0

#### 4 コロナ禍で増えているコミュニケーションが取りにくい理由【問24-1-2】

##### 【全体の状況】

コロナ禍で増えているコミュニケーションの取りやすさ（問24-1）で「どちらかといえばそう思わない」または、「そう思わない」と回答した254人に、取りにくいと思う理由を複数回答で尋ねたところ、「相手の表情が分かりにくい」が70.5%で最も多く、次いで「必要最小限の話だけになりやすい」が57.5%であった。（図表8-4-1）

図表8-4-1 コロナ禍で増えているコミュニケーションが取りにくい理由（複数回答）



図表8-4-2 コロナ禍で増えているコミュニケーションが取りにくい理由（複数回答）

－地域別、性・年代別  
（サンプル数が少ないため参考）

(%)

	n	相手の表情が分かりにくい	必要最小限の話だけになりやすい	相手の思いや考えが伝わりにくい	自分の思いや考えを伝えにくい	気軽に連絡しにくい	その他	無回答
全 体	254	70.5	57.5	53.1	50.8	42.1	5.9	0.8
【地 域 別】								
横 浜	98	71.4	57.1	59.2	56.1	37.8	5.1	1.0
川 崎	34	64.7	55.9	44.1	38.2	47.1	8.8	2.9
相 模 原	22	63.6	63.6	54.5	45.5	45.5	-	-
横 須 賀 三 浦	20	70.0	60.0	60.0	40.0	50.0	5.0	-
県 央	29	86.2	51.7	51.7	55.2	41.4	6.9	-
湘 南	34	52.9	55.9	44.1	55.9	50.0	11.8	-
県 西	12	91.7	50.0	50.0	58.3	25.0	-	-
【性・年代別】								
男 性	103	68.0	46.6	63.1	57.3	31.1	4.9	1.0
女 性	144	71.5	63.9	47.2	47.9	50.7	6.3	0.7
男性18～29歳	6	100.0	33.3	66.7	50.0	33.3	-	-
30歳代	12	91.7	41.7	83.3	50.0	25.0	-	-
40歳代	21	61.9	42.9	57.1	52.4	19.0	9.5	4.8
50歳代	28	64.3	42.9	71.4	67.9	35.7	7.1	-
60歳代	16	87.5	56.3	62.5	68.8	31.3	6.3	-
70～74歳	15	40.0	60.0	46.7	46.7	40.0	-	-
75歳以上	5	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	-	-
女性18～29歳	6	83.3	83.3	50.0	50.0	33.3	-	-
30歳代	20	60.0	50.0	50.0	60.0	60.0	5.0	-
40歳代	33	90.9	57.6	51.5	48.5	57.6	9.1	-
50歳代	43	62.8	55.8	48.8	41.9	44.2	7.0	-
60歳代	21	71.4	76.2	47.6	57.1	47.6	4.8	-
70～74歳	15	66.7	86.7	26.7	40.0	53.3	6.7	6.7
75歳以上	5	60.0	80.0	40.0	20.0	60.0	-	-



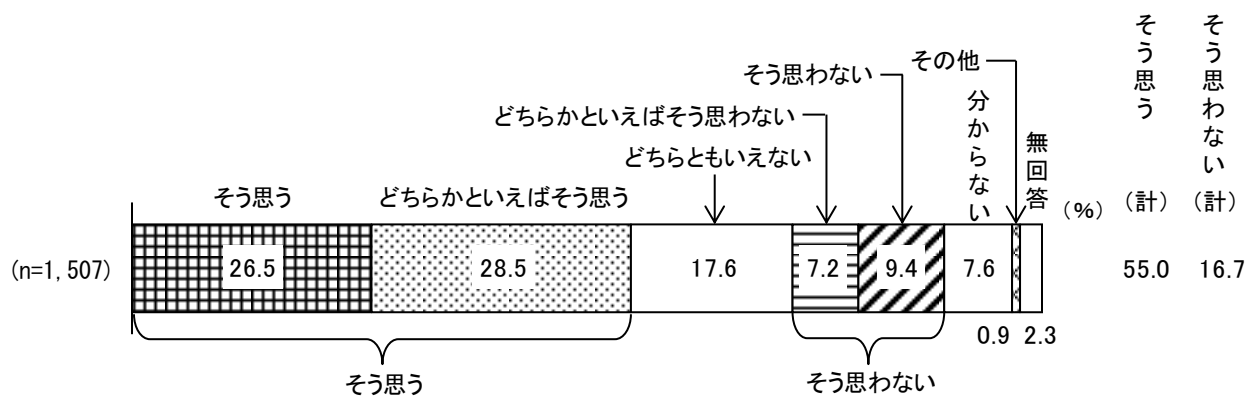
## 5 コロナ禍を機に始めたコミュニケーションの継続意向【問25】

### 【全体の状況】

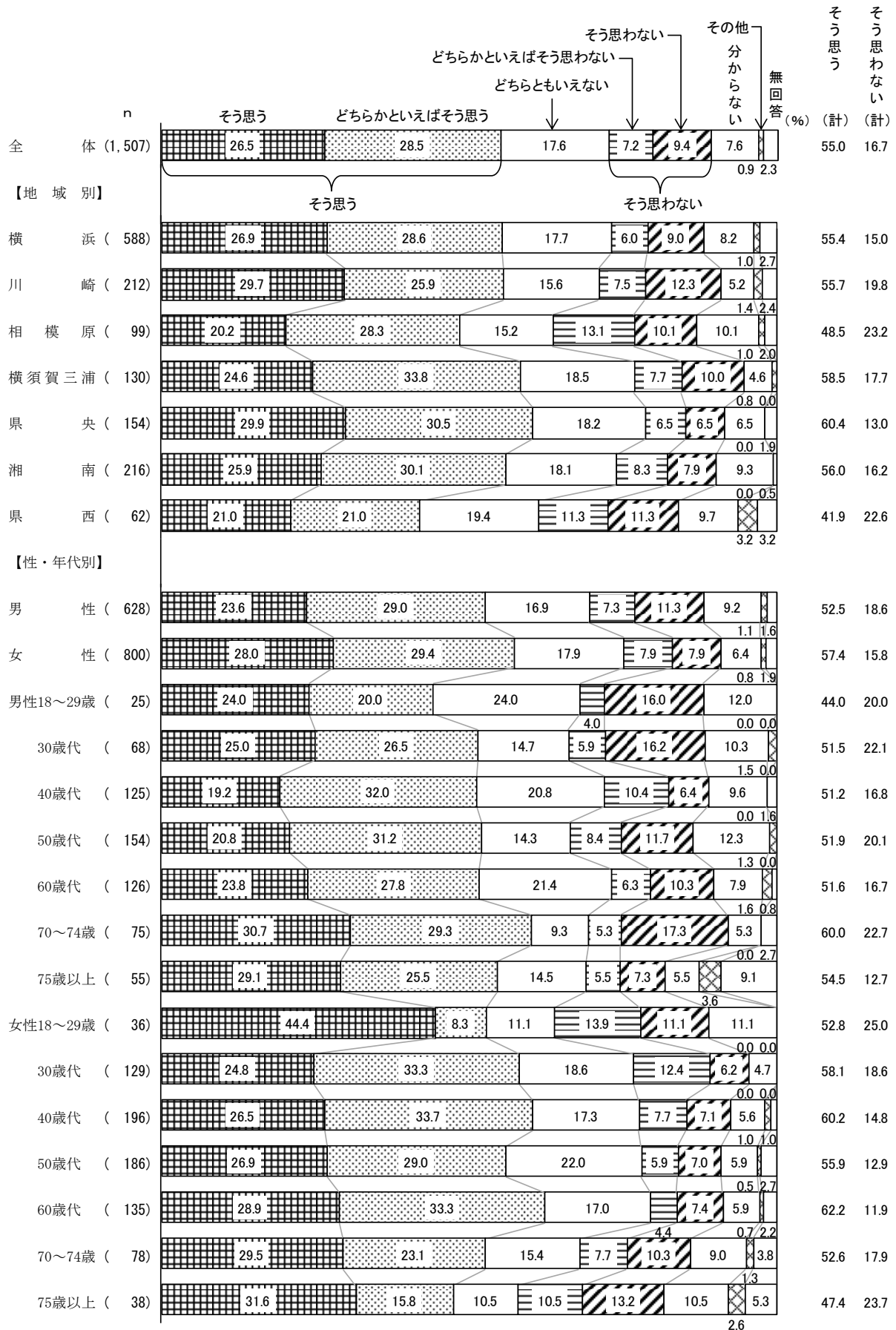
コロナ禍を機に始めたコミュニケーションの取り方を今後も続けたいと思うか尋ねたところ、「そう思う」(26.5%)と「どちらかといえばそう思う」(28.5%)を合わせた《そう思う》は55.0%であった。

一方、「そう思わない」(9.4%)と「どちらかといえばそう思わない」(7.2%)を合わせた《そう思わない》は16.7%であった。(図表8-5-1)

図表8-5-1 コロナ禍を機に始めたコミュニケーションの継続意向



図表8-5-2 コロナ禍を機に始めたコミュニケーションの継続意向—地域別、性・年代別



## 第9章 子育てにおける体罰【問26～問28】

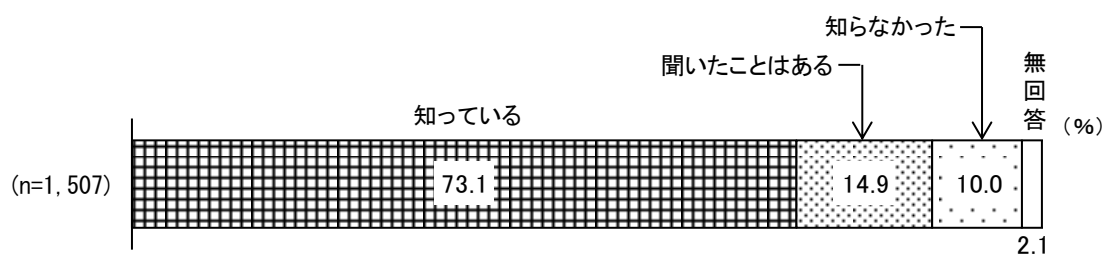
### 1 体罰禁止が法定化されたことの認知度【問26】

#### 【全体の状況】

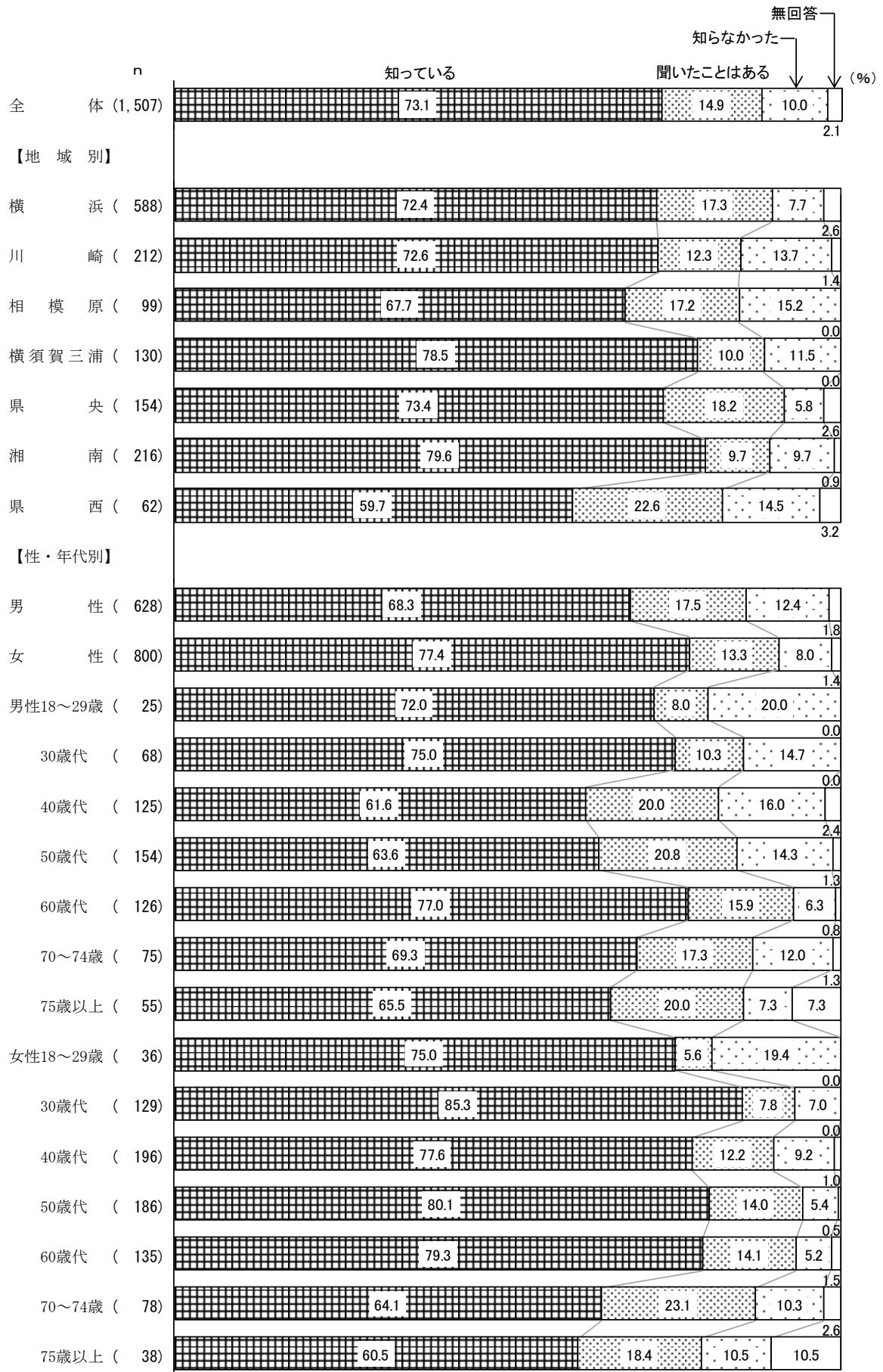
保護者から子どもへの体罰が許されないものである、と法律で定められていることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が73.1%であった。

一方、「知らなかった」が10.0%であった。(図表9-1-1)

図表9-1-1 体罰禁止が法定化されたことの認知度



図表9-1-2 体罰禁止が法定化されたことの認知度—地域別、性・年代別



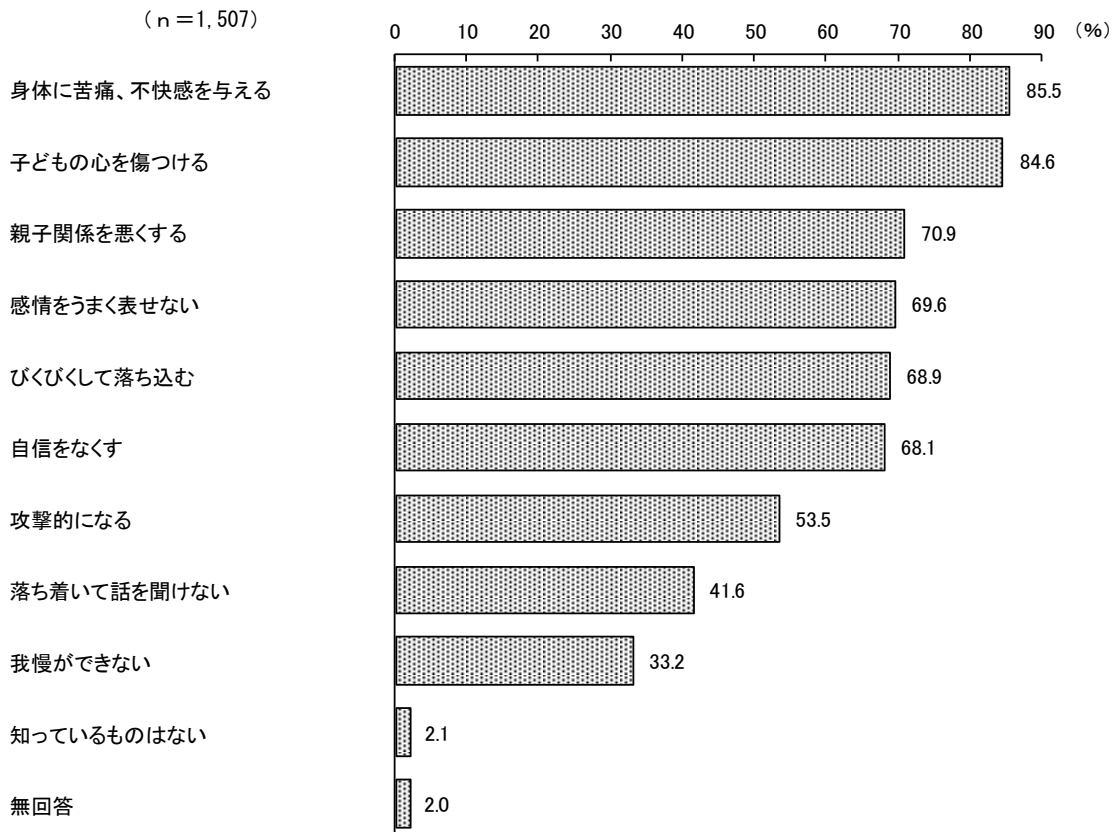
## 2 体罰が子どもに与える影響【問27】

### 【全体の状況】

体罰等が子どもに与える影響について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「身体に苦痛、不快感を与える」が85.5%で最も多く、次いで「子どもの心を傷つける」が84.6%であった。

(図表 9-2-1)

図表9-2-1 体罰が子どもに与える影響（複数回答）



図表9-2-2 体罰が子どもに与える影響（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

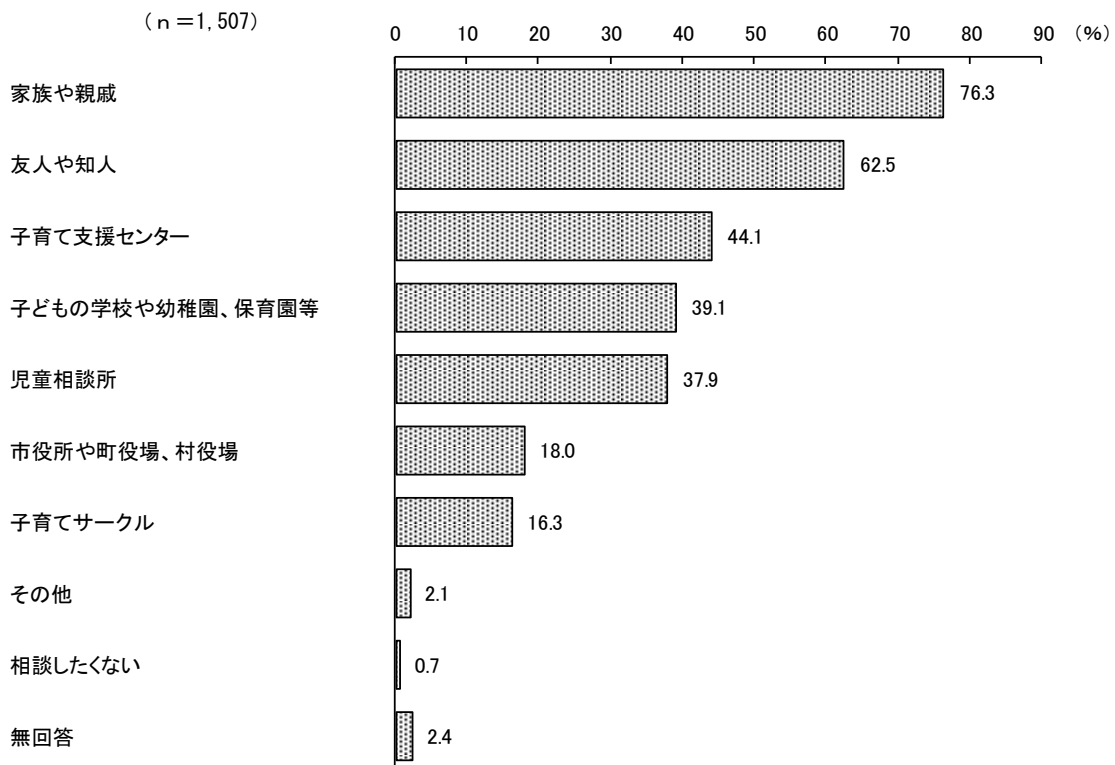
	n	身体に苦痛、不快感を与える	子どもの心を傷つける	親子関係を悪くする	感情をうまく表せない	びくびくして落ち込む	自信をなくす	攻撃的になる	落ち着いて話を聞けない	我慢ができない	知っているものはない	無回答
全 体	1,507	85.5	84.6	70.9	69.6	68.9	68.1	53.5	41.6	33.2	2.1	2.0
【地 域 別】												
横 浜	588	87.6	84.5	71.4	68.9	68.5	65.8	54.8	40.1	33.7	2.0	2.4
川 崎	212	83.5	88.2	73.1	71.7	71.7	73.6	52.8	43.4	36.8	2.4	0.9
相 模 原	99	85.9	81.8	70.7	70.7	66.7	70.7	50.5	45.5	34.3	2.0	2.0
横 須 賀 三 浦	130	87.7	86.9	72.3	70.0	73.8	67.7	51.5	42.3	28.5	1.5	0.8
県 央	154	86.4	82.5	66.9	67.5	65.6	66.2	55.2	43.5	29.9	1.3	2.6
湘 南	216	82.9	84.3	73.6	71.8	71.8	70.4	57.4	44.4	36.1	2.3	0.5
県 西	62	82.3	85.5	67.7	75.8	67.7	69.4	54.8	40.3	30.6	1.6	1.6
【性・年代別】												
男 性	628	82.6	78.5	66.6	63.5	64.0	60.5	46.5	40.9	32.6	3.3	1.6
女 性	800	88.8	90.4	75.8	75.4	73.8	74.9	61.0	43.4	34.9	1.0	1.4
男性 18~29歳	25	80.0	76.0	76.0	76.0	72.0	80.0	48.0	40.0	32.0	8.0	-
30 歳代	68	88.2	79.4	77.9	79.4	76.5	82.4	66.2	54.4	51.5	2.9	-
40 歳代	125	80.8	77.6	62.4	71.2	68.8	61.6	52.0	49.6	42.4	4.8	1.6
50 歳代	154	82.5	79.9	68.8	63.6	66.2	61.0	46.1	40.9	32.5	3.2	1.3
60 歳代	126	87.3	79.4	66.7	61.9	62.7	57.9	51.6	35.7	28.6	1.6	1.6
70~74歳	75	76.0	80.0	56.0	50.7	53.3	41.3	33.3	29.3	18.7	5.3	1.3
75歳以上	55	80.0	72.7	65.5	41.8	45.5	52.7	16.4	32.7	16.4	-	5.5
女性 18~29歳	36	86.1	86.1	80.6	77.8	75.0	77.8	61.1	30.6	27.8	-	-
30 歳代	129	95.3	92.2	80.6	81.4	82.2	80.6	71.3	50.4	44.2	-	-
40 歳代	196	89.3	94.9	79.6	80.1	73.0	82.7	65.8	43.9	37.8	1.0	1.0
50 歳代	186	88.2	91.4	75.3	78.5	75.8	75.8	59.1	45.7	34.4	2.2	0.5
60 歳代	135	91.1	88.1	74.1	76.3	71.9	66.7	55.6	43.0	32.6	0.7	2.2
70~74歳	78	82.1	85.9	65.4	52.6	61.5	61.5	48.7	38.5	28.2	-	3.8
75歳以上	38	76.3	76.3	65.8	57.9	71.1	68.4	55.3	31.6	21.1	2.6	5.3

### 3 子どものしつけで困った時の相談先【問28】

#### 【全体の状況】

子どものしつけで困った時に、誰に（どこに）相談すべきだと思うか複数回答で尋ねたところ、「家族や親戚」が76.3%で最も多く、次いで「友人や知人」が62.5%であった。（図表9-3-1）

図表9-3-1 子どものしつけで困った時の相談先（複数回答）



図表9-3-2 子どものしつけで困った時の相談先（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	家族や親戚	友人や知人	子育て支援センター	子どもの学校や幼稚園、保育園等	児童相談所	市役所や町役場、村役場	子育てサークル	その他	相談したくない	無回答
全体	1,507	76.3	62.5	44.1	39.1	37.9	18.0	16.3	2.1	0.7	2.4
【地域別】											
横浜	588	75.7	62.4	44.9	39.3	37.1	18.0	17.7	2.2	0.5	2.9
川崎	212	79.2	63.2	43.9	42.5	34.0	17.0	17.0	1.9	0.5	1.4
相模原	99	80.8	67.7	44.4	41.4	36.4	13.1	16.2	-	1.0	2.0
横須賀三浦	130	76.9	68.5	39.2	36.9	40.0	14.6	16.2	2.3	0.8	1.5
県央	154	76.6	59.7	43.5	40.9	42.9	20.1	14.3	3.9	-	2.6
湘南	216	75.9	61.1	44.4	38.9	39.4	21.3	15.3	2.3	1.4	0.9
県西	62	75.8	62.9	50.0	33.9	37.1	14.5	12.9	-	3.2	3.2
【性・年代別】											
男性	628	74.2	56.7	33.9	34.1	40.8	15.4	12.6	1.8	1.0	2.1
女性	800	79.3	68.6	53.1	44.8	35.1	20.0	20.0	2.5	0.5	2.0
男性18～29歳	25	84.0	80.0	36.0	40.0	56.0	28.0	20.0	-	4.0	-
30歳代	68	80.9	73.5	39.7	39.7	39.7	19.1	19.1	2.9	-	-
40歳代	125	81.6	59.2	29.6	37.6	30.4	17.6	11.2	2.4	0.8	2.4
50歳代	154	70.1	56.5	31.8	35.7	42.9	14.3	17.5	-	1.9	0.6
60歳代	126	74.6	58.7	34.9	29.4	40.5	13.5	9.5	1.6	-	2.4
70～74歳	75	65.3	42.7	34.7	25.3	40.0	9.3	5.3	4.0	1.3	1.3
75歳以上	55	67.3	34.5	38.2	34.5	54.5	16.4	7.3	1.8	-	9.1
女性18～29歳	36	69.4	58.3	55.6	47.2	50.0	27.8	19.4	-	2.8	-
30歳代	129	84.5	79.1	57.4	55.8	36.4	24.8	19.4	2.3	-	-
40歳代	196	80.6	71.4	52.0	48.0	34.7	18.4	24.5	5.6	-	1.5
50歳代	186	76.3	71.0	55.9	41.9	30.1	21.0	21.0	1.6	0.5	0.5
60歳代	135	85.9	68.9	55.6	40.7	34.8	17.0	17.8	-	-	2.2
70～74歳	78	76.9	57.7	42.3	35.9	33.3	15.4	16.7	1.3	2.6	6.4
75歳以上	38	60.5	39.5	42.1	34.2	47.4	18.4	10.5	2.6	-	10.5



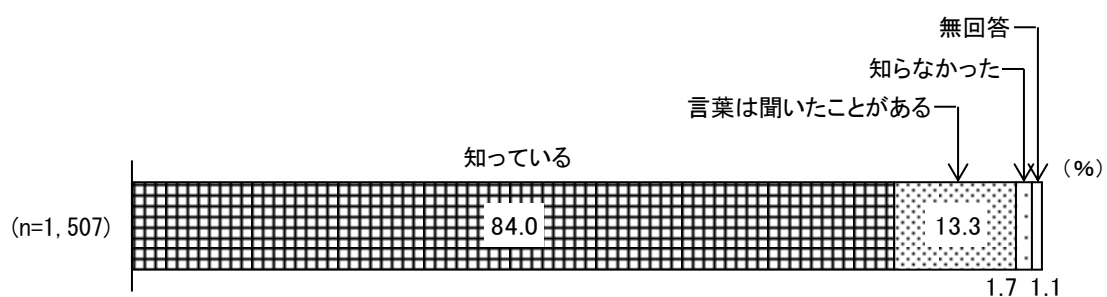
## 第10章 消防団の認知度【問29～問31】

### 1 消防団の認知度【問29】

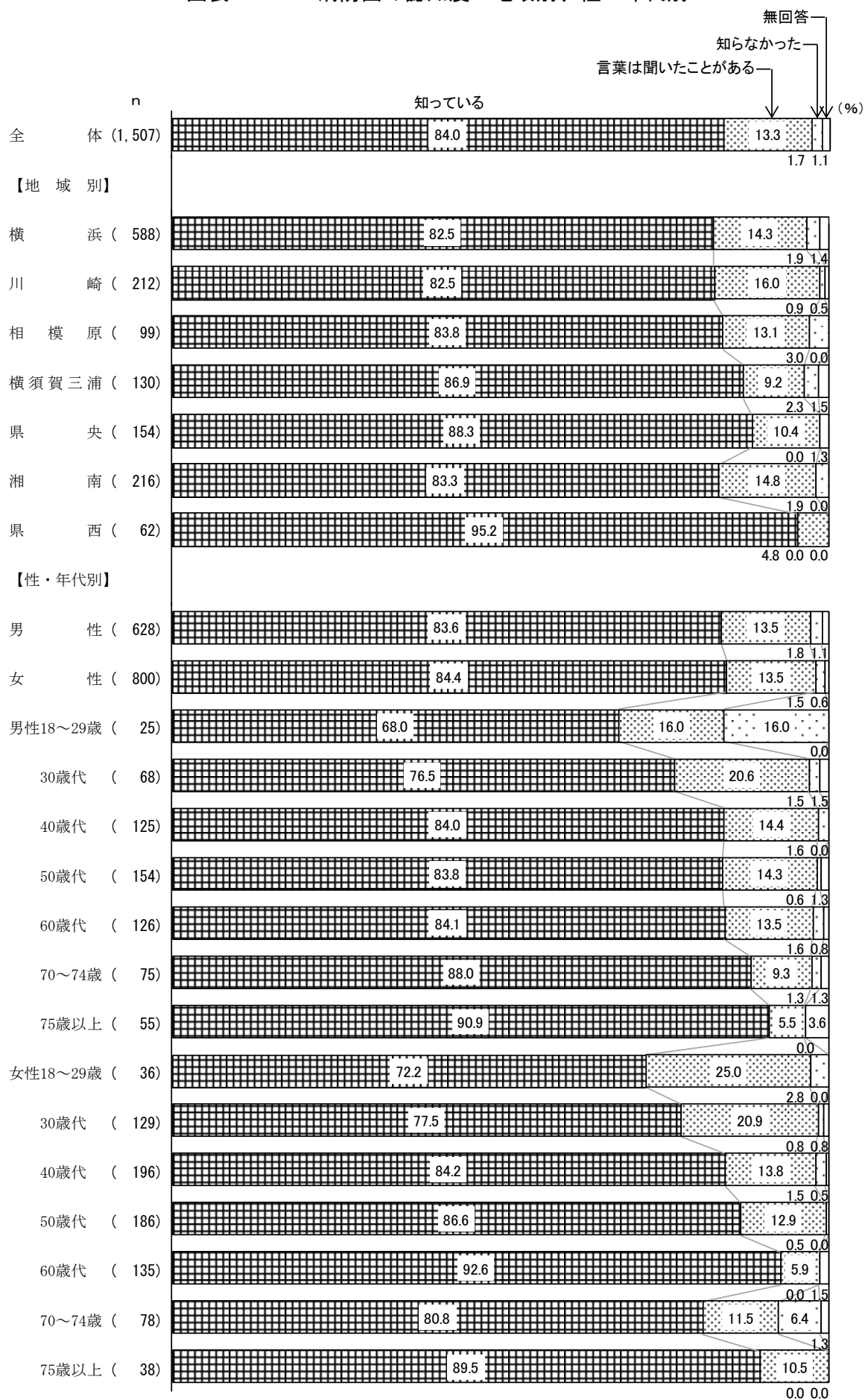
#### 【全体の状況】

消防団を知っているか尋ねたところ、「知っている」が84.0%であった。  
一方、「知らなかった」は、1.7%であった。(図表10-1-1)

図表10-1-1 消防団の認知度



図表10-1-2 消防団の認知度—地域別、性・年代別



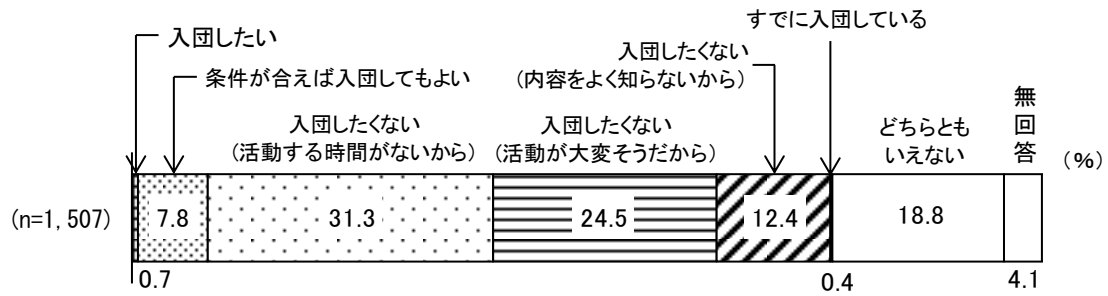
## 2 消防団への入団意向【問30】

### 【全体の状況】

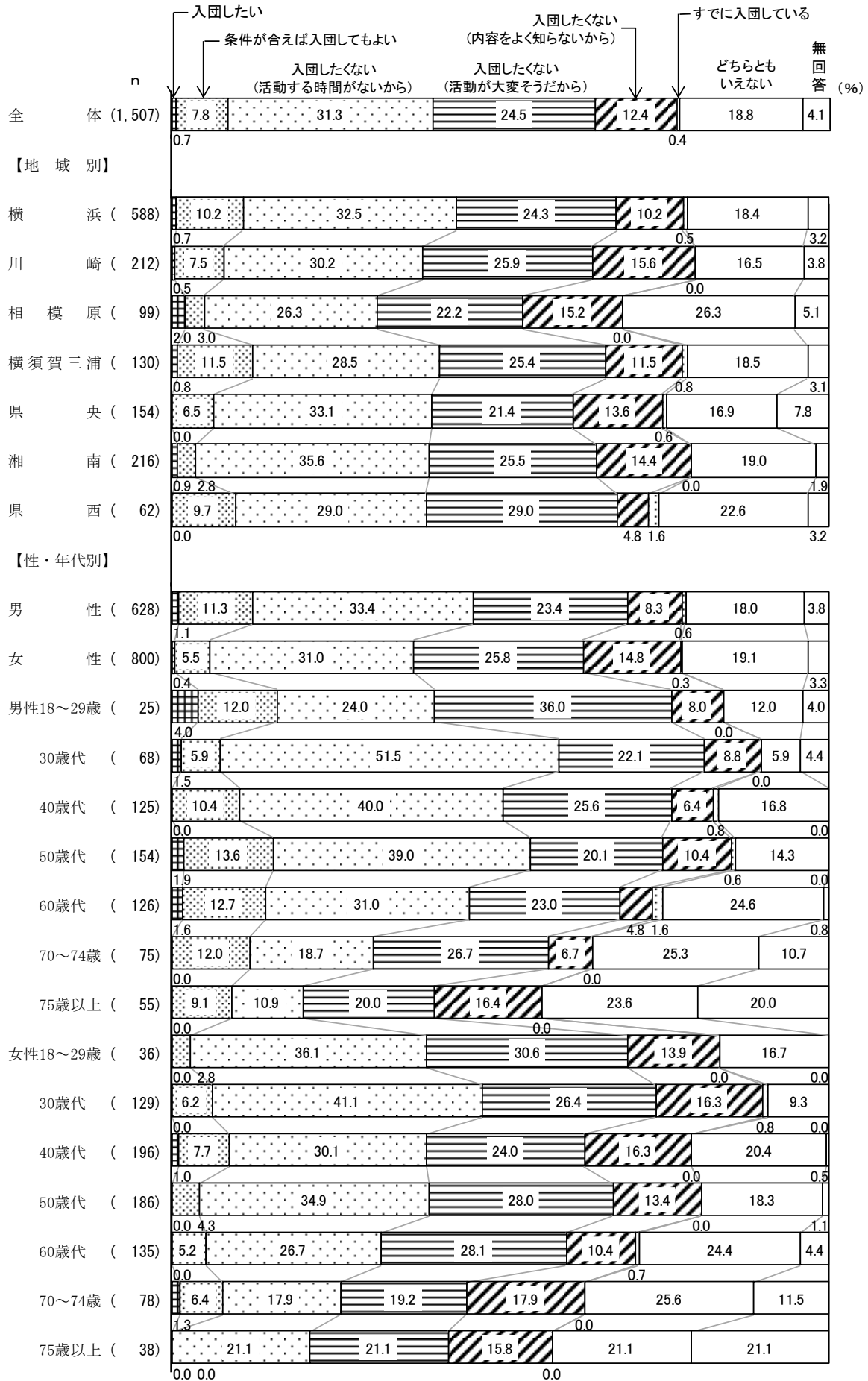
消防団に入団したいと思うか尋ねたところ、「入団したくない(活動する時間がないから)」が31.3%で最も多く、次いで「入団したくない(活動が大変そうだから)」が24.5%であった。

(図表 10-2-1)

図表10-2-1 消防団への入団意向



図表10-2-2 消防団への入団意向—地域別、性・年代別

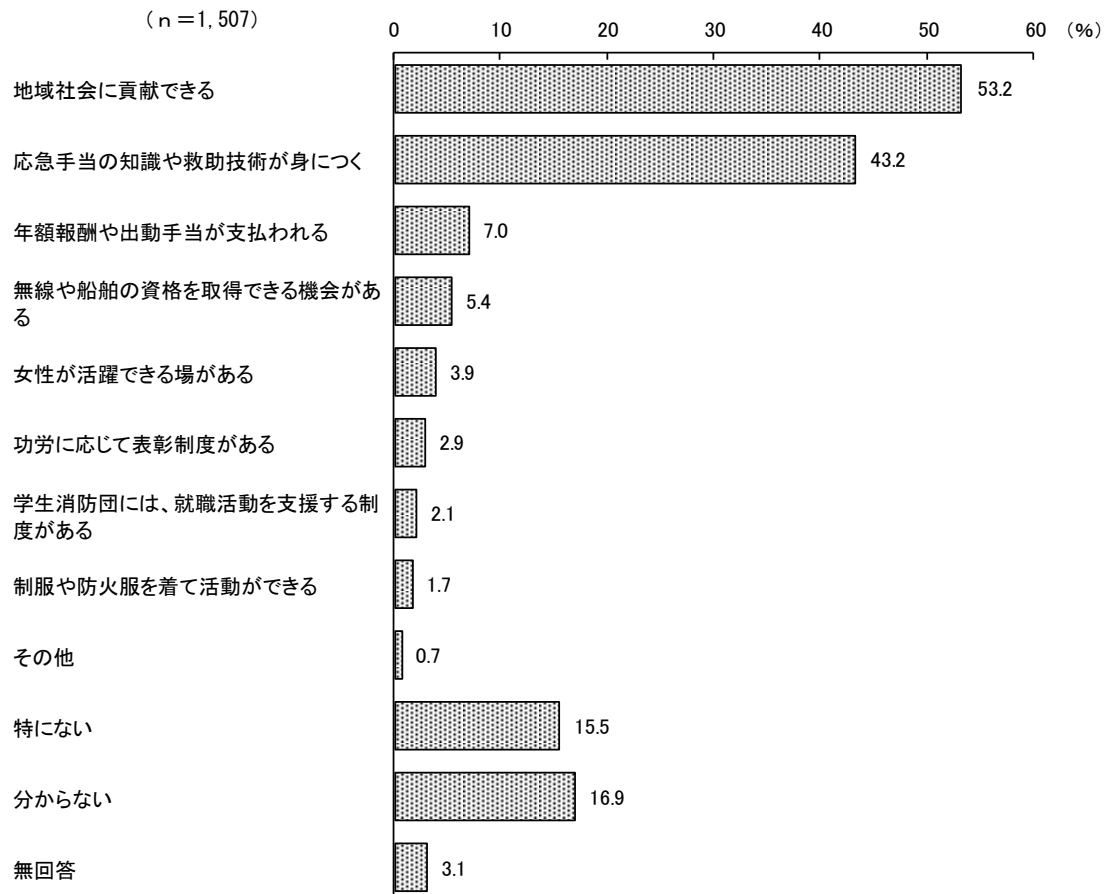


### 3 消防団の活動や消防団員の待遇で魅力を感じること【問31】

#### 【全体の状況】

消防団の活動や消防団員の待遇で魅力を感じることを複数回答で尋ねたところ、「地域社会に貢献できる」が53.2%で最も多く、次いで「応急手当の知識や救助技術が身につく」が43.2%であった。（図表 10-3-1）

図表10-3-1 消防団の活動や消防団員の待遇で魅力を感じること（複数回答）



図表10-3-2 消防団の活動や消防団員の待遇で魅力を感じる事（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

	n	地域社会に貢献できる	応急手当の知識や救助技術が身につく	年額報酬や出勤手当が支払われる	無線や船舶の資格を取得できる機会がある	女性が活躍できる場がある	功労に応じて表彰制度がある	学生消防団には、就職活動を支援する制度がある	制服や防火服を着て活動ができる	その他	特になし	分からない	無回答
全体	1,507	53.2	43.2	7.0	5.4	3.9	2.9	2.1	1.7	0.7	15.5	16.9	3.1
【地域別】													
横浜	588	54.8	43.5	6.5	5.8	3.4	2.9	1.9	1.7	0.2	14.8	15.8	3.2
川崎	212	50.9	42.5	7.5	5.7	3.8	1.9	3.3	0.5	0.9	17.9	17.0	1.9
相模原	99	48.5	39.4	5.1	4.0	1.0	4.0	1.0	4.0	1.0	20.2	21.2	3.0
横須賀三浦	130	56.9	41.5	5.4	6.9	4.6	3.8	3.1	1.5	0.8	13.1	13.8	3.1
県央	154	55.2	53.2	4.5	6.5	4.5	2.6	0.6	1.3	0.6	13.0	15.6	4.5
湘南	216	47.7	40.3	10.2	3.7	5.1	4.2	3.2	3.2	0.9	17.1	21.3	1.9
県西	62	51.6	41.9	11.3	4.8	6.5	-	-	-	1.6	16.1	14.5	1.6
【性・年代別】													
男性	628	52.1	38.4	7.3	4.9	2.1	3.2	1.3	1.9	0.8	20.7	14.8	2.1
女性	800	53.8	48.6	7.0	5.8	5.5	2.8	2.8	1.8	0.4	11.8	18.4	3.1
男性18～29歳	25	40.0	36.0	12.0	4.0	4.0	8.0	4.0	-	-	28.0	28.0	-
30歳代	68	36.8	29.4	11.8	2.9	-	4.4	-	2.9	-	33.8	19.1	2.9
40歳代	125	42.4	33.6	9.6	8.0	1.6	1.6	2.4	1.6	1.6	24.0	19.2	-
50歳代	154	55.8	39.0	7.1	3.9	0.6	3.2	-	2.6	0.6	19.5	11.0	1.9
60歳代	126	56.3	40.5	6.3	4.8	2.4	4.0	-	0.8	0.8	19.0	12.7	1.6
70～74歳	75	65.3	44.0	4.0	5.3	6.7	1.3	2.7	1.3	-	12.0	13.3	2.7
75歳以上	55	60.0	47.3	1.8	3.6	1.8	3.6	3.6	3.6	1.8	12.7	10.9	7.3
女性18～29歳	36	38.9	41.7	13.9	5.6	8.3	5.6	5.6	2.8	-	22.2	25.0	-
30歳代	129	48.8	48.1	11.6	7.8	4.7	3.9	3.1	2.3	-	14.0	19.4	-
40歳代	196	55.1	51.5	9.7	9.2	4.1	1.5	4.6	2.0	1.0	8.7	16.8	1.5
50歳代	186	47.8	42.5	5.9	4.8	3.8	2.7	2.2	1.6	-	17.7	21.5	1.1
60歳代	135	67.4	58.5	2.2	3.0	8.1	3.0	2.2	1.5	-	5.2	14.8	4.4
70～74歳	78	59.0	44.9	1.3	-	5.1	1.3	-	1.3	-	6.4	17.9	9.0
75歳以上	38	47.4	44.7	2.6	5.3	13.2	5.3	-	-	2.6	13.2	15.8	18.4

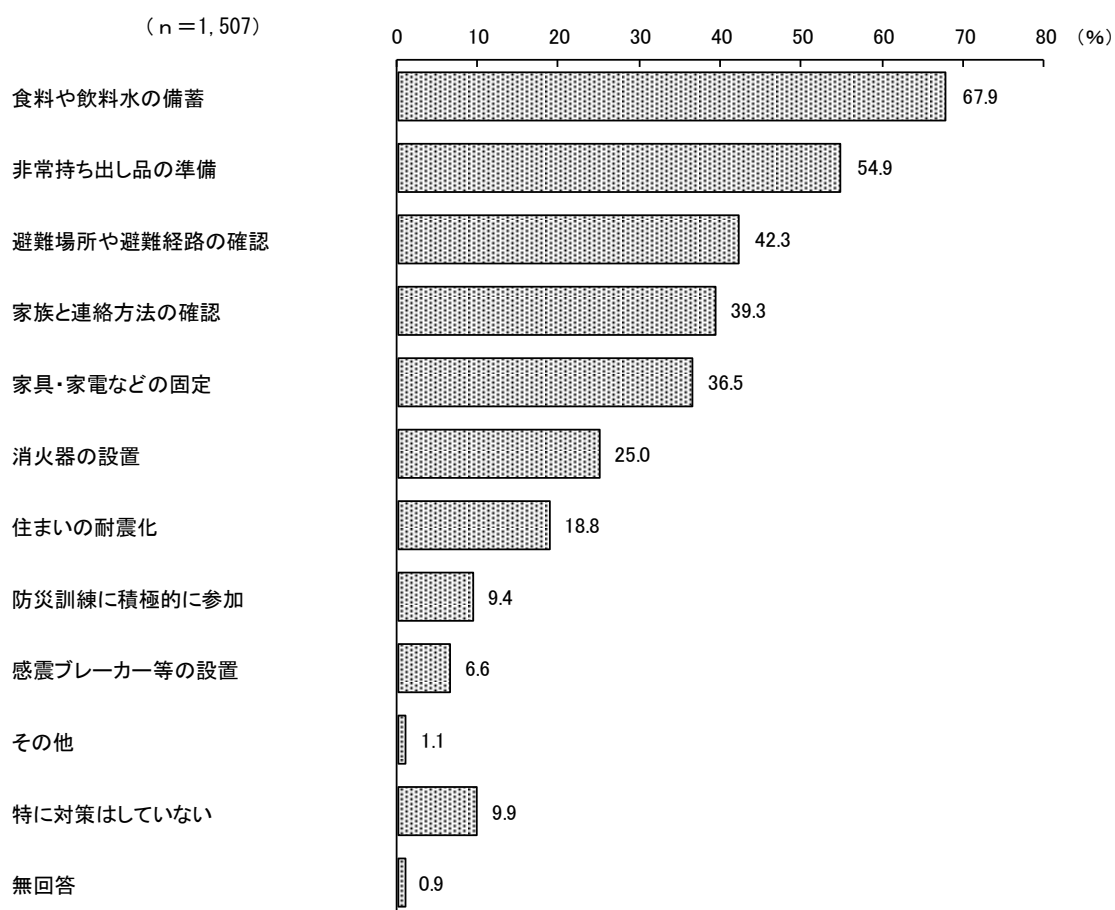
## 第11章 地震対策の取組み【問32～問35】

### 1 大きな地震に備えた対策【問32】

#### 【全体の状況】

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「食料や飲料水の備蓄」が67.9%で最も多く、次いで「非常持ち出し品の準備」が54.9%であった。(図表11-1-1)

図表11-1-1 大きな地震に備えた対策（複数回答）



図表11-1-2 大きな地震に備えた対策（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	食料や飲料水の備蓄	非常持ち出し品の準備	避難場所や避難経路の確認	家族と連絡方法の確認	家具・家電などの固定	消火器の設置	住まいの耐震化	防災訓練に積極的に参加	感震ブレイカー等の設置	その他	特に対策はしていない	無回答
全 体	1,507	67.9	54.9	42.3	39.3	36.5	25.0	18.8	9.4	6.6	1.1	9.9	0.9
【地 域 別】													
横 浜	588	70.9	55.3	44.4	37.4	37.2	27.6	16.3	9.9	6.8	1.2	8.2	0.9
川 崎	212	68.4	58.5	39.2	37.7	36.8	20.3	18.9	8.0	8.0	1.4	12.3	0.5
相 模 原	99	62.6	54.5	49.5	51.5	38.4	21.2	19.2	9.1	6.1	-	11.1	1.0
横 須 賀 三 浦	130	69.2	50.0	39.2	38.5	31.5	27.7	26.2	9.2	4.6	0.8	12.3	1.5
県 央	154	66.2	53.9	41.6	43.5	42.2	29.2	22.1	9.7	5.8	0.6	8.4	0.6
湘 南	216	64.4	57.4	38.9	39.4	32.9	17.1	19.9	8.8	6.9	0.9	12.0	0.5
県 西	62	61.3	45.2	40.3	35.5	37.1	25.8	19.4	12.9	3.2	-	12.9	-
【性・年代別】													
男 性	628	65.1	55.3	38.2	36.8	36.9	26.9	17.4	9.2	7.8	0.6	10.5	1.3
女 性	800	70.5	54.9	45.4	41.4	36.9	22.5	20.1	9.5	5.4	1.1	9.8	0.3
男性18～29歳	25	68.0	52.0	24.0	36.0	32.0	16.0	8.0	8.0	-	-	12.0	-
30歳代	68	69.1	60.3	36.8	35.3	32.4	17.6	23.5	2.9	4.4	2.9	13.2	1.5
40歳代	125	64.8	55.2	34.4	39.2	34.4	16.0	17.6	3.2	5.6	-	11.2	-
50歳代	154	67.5	53.2	44.8	34.4	35.1	22.7	15.6	9.7	5.2	0.6	10.4	0.6
60歳代	126	68.3	57.9	37.3	38.1	46.0	34.1	17.5	14.3	9.5	0.8	6.3	1.6
70～74歳	75	66.7	54.7	34.7	38.7	34.7	40.0	16.0	14.7	12.0	-	12.0	1.3
75歳以上	55	43.6	50.9	43.6	34.5	38.2	45.5	20.0	10.9	18.2	-	12.7	5.5
女性18～29歳	36	55.6	55.6	36.1	38.9	30.6	8.3	13.9	2.8	5.6	-	25.0	-
30歳代	129	65.9	51.9	38.8	33.3	24.8	16.3	21.7	6.2	3.1	0.8	16.3	-
40歳代	196	72.4	56.1	44.4	39.8	37.2	11.7	19.9	6.6	6.1	1.5	7.1	0.5
50歳代	186	69.9	49.5	42.5	44.6	34.4	20.4	16.7	8.6	3.8	1.1	8.6	-
60歳代	135	74.8	60.7	54.1	44.4	42.2	31.1	23.0	10.4	5.2	0.7	8.1	0.7
70～74歳	78	71.8	52.6	44.9	48.7	46.2	46.2	17.9	16.7	5.1	2.6	6.4	-
75歳以上	38	76.3	71.1	68.4	39.5	57.9	42.1	34.2	28.9	18.4	-	2.6	-

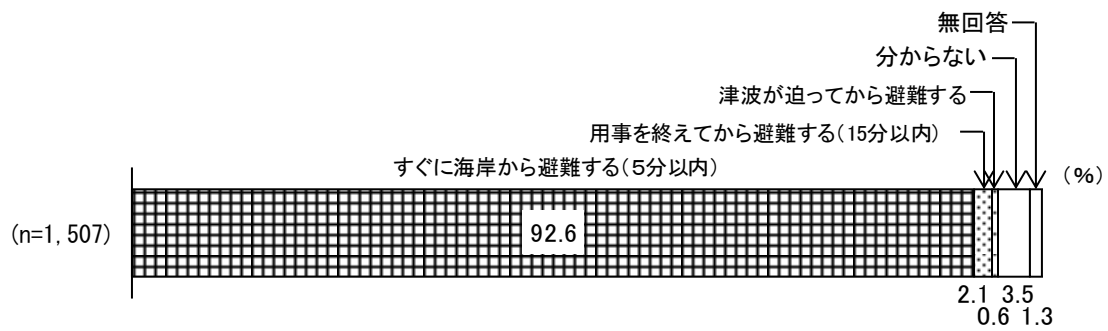


## 2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動【問33】

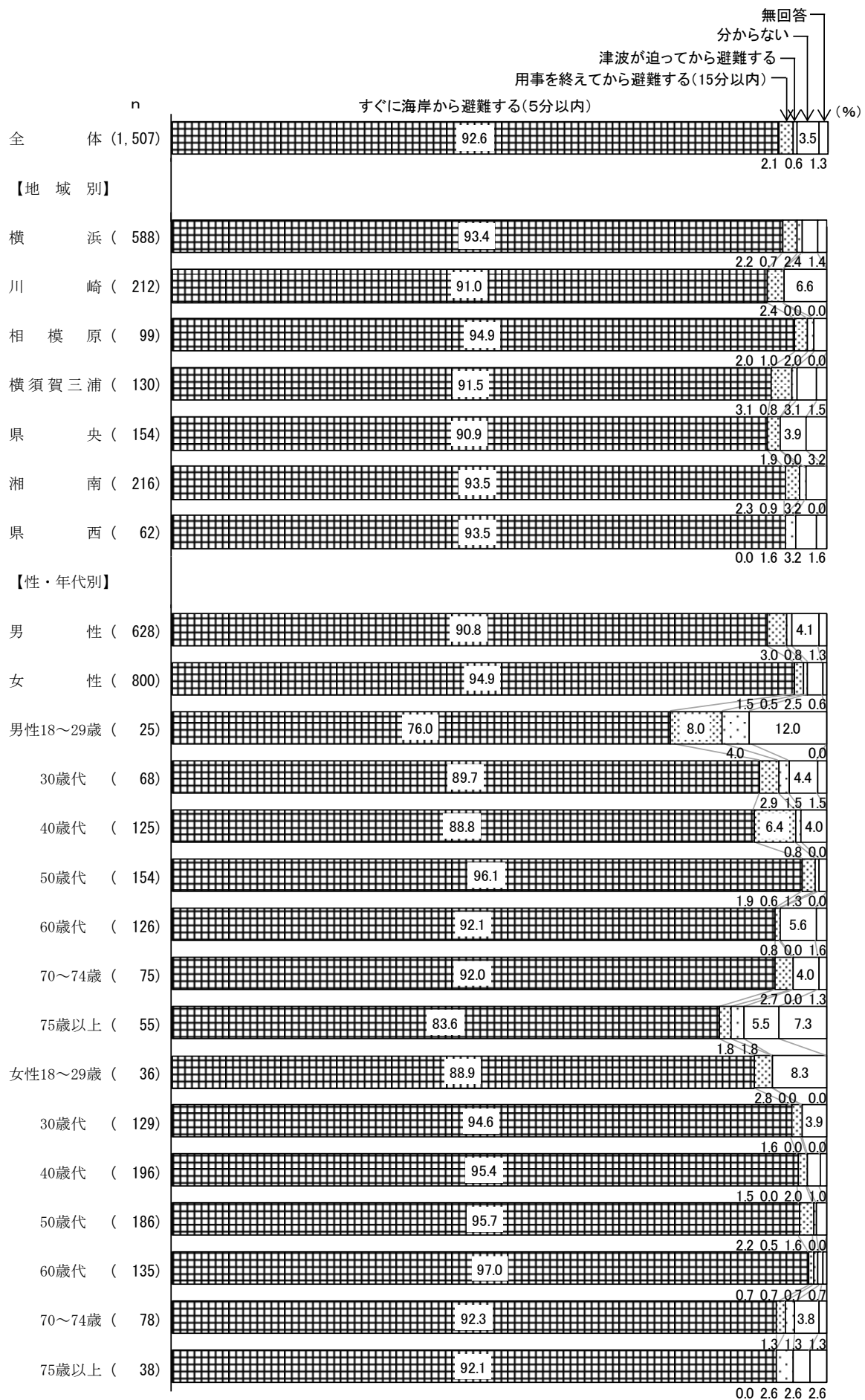
### 【全体の状況】

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する（5分以内）」が92.6%で最も多かった。（図表11-2-1）

図表11-2-1 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動



図表11-2-2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動—地域別、性・年代別



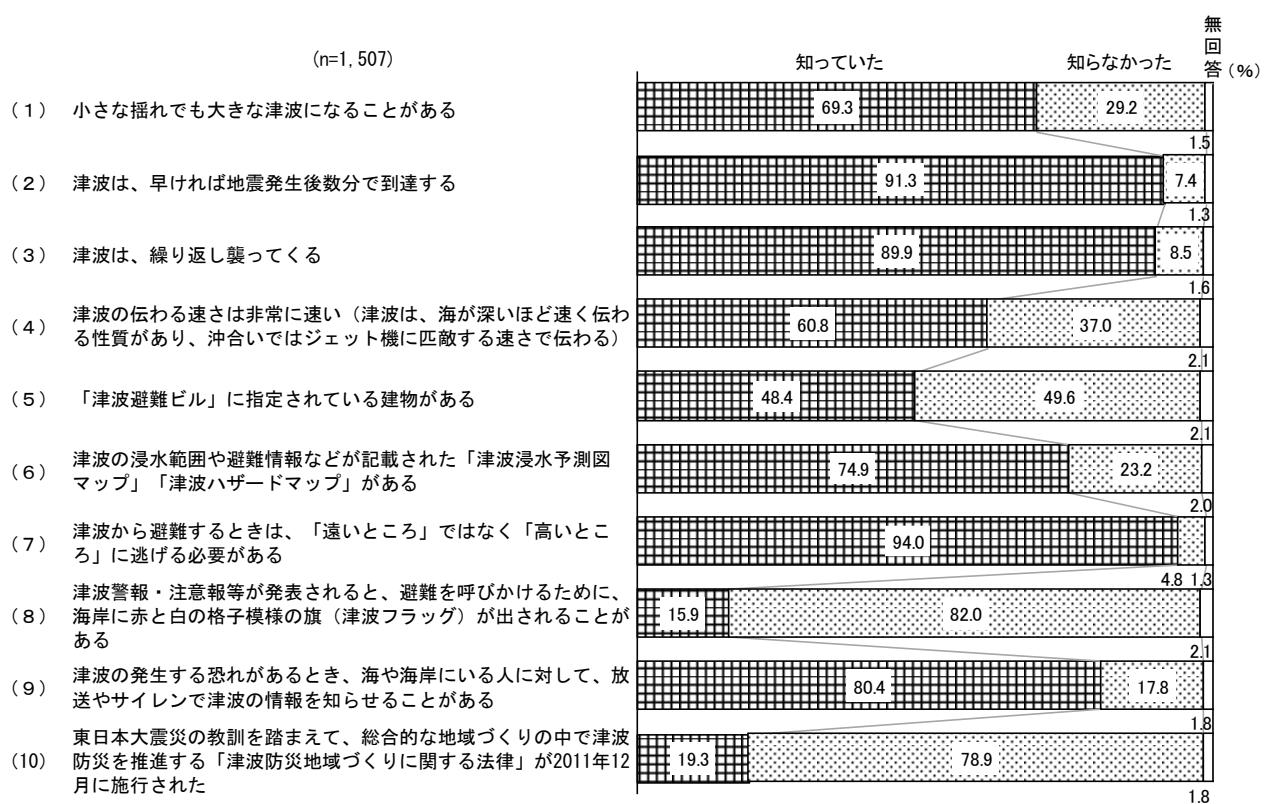
### 3 「津波」に対する知識【問34】

#### 【全体の状況】

津波に関する10項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「(7) 津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」が94.0%で最も多かった。

一方、「知らなかった」では、「(8) 津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸に赤と白の格子模様の旗（津波フラッグ）が出されることがある」が82.0%で最も多かった。（図表11-3-1）

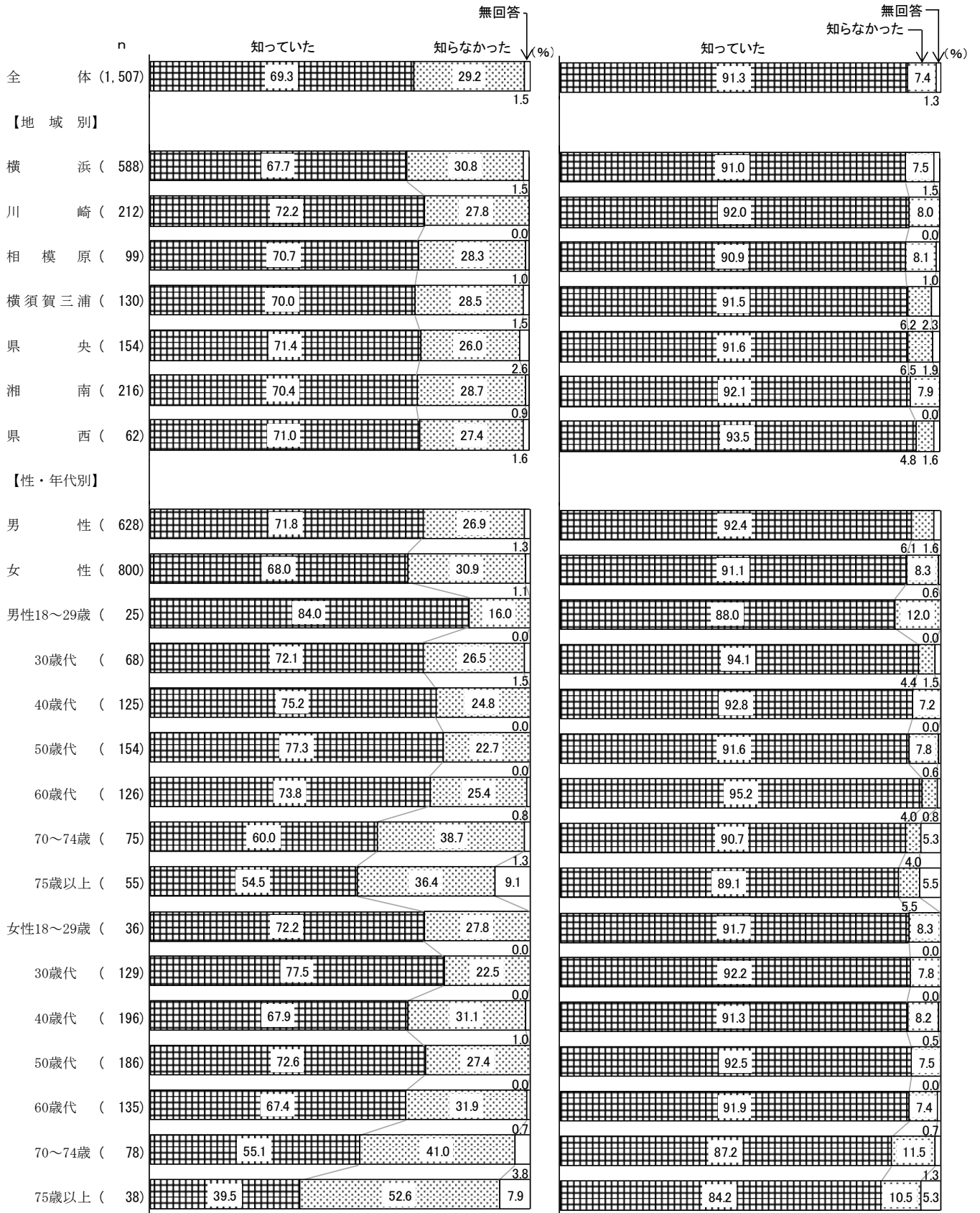
図表11-3-1 「津波」に対する知識



図表11-3-2 「津波」に対する知識—地域別、性・年代別

(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある

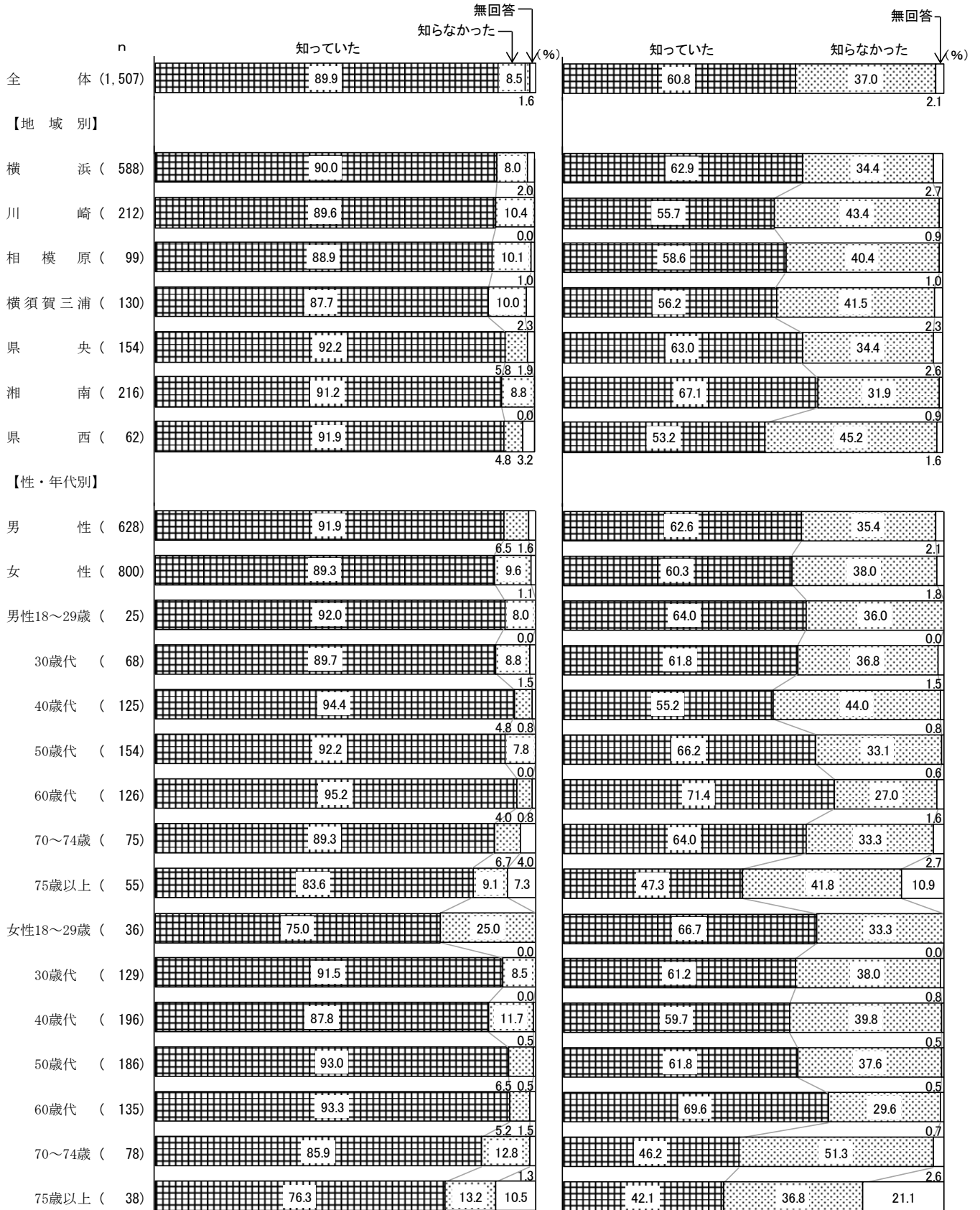
(2) 津波は、早ければ地震発生後数分で到達する



図表11-3-2 「津波」に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(3) 津波は、繰り返し襲ってくる

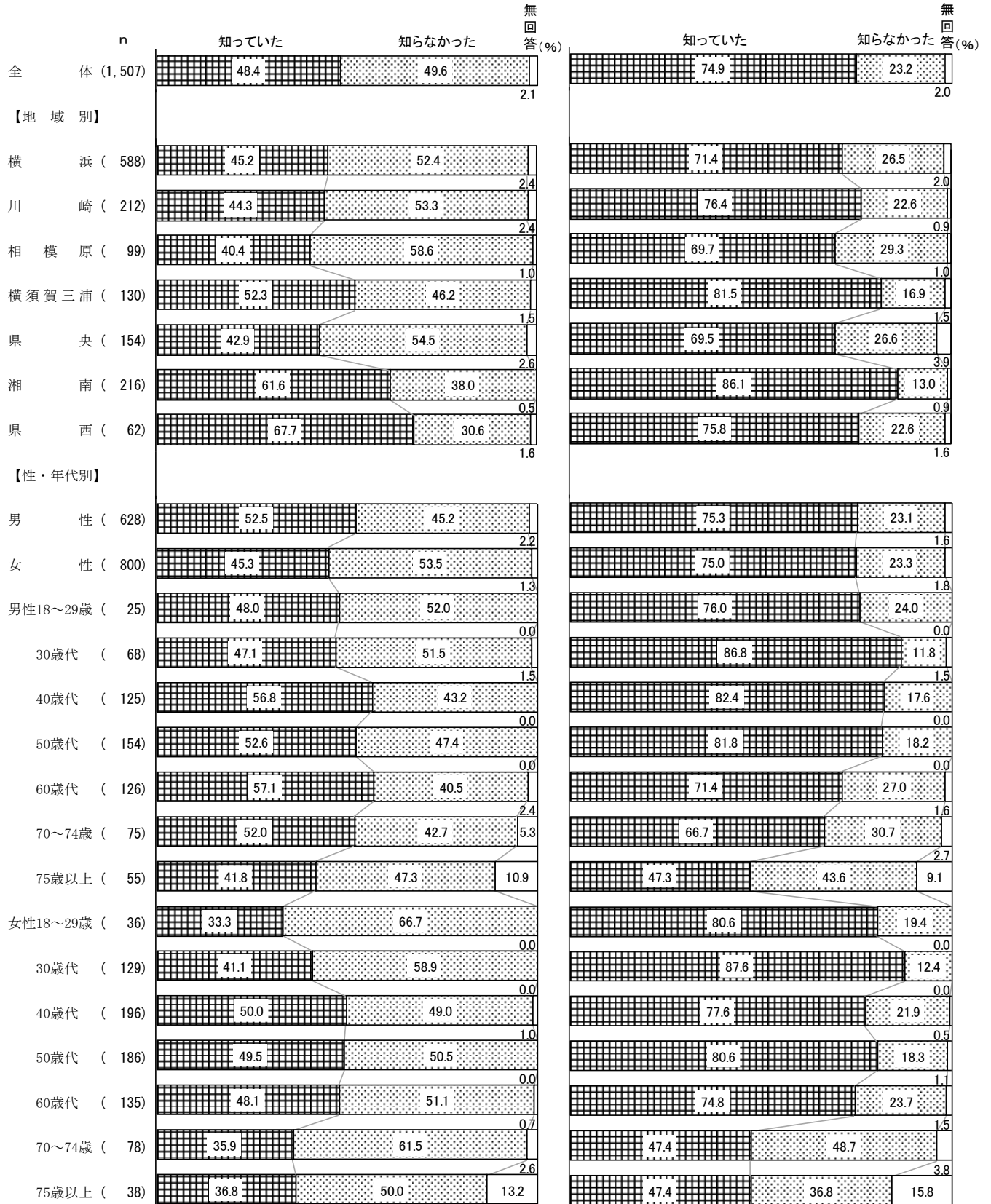
(4) 津波の伝わる速さは非常に速い  
 (津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)



図表11-3-2 「津波」に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(5) 「津波避難ビル」に指定されている建物がある

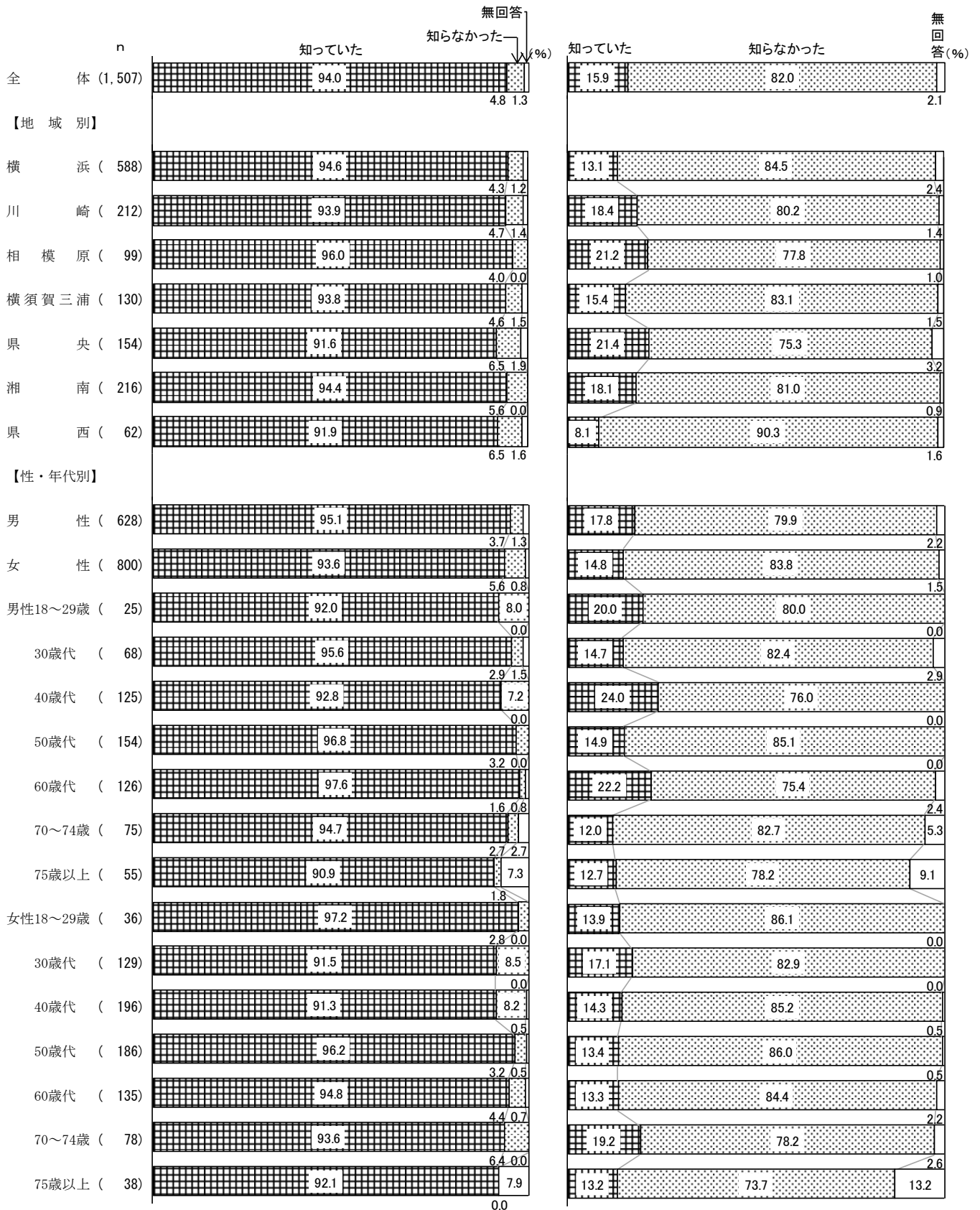
(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された「津波浸水予測図マップ」「津波ハザードマップ」がある



図表11-3-2 「津波」に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(7) 津波から避難するときは、「遠いところ」ではなく「高いところ」に逃げる必要がある

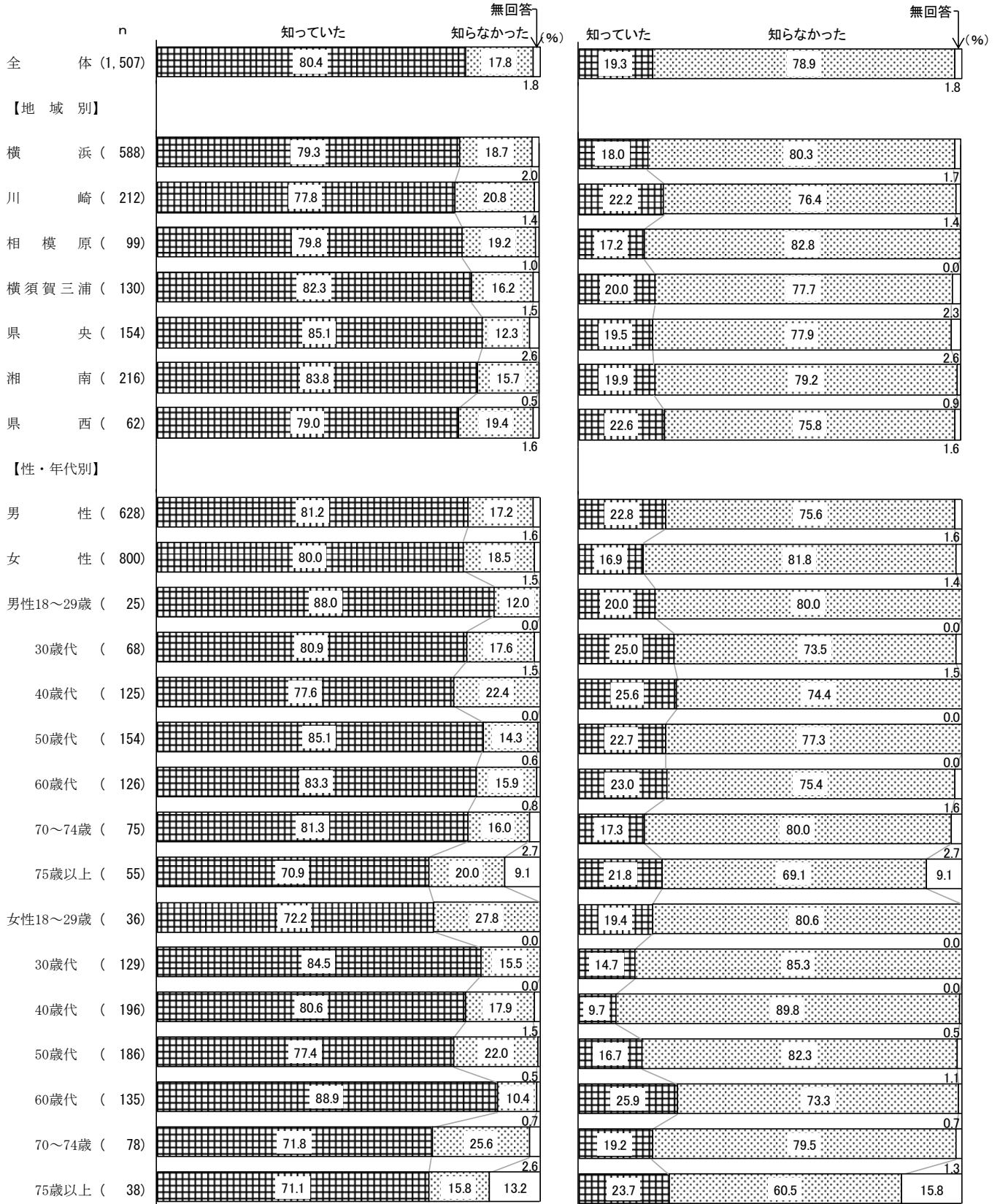
(8) 津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸に赤と白の格子模様の旗（津波フラッグ）が出されることがある



図表11-3-2 津波に関する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある

(10) 東日本大震災の教訓を踏まえて、総合的な地域づくりの中で津波防災を推進する「津波防災地域づくりに関する法律」が2011年12月に施行された



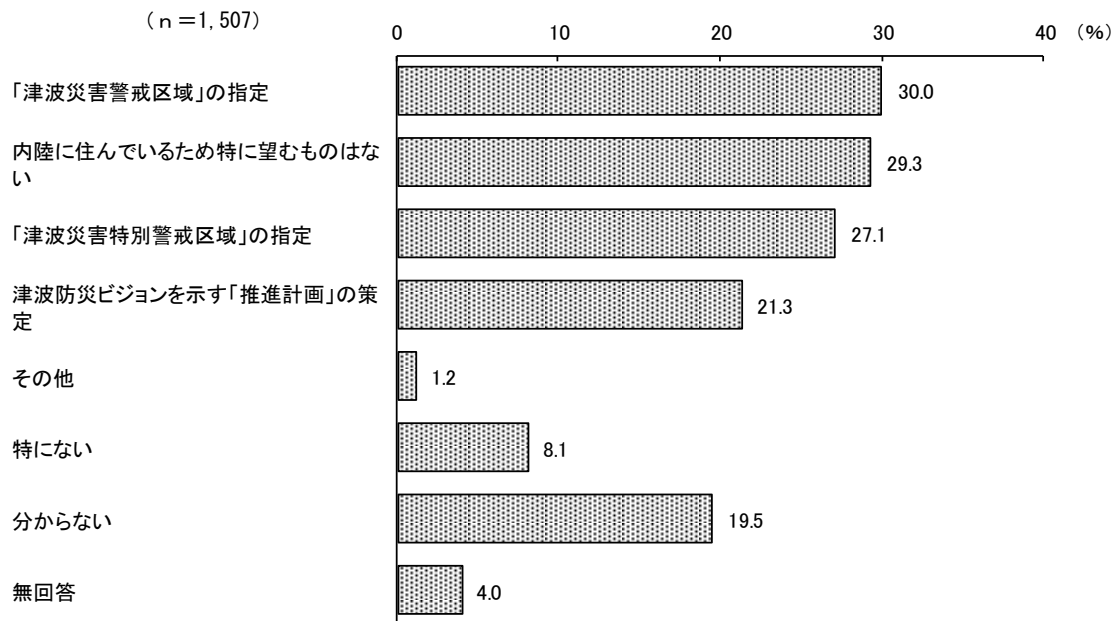


#### 4 津波に対して実施が望まれる制度【問35】

##### 【全体の状況】

津波に対する防災・減災の観点から住んでいる地域で実施が望まれる制度を複数回答で尋ねたところ、『津波災害警戒区域』の指定 30.0%で最も多く、次いで「内陸に住んでいるため特に望むものはない」が29.3%であった。(図表11-4-1)

図表11-4-1 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）



図表11-4-2 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	「津波災害警戒区域」の指定	内陸に住んでいるため特に望むものはない	「津波災害特別警戒区域」の指定	津波防災ビジョンを示す「推進計画」の策定	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,507	30.0	29.3	27.1	21.3	1.2	8.1	19.5	4.0
【地域別】									
横浜	588	28.4	31.1	26.5	20.4	0.5	9.4	18.9	4.3
川崎	212	29.2	24.1	26.4	23.1	0.9	9.0	24.1	3.8
相模原	99	11.1	59.6	8.1	4.0	-	12.1	16.2	1.0
横須賀三浦	130	39.2	16.9	39.2	29.2	2.3	6.9	19.2	3.1
県央	154	25.3	45.5	22.1	17.5	1.3	6.5	11.0	6.5
湘南	216	41.2	13.9	35.6	26.4	2.8	6.0	24.5	2.3
県西	62	35.5	16.1	30.6	29.0	-	3.2	25.8	4.8
【性・年代別】									
男性	628	26.9	33.1	23.6	19.1	1.3	10.2	15.4	4.6
女性	800	33.0	26.1	30.4	23.6	0.9	6.6	22.9	3.1
男性18～29歳	25	32.0	32.0	36.0	32.0	-	8.0	20.0	-
30歳代	68	35.3	23.5	32.4	25.0	2.9	11.8	16.2	1.5
40歳代	125	29.6	31.2	24.8	18.4	2.4	8.8	16.8	2.4
50歳代	154	26.0	33.8	24.0	20.1	1.9	9.1	14.9	3.9
60歳代	126	31.7	36.5	23.8	16.7	-	11.1	10.3	4.0
70～74歳	75	14.7	44.0	16.0	17.3	-	9.3	17.3	5.3
75歳以上	55	16.4	25.5	12.7	12.7	-	14.5	20.0	18.2
女性18～29歳	36	22.2	22.2	11.1	11.1	-	8.3	41.7	-
30歳代	129	37.2	17.8	35.7	26.4	1.6	4.7	27.1	2.3
40歳代	196	32.7	30.6	29.6	23.0	1.5	5.1	23.0	2.0
50歳代	186	33.3	24.2	31.2	22.6	0.5	8.6	24.7	1.6
60歳代	135	35.6	34.8	31.9	28.1	-	4.4	17.0	1.5
70～74歳	78	29.5	21.8	32.1	25.6	1.3	9.0	12.8	10.3
75歳以上	38	26.3	23.7	21.1	13.2	-	13.2	21.1	13.2

## 第12章 自転車損害賠償責任保険等の加入【問36～問37】

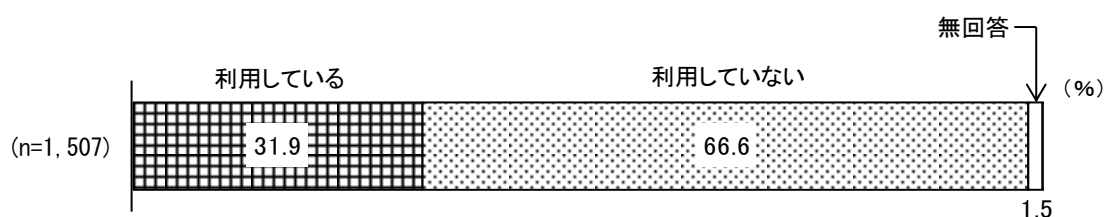
### 1 自転車の利用状況【問36】

#### 【全体の状況】

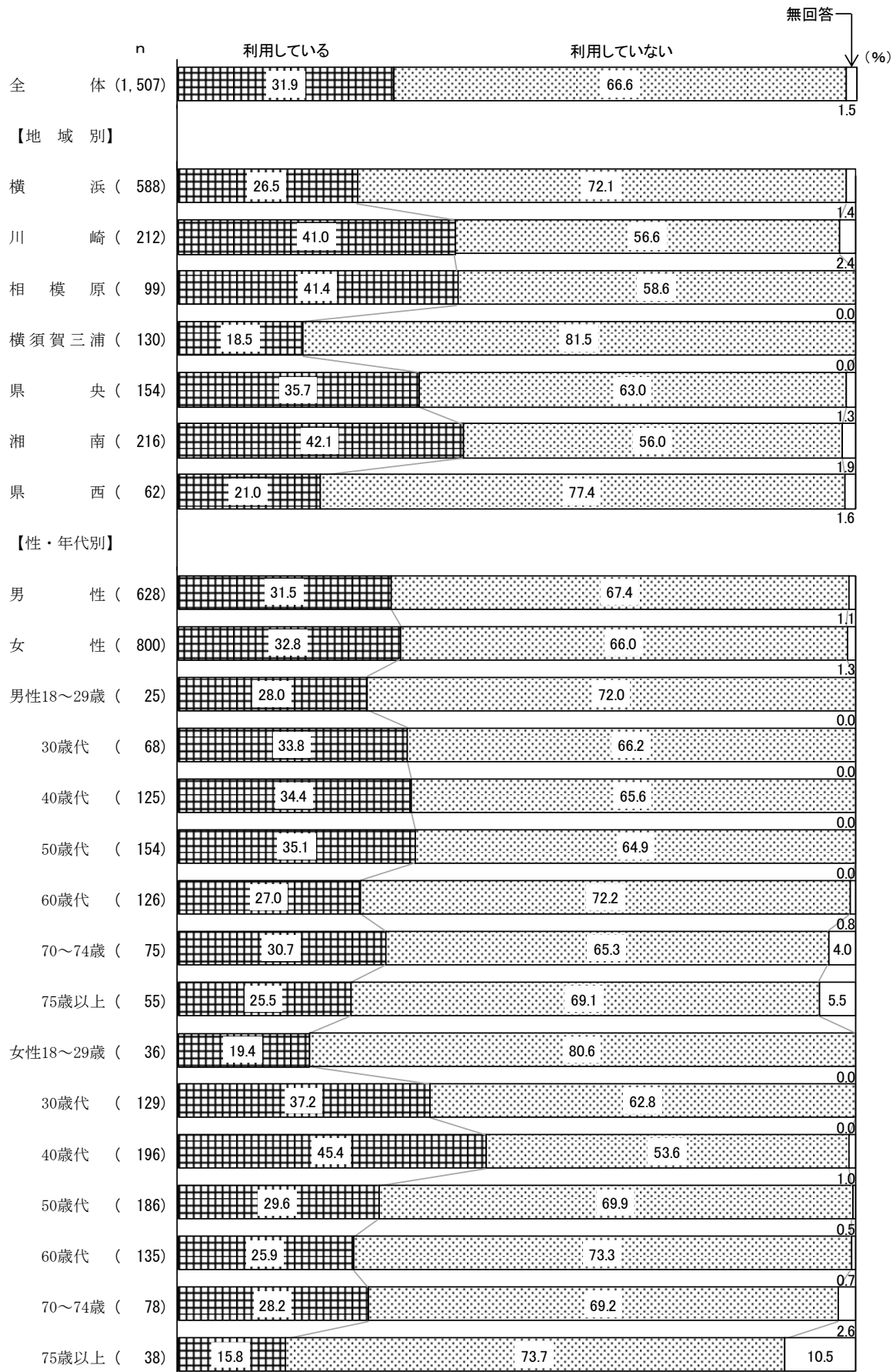
通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用しているか尋ねたところ、「利用している」が31.9%であった。

一方、「利用していない」は、66.6%であった。(図表12-1-1)

図表12-1-1 自転車の利用状況



図表12-1-2 自転車の利用状況—地域別、性・年代別



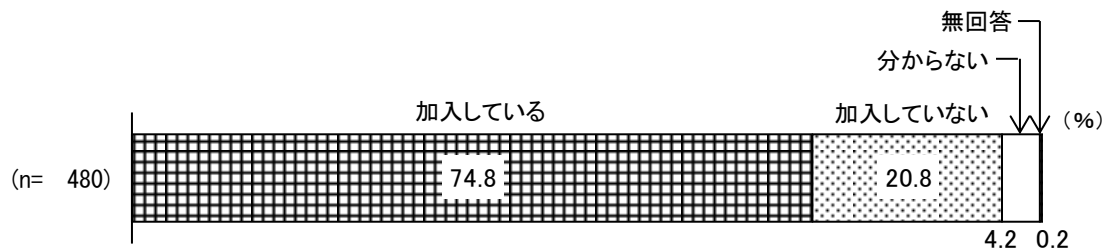
## 2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況【問36-1】

### 【全体の状況】

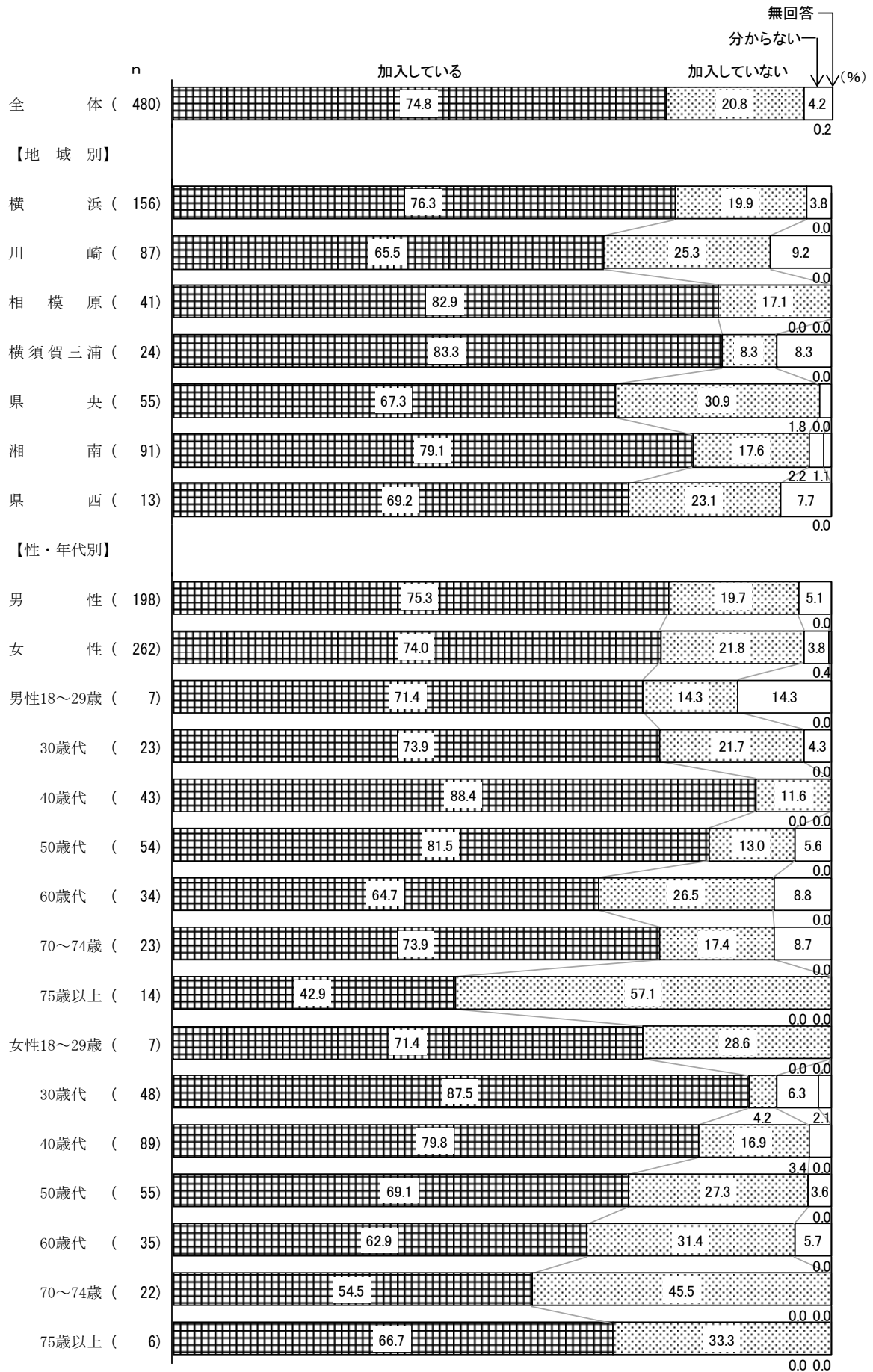
自転車の利用状況（問36）で、「利用している」と回答した480人に、自転車利用中に事故を起こした際に、相手方の損害を賠償することができる保険（自転車損害賠償責任保険等）に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が74.8%であった。

一方、「加入していない」は、20.8%であった。（図表12-2-1）

図表12-2-1 自転車損害賠償責任保険等への加入状況



図表12-2-2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況—地域別、性・年代別



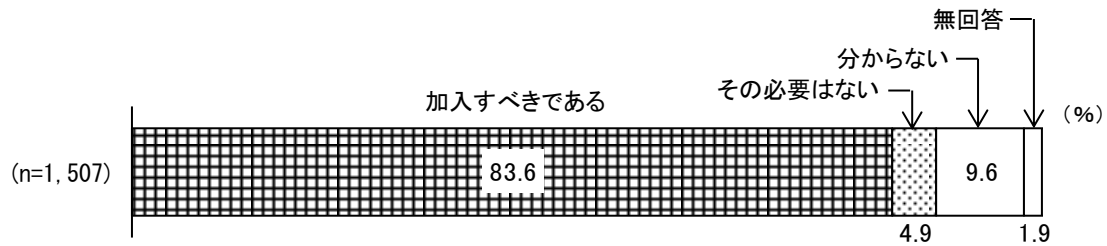
### 3 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え【問37】

#### 【全体の状況】

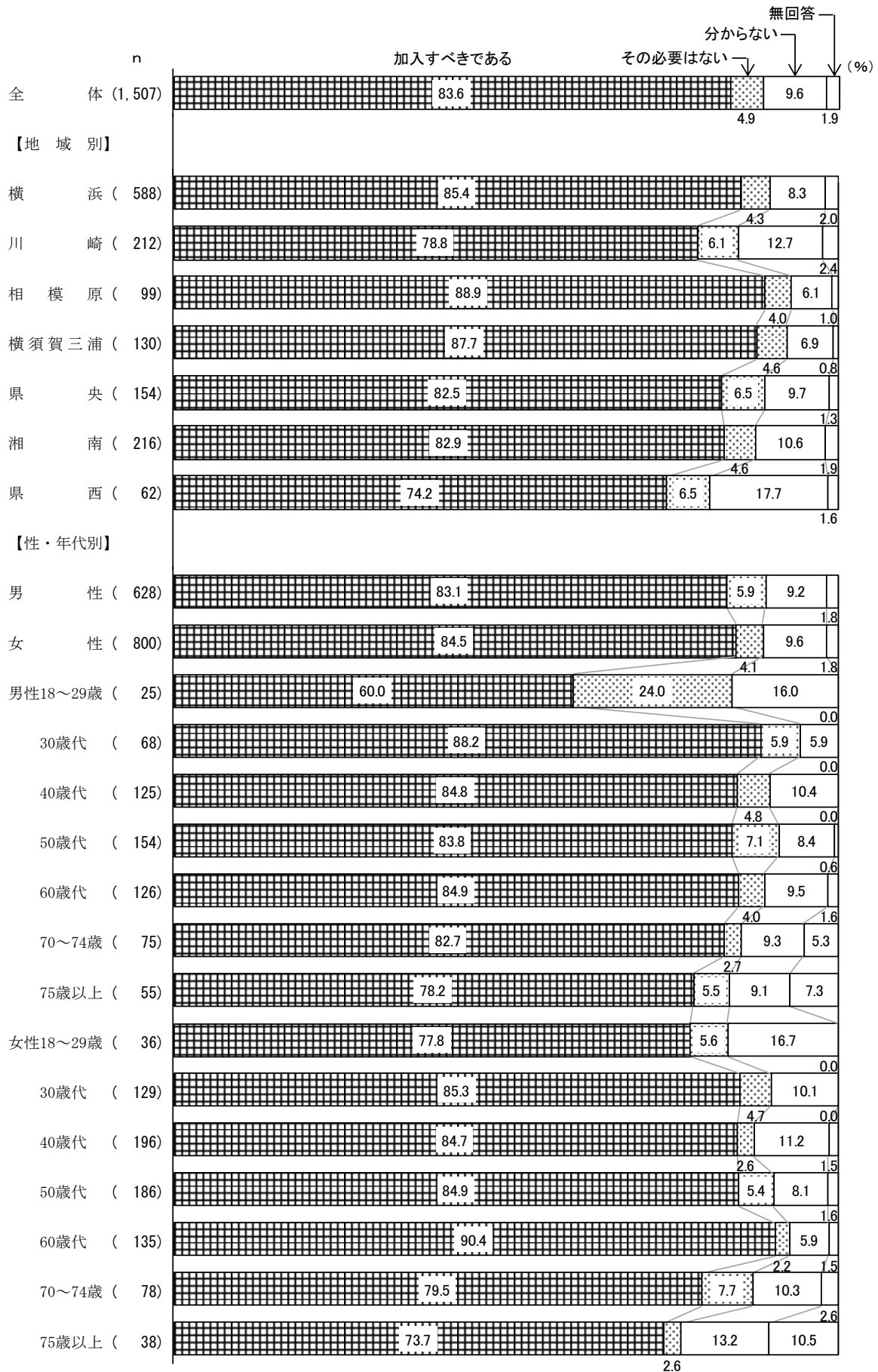
すべての自転車利用者が自転車損害賠償責任保険等に参加することについてどう思うか尋ねたところ、「加入すべきである」が83.6%であった。

一方、「その必要はない」は、4.9%であった。(図表12-3-1)

図表12-3-1 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え



図表12-3-2 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え—地域別、性・年代別





## 第13章 スポーツ【問38～問42】

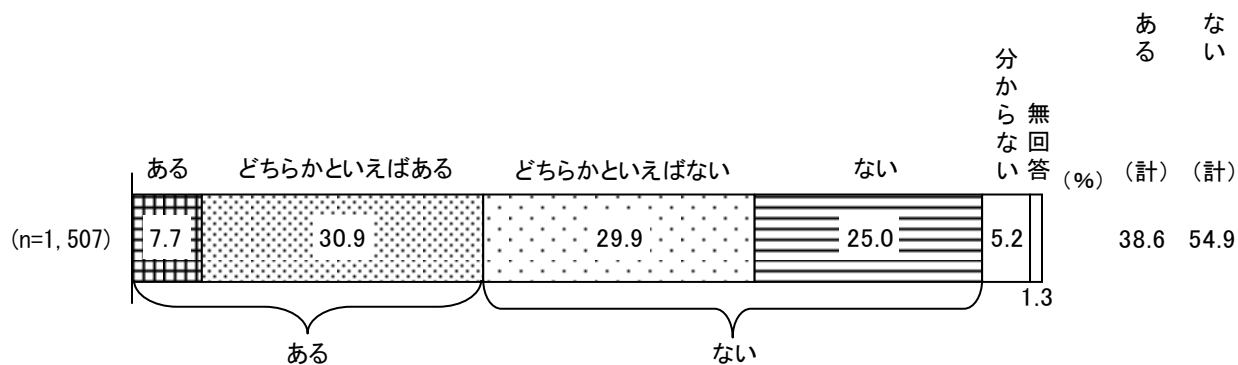
### 1 体力への自信の有無【問38】

#### 【全体の状況】

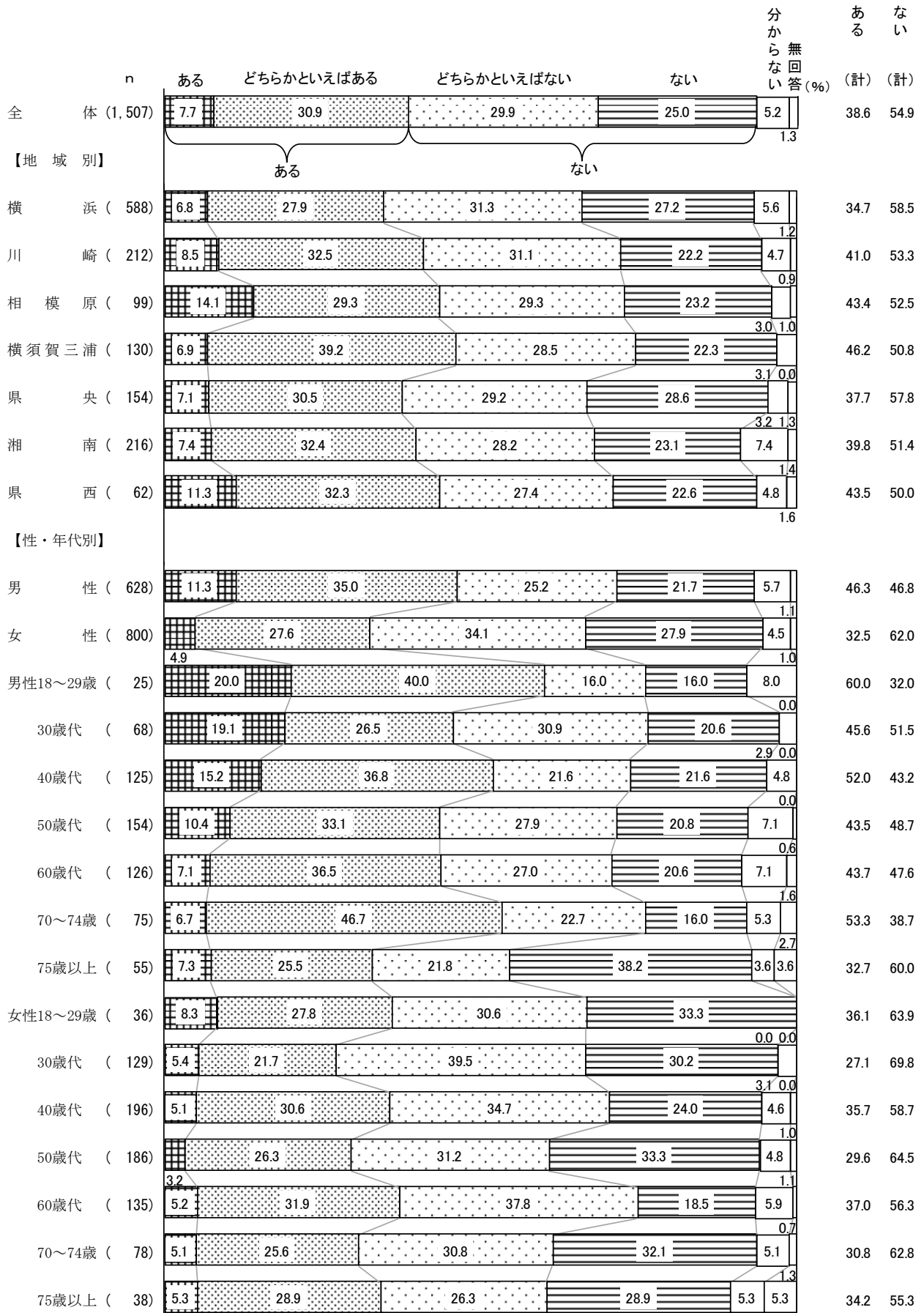
自身の体力に自信があるか尋ねたところ、「ある」(7.7%)と「どちらかといえばある」(30.9%)を合わせた《ある》は38.6%であった。

一方、「ない」(25.0%)と「どちらかといえばない」(29.9%)を合わせた《ない》は54.9%であった。(図表13-1-1)

図表13-1-1 体力への自信の有無



図表13-1-2 体力への自信の有無—地域別、性・年代別

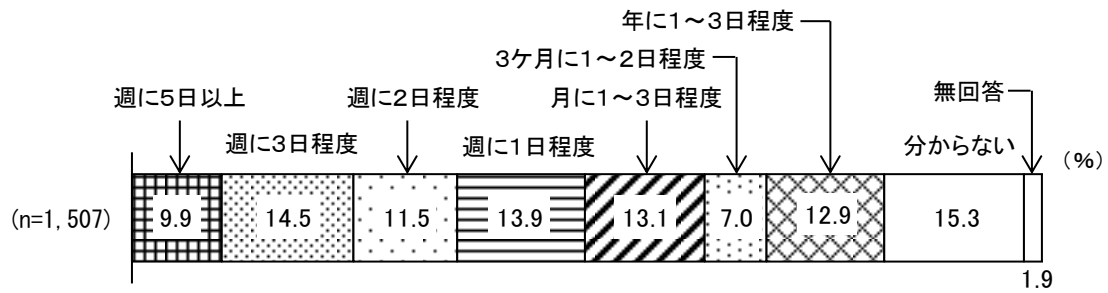


## 2 1年間のスポーツ実施日数【問39】

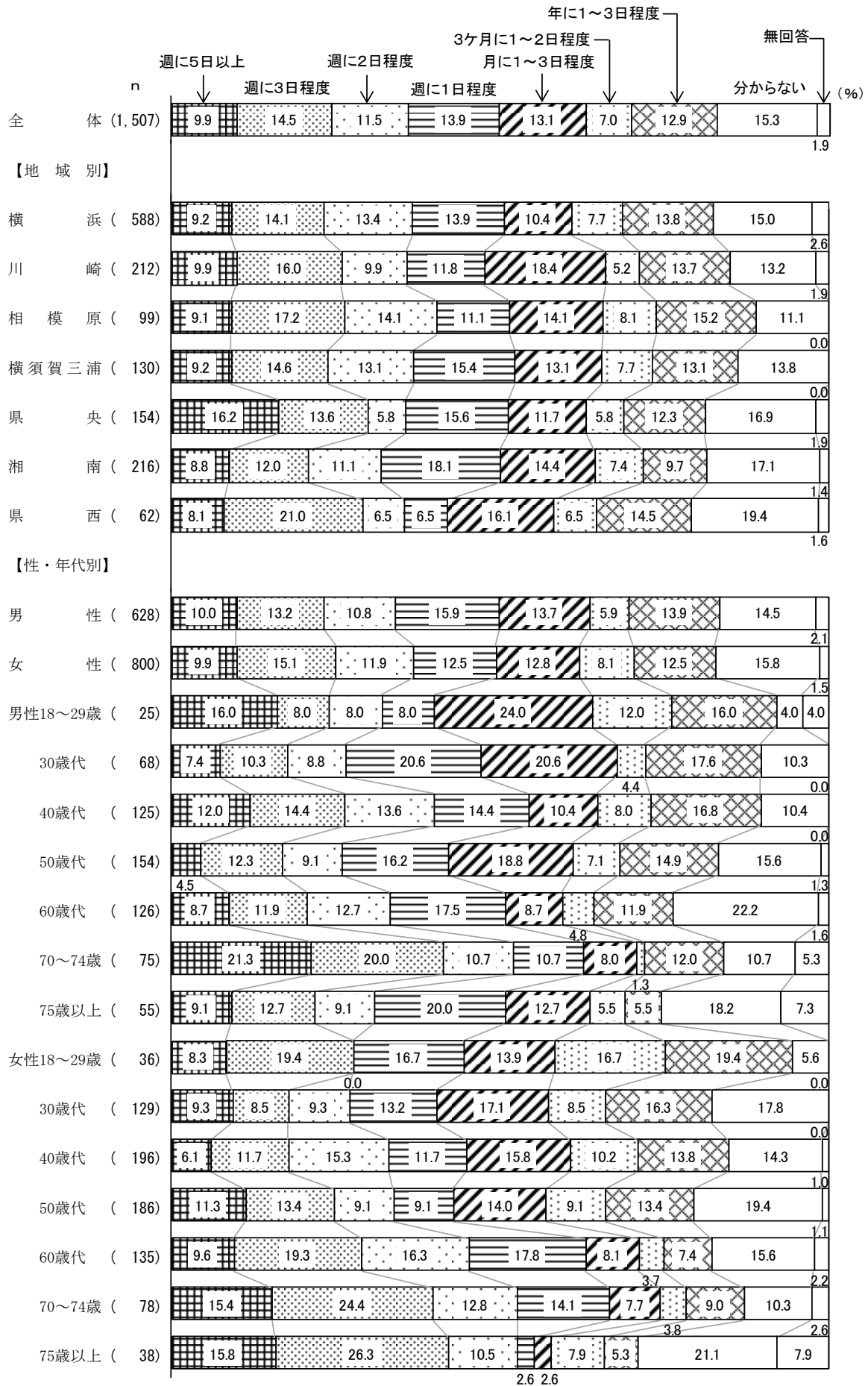
### 【全体の状況】

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度」が14.5%で最も多く、次いで「週に1日程度」が13.9%であった。（図表13-2-1）

図表13-2-1 1年間のスポーツ実施日数



図表13-2-2 1年間のスポーツ実施日数—地域別、性・年代別



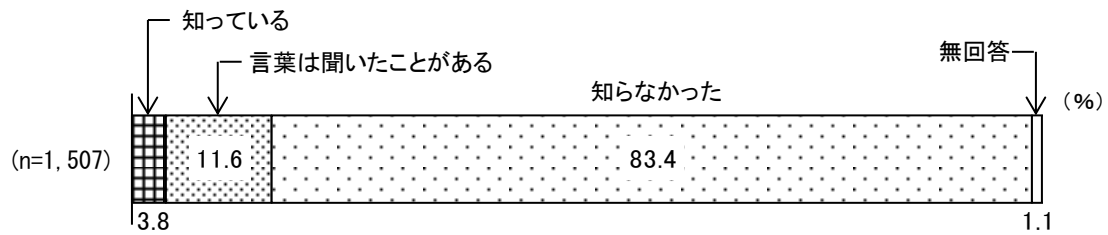
### 3 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度【問40】

#### 【全体の状況】

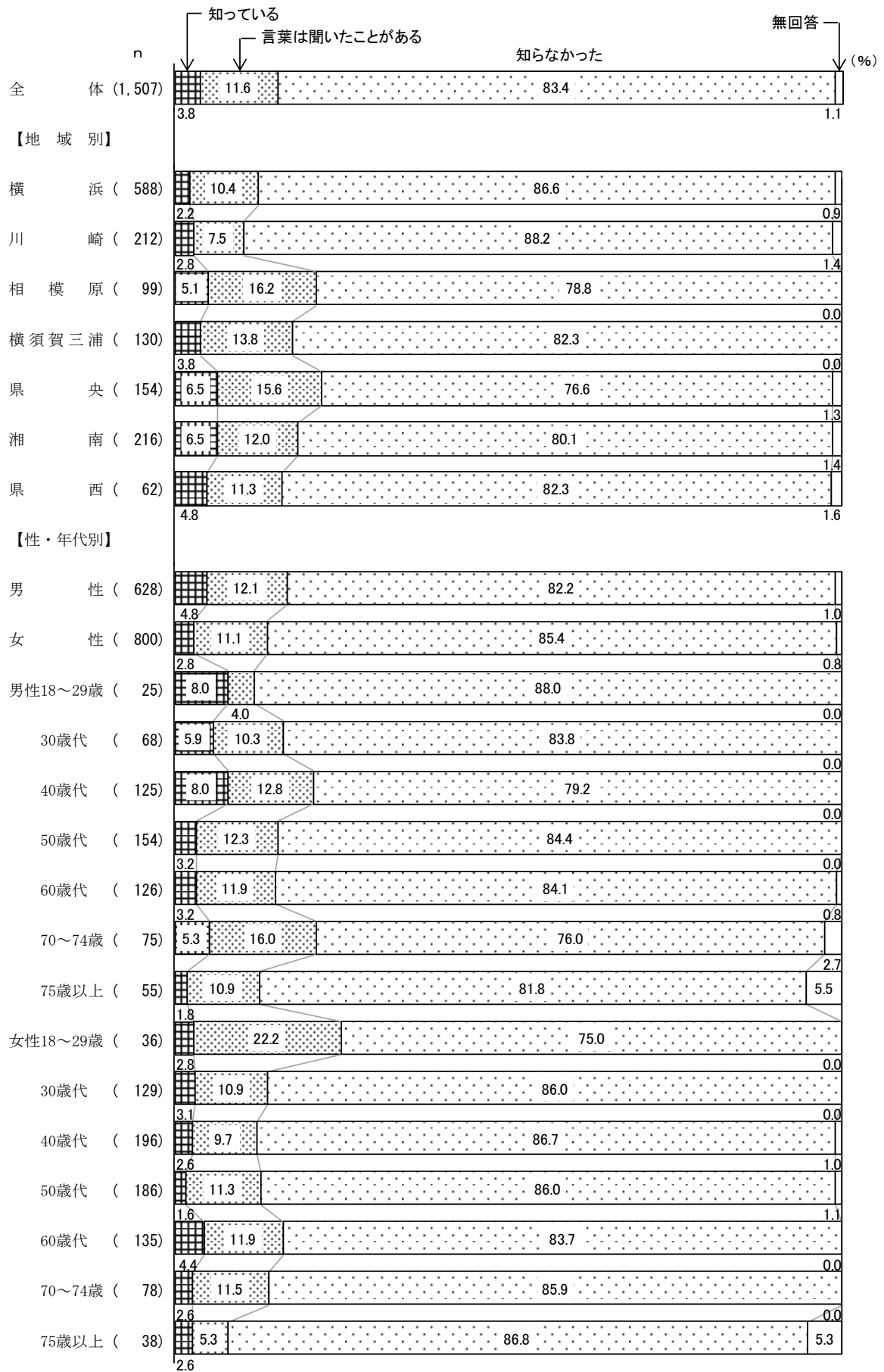
「3033（サンマルサンサン）運動」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が3.8%であった。

一方、「知らなかった」が83.4%であった。（図表13-3-1）

図表13-3-1 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度



図表13-3-2 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度—地域別、性・年代別

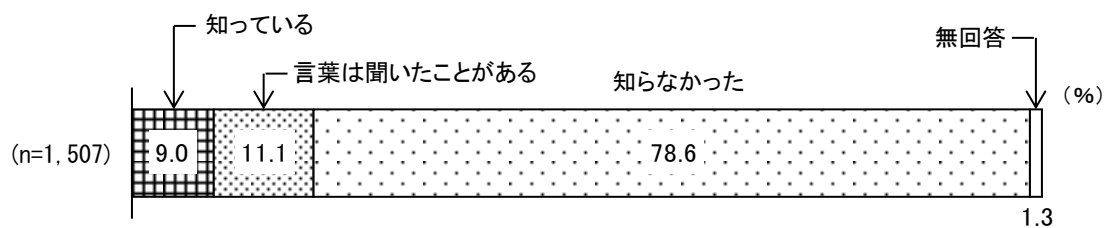


#### 4 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度【問41】

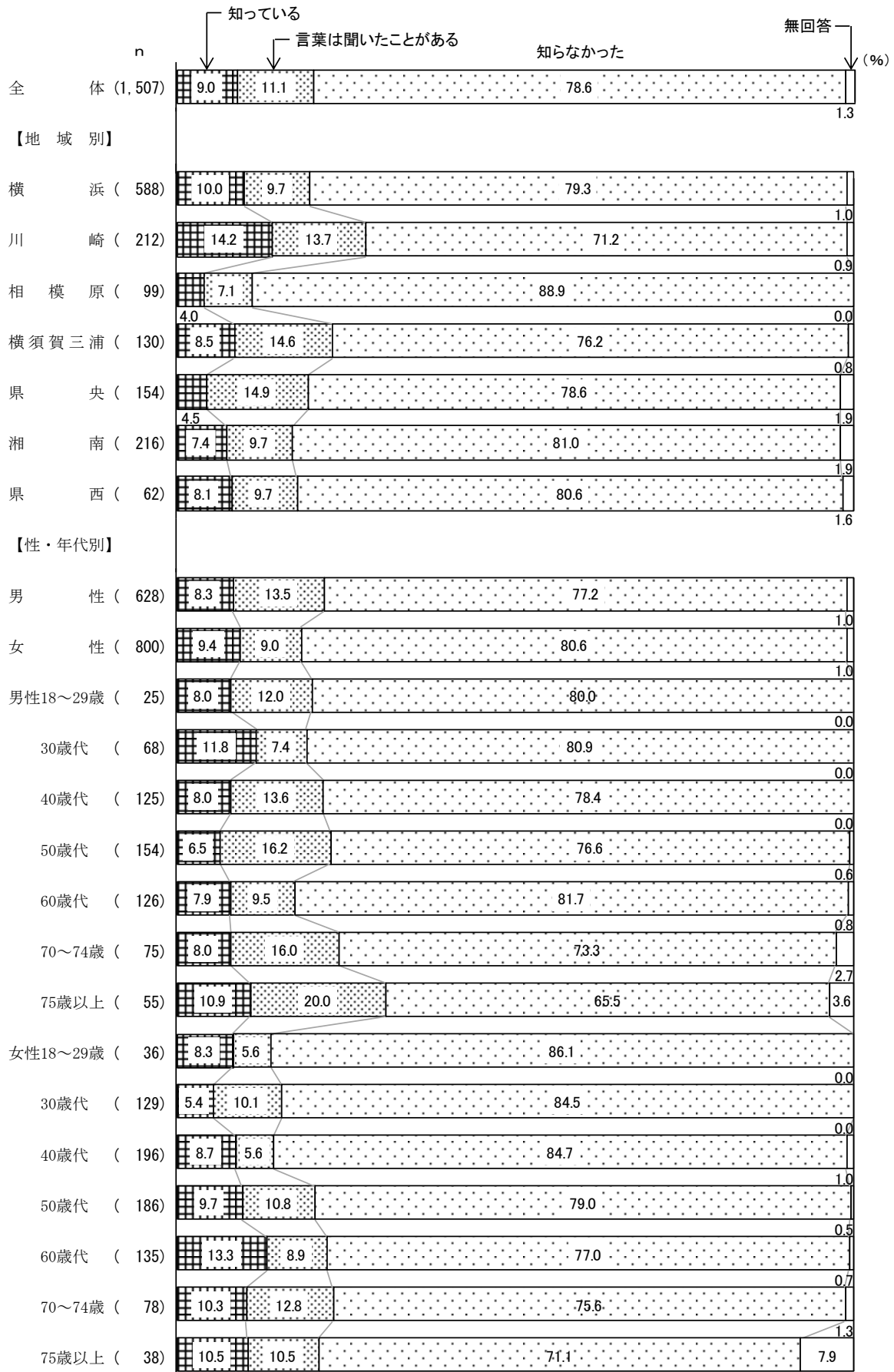
##### 【全体の状況】

「総合型地域スポーツクラブ」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が9.0%であった。一方、「知らなかった」が78.6%であった。(図表13-4-1)

図表13-4-1 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度



図表13-4-2 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度—地域別、性・年代別



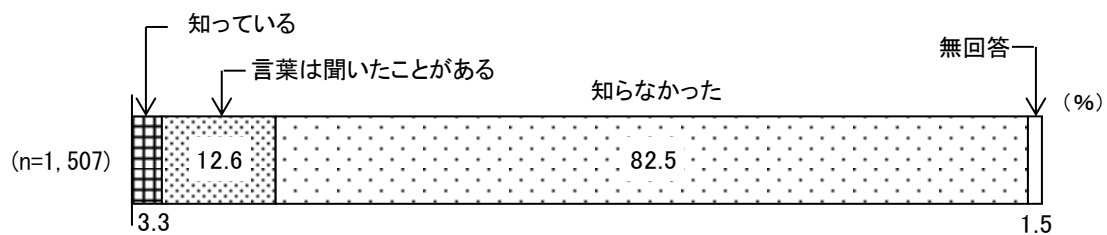


## 5 「かながわのパラスポーツ」の認知度【問42】

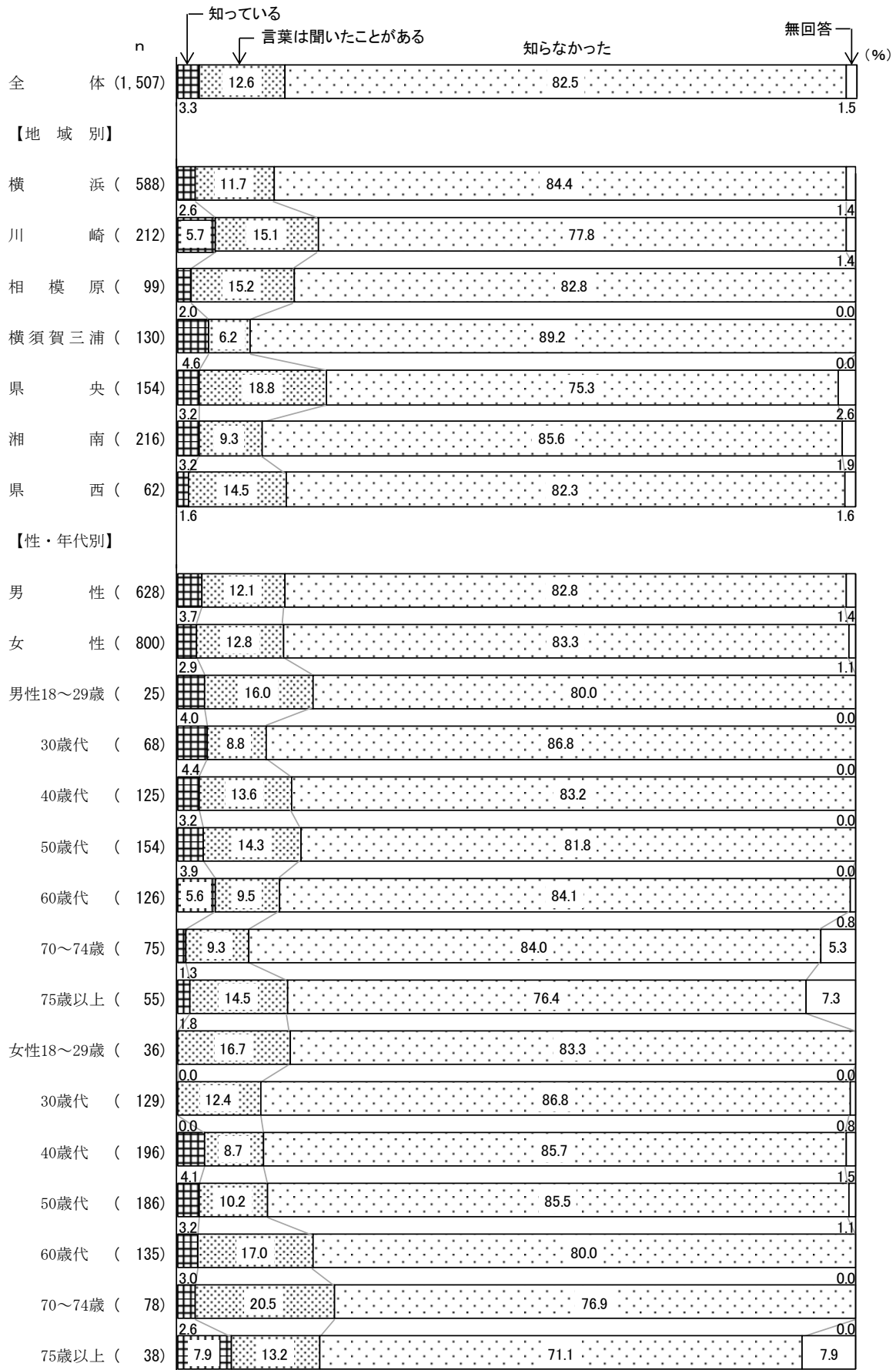
### 【全体の状況】

「かながわのパラスポーツ」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が3.3%であった。一方、「知らなかった」が82.5%であった。(図表13-5-1)

図表13-5-1 「かながわのパラスポーツ」の認知度



図表13-5-2 「かながわのパラスポーツ」の認知度—地域別、性・年代別



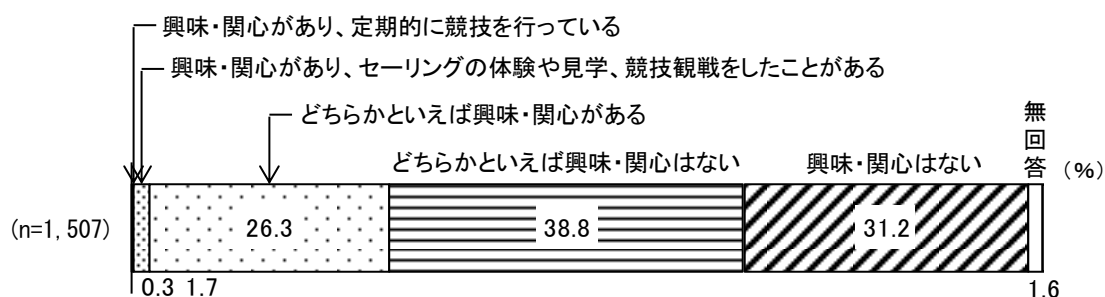
## 第14章 東京2020大会に関する取組み【問43～問48】

### 1 セーリング競技への興味・関心【問43】

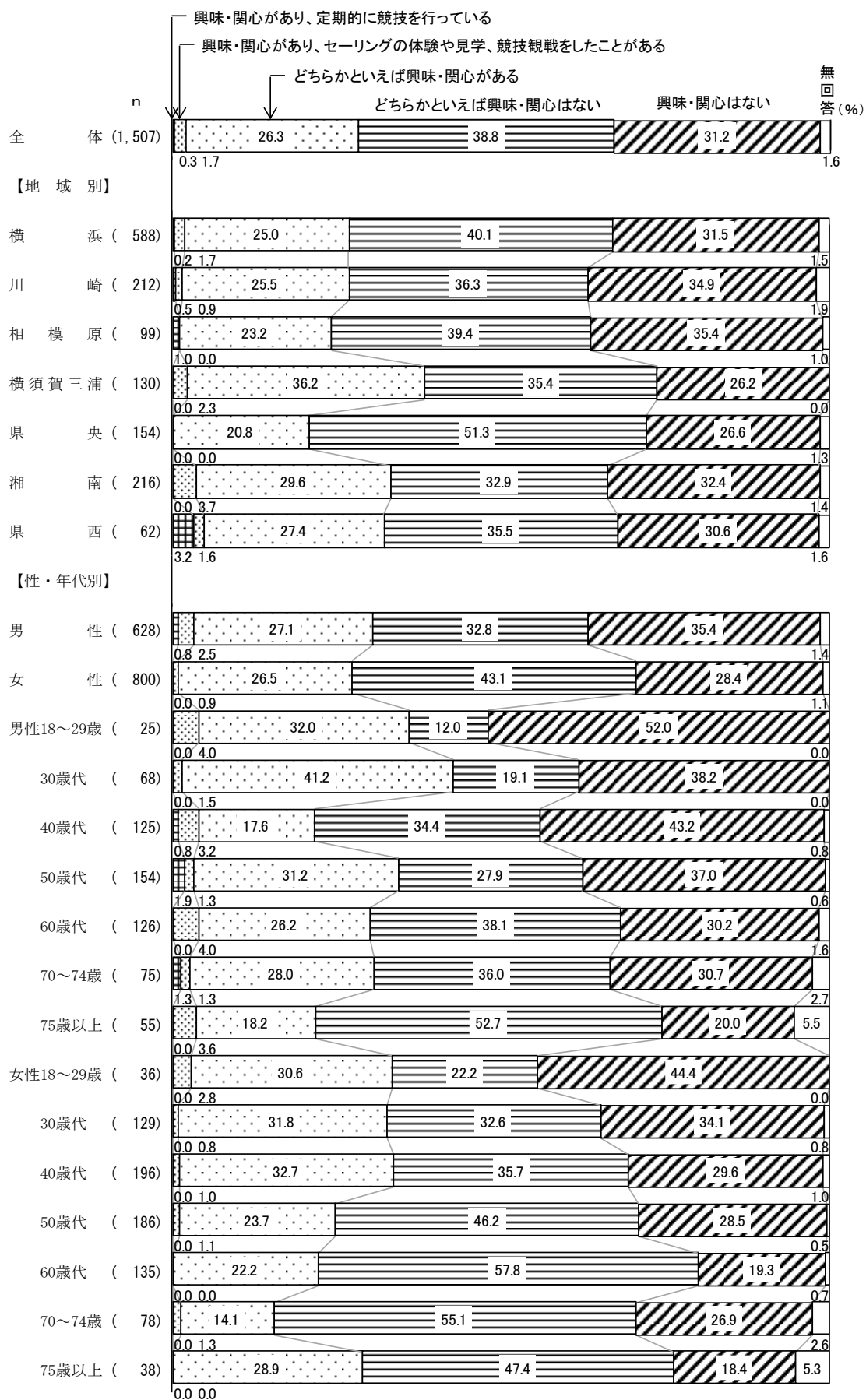
#### 【全体の状況】

江の島で開催される東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技に興味・関心があるか尋ねたところ、「どちらかといえば興味・関心はない」が38.8%で最も多く、次いで「興味・関心はない」が31.2%であった。（図表14-1-1）

図表14-1-1 セーリング競技への興味・関心



図表14-1-2 セーリング競技への興味・関心—地域別、性・年代別



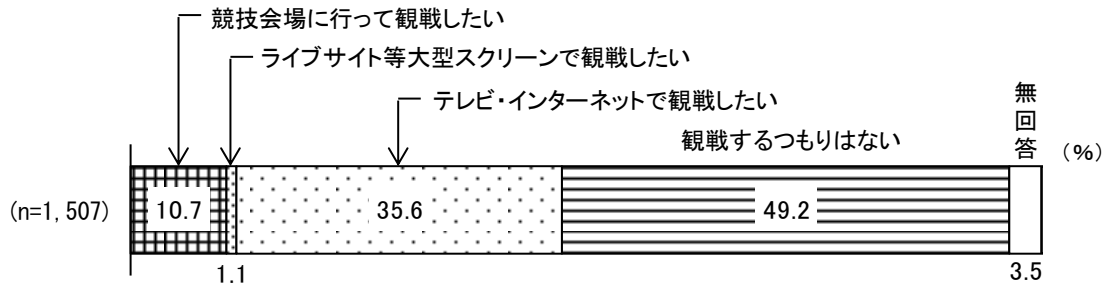
## 2 セーリング競技の観戦意向【問44】

### 【全体の状況】

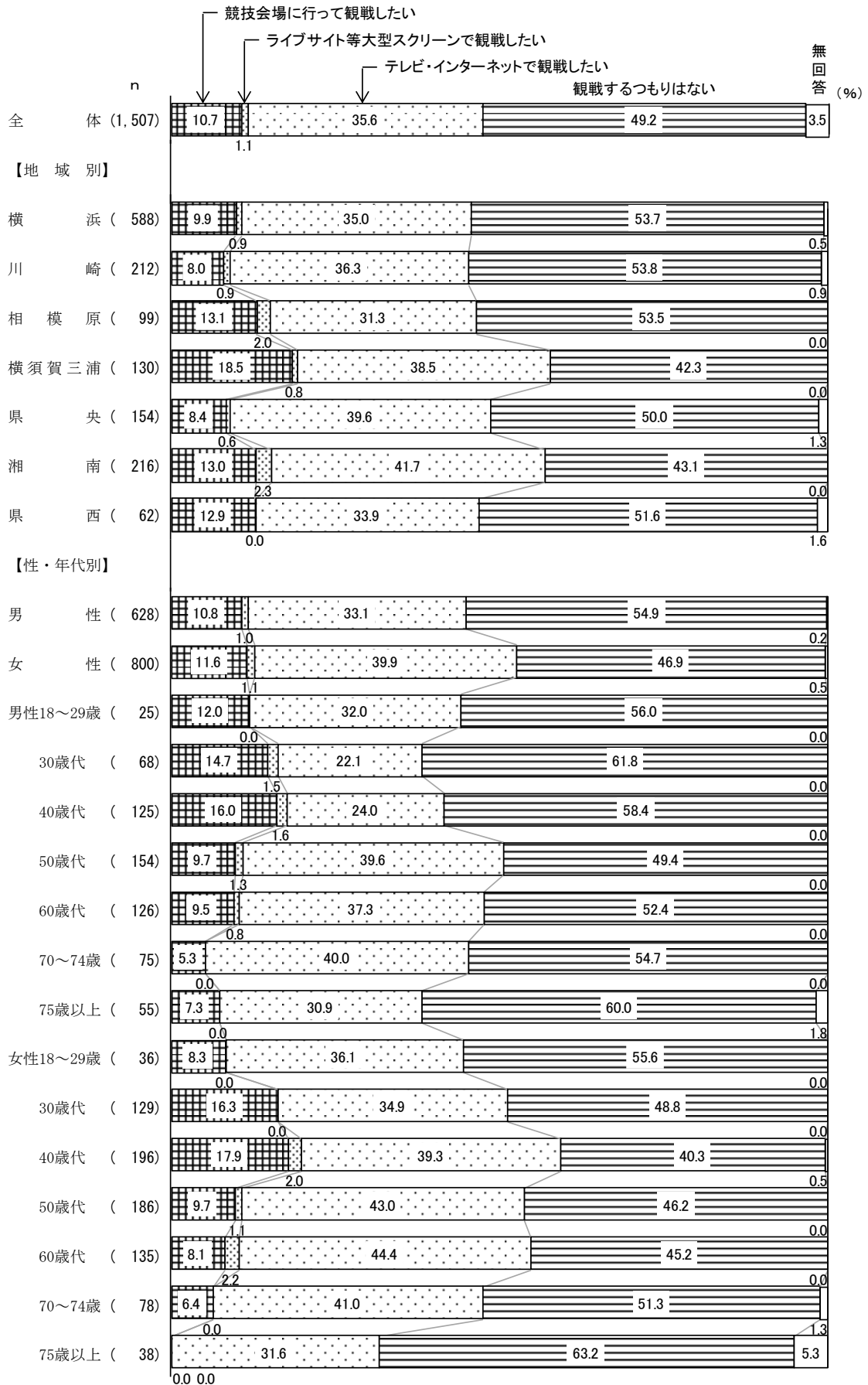
東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ・インターネットで観戦したい」が35.6%で最も多かった。

一方、「観戦するつもりはない」は49.2%であった。（図表14-2-1）

図表14-2-1 セーリング競技の観戦意向



図表14-2-2 セーリング競技の観戦意向—地域別、性・年代別

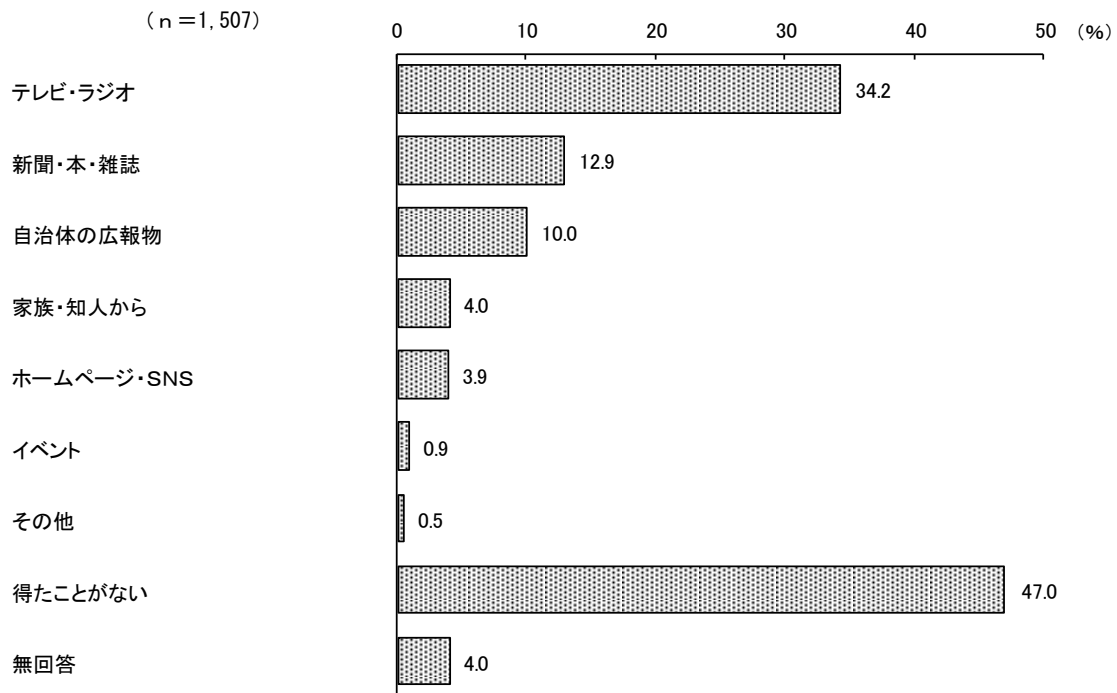


### 3 セーリング競技の情報の入手方法【問45】

#### 【全体の状況】

セーリング競技に関する情報を何で得たか複数回答で尋ねたところ、「テレビ・ラジオ」が34.2%で最も多く、次いで「新聞・本・雑誌」が12.9%であった。(図表14-3-1)

図表14-3-1 セーリング競技の情報の入手方法（複数回答）



図表14-3-2 セーリング競技の情報の入手方法—地域別、性・年代別

(%)

	n	テレビ・ラジオ	新聞・本・雑誌	自治体の広報物	家族・知人から	ホームページ・SNS	イベント	その他	得たことがない	無回答
全 体	1,507	34.2	12.9	10.0	4.0	3.9	0.9	0.5	47.0	4.0
【地 域 別】										
横 浜	588	35.2	13.1	7.3	3.1	2.7	0.9	0.7	51.5	1.2
川 崎	212	26.4	8.5	7.1	2.8	2.4	0.5	0.5	62.7	0.5
相 模 原	99	33.3	8.1	5.1	1.0	1.0	-	-	57.6	1.0
横 須 賀 三 浦	130	43.1	16.9	18.5	5.4	7.7	2.3	0.8	33.8	-
県 央	154	37.7	16.9	12.3	3.9	3.2	-	-	44.2	3.2
湘 南	216	38.0	15.7	17.6	8.3	8.8	2.3	0.9	37.0	0.5
県 西	62	37.1	14.5	9.7	6.5	4.8	-	-	38.7	3.2
【性・年代別】										
男 性	628	35.2	16.4	10.0	2.5	6.2	1.1	0.8	48.9	0.8
女 性	800	35.3	10.4	10.3	5.5	2.5	0.9	0.3	48.9	1.3
男性18～29歳	25	24.0	8.0	4.0	8.0	4.0	4.0	-	64.0	-
30歳代	68	27.9	7.4	2.9	4.4	7.4	1.5	1.5	58.8	-
40歳代	125	28.0	5.6	6.4	1.6	6.4	0.8	1.6	60.8	-
50歳代	154	33.8	11.7	11.7	1.9	11.7	1.9	0.6	48.7	1.3
60歳代	126	44.4	20.6	7.9	3.2	4.0	-	0.8	42.1	0.8
70～74歳	75	53.3	37.3	17.3	1.3	1.3	-	-	29.3	-
75歳以上	55	23.6	30.9	20.0	1.8	1.8	1.8	-	45.5	3.6
女性18～29歳	36	13.9	2.8	2.8	8.3	11.1	-	-	72.2	-
30歳代	129	28.7	6.2	6.2	8.5	3.9	0.8	-	55.0	1.6
40歳代	196	30.6	5.1	6.1	5.6	3.1	2.0	-	56.6	-
50歳代	186	38.2	9.7	12.9	4.3	1.6	0.5	-	46.2	0.5
60歳代	135	45.9	16.3	16.3	5.2	1.5	-	0.7	40.0	0.7
70～74歳	78	43.6	17.9	10.3	3.8	-	-	-	37.2	2.6
75歳以上	38	34.2	26.3	18.4	2.6	-	2.6	2.6	31.6	10.5

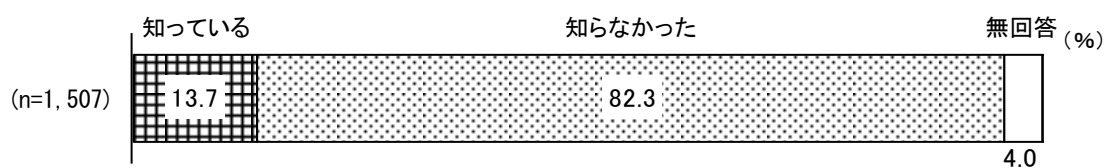


#### 4 大会開催時期に江の島を観光できることの認知度【問46】

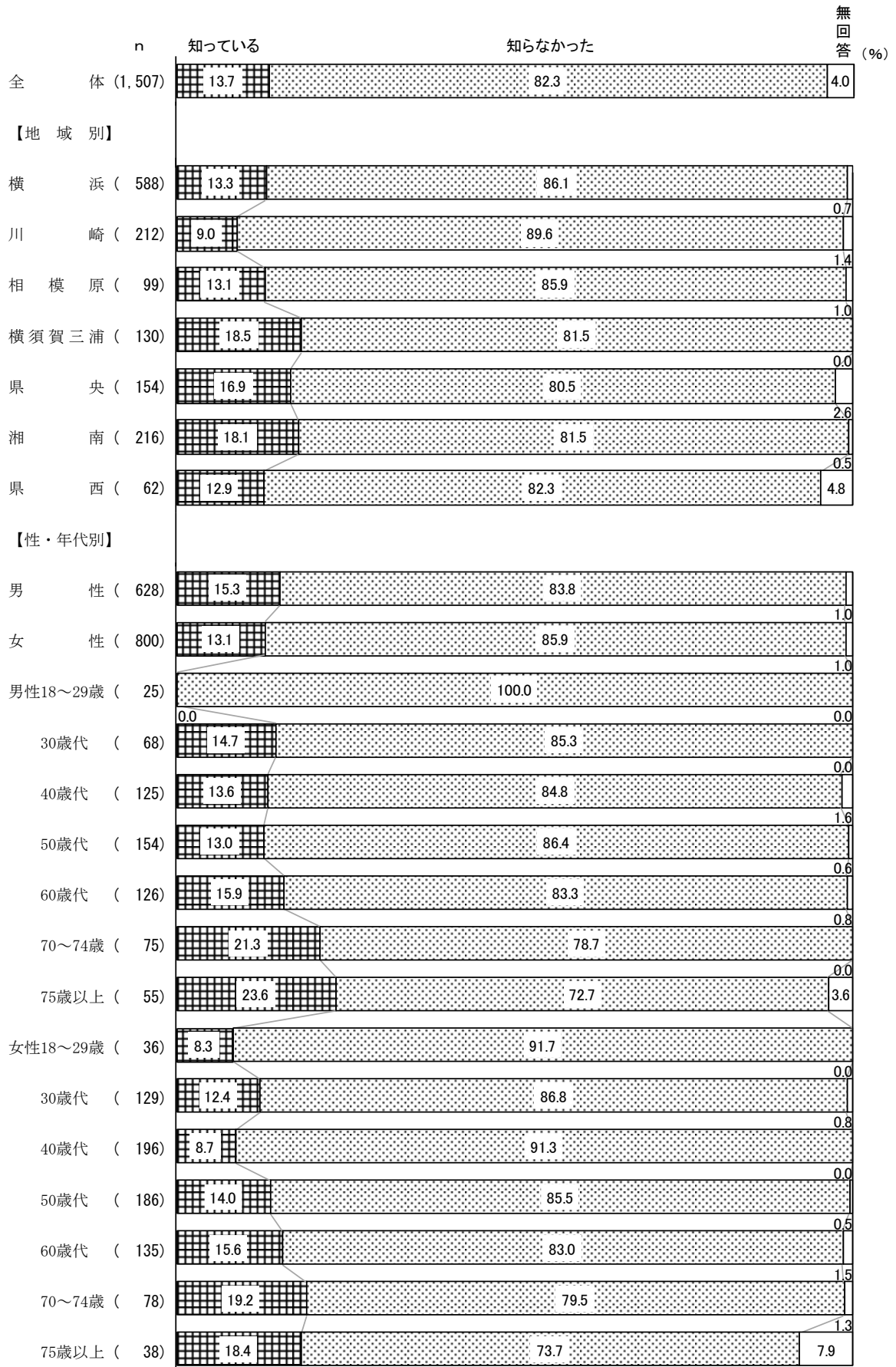
##### 【全体の状況】

東京2020オリンピック競技大会のセーリング会場である江の島を大会開催時期（2021年7月23日から8月8日）も観光できることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が13.7%であった。一方、「知らなかった」が82.3%であった。（図表14-4-1）

図表14-4-1 大会開催時期に江の島を観光できることの認知度



図表14-4-2 大会開催時期に江の島を観光できることの認知度—地域別、性・年代別

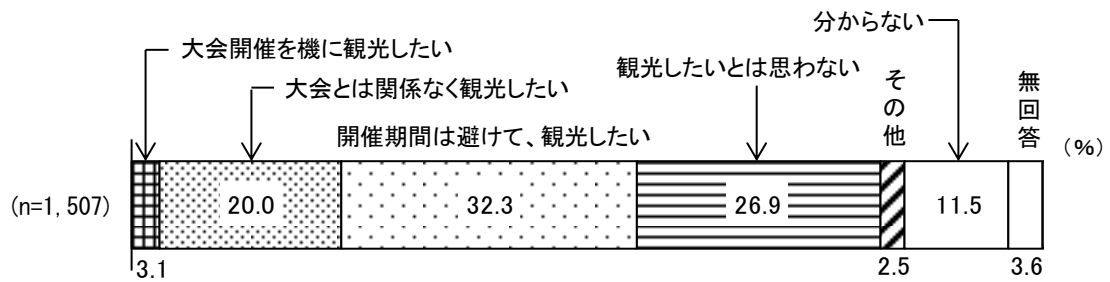


## 5 江の島の観光意向【問47】

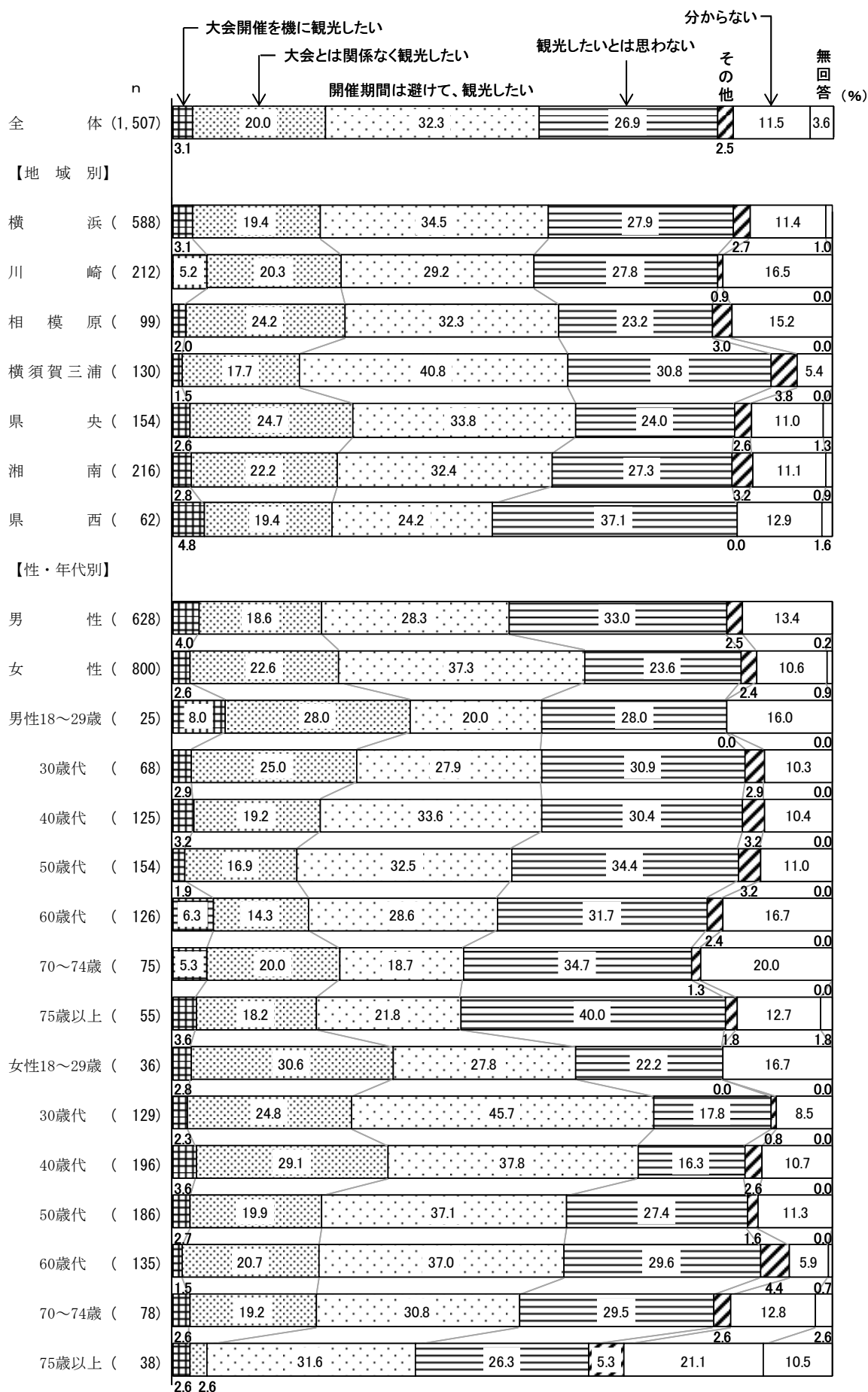
### 【全体の状況】

東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技開催を機に、江の島を観光したいと思うか尋ねたところ、「開催期間は避けて、観光したい」が32.3%で最も多く、次いで「観光したいとは思わない」(26.9%)であった。(図表14-5-1)

図表14-5-1 江の島の観光意向



図表14-5-2 江の島の観光意向—地域別、性・年代別

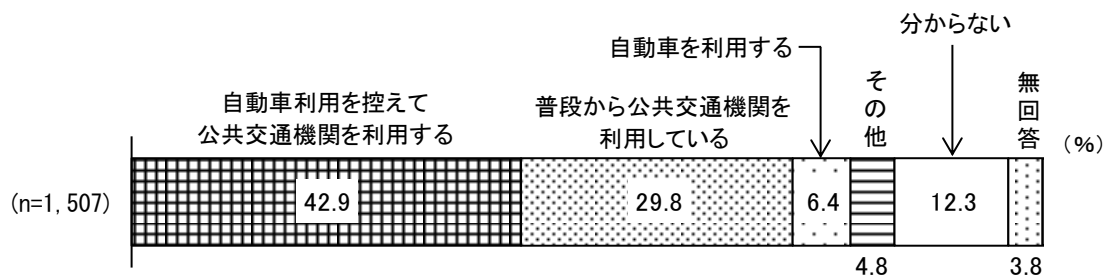


## 6 道路混雑緩和に向けた取組みへの協力意向【問48】

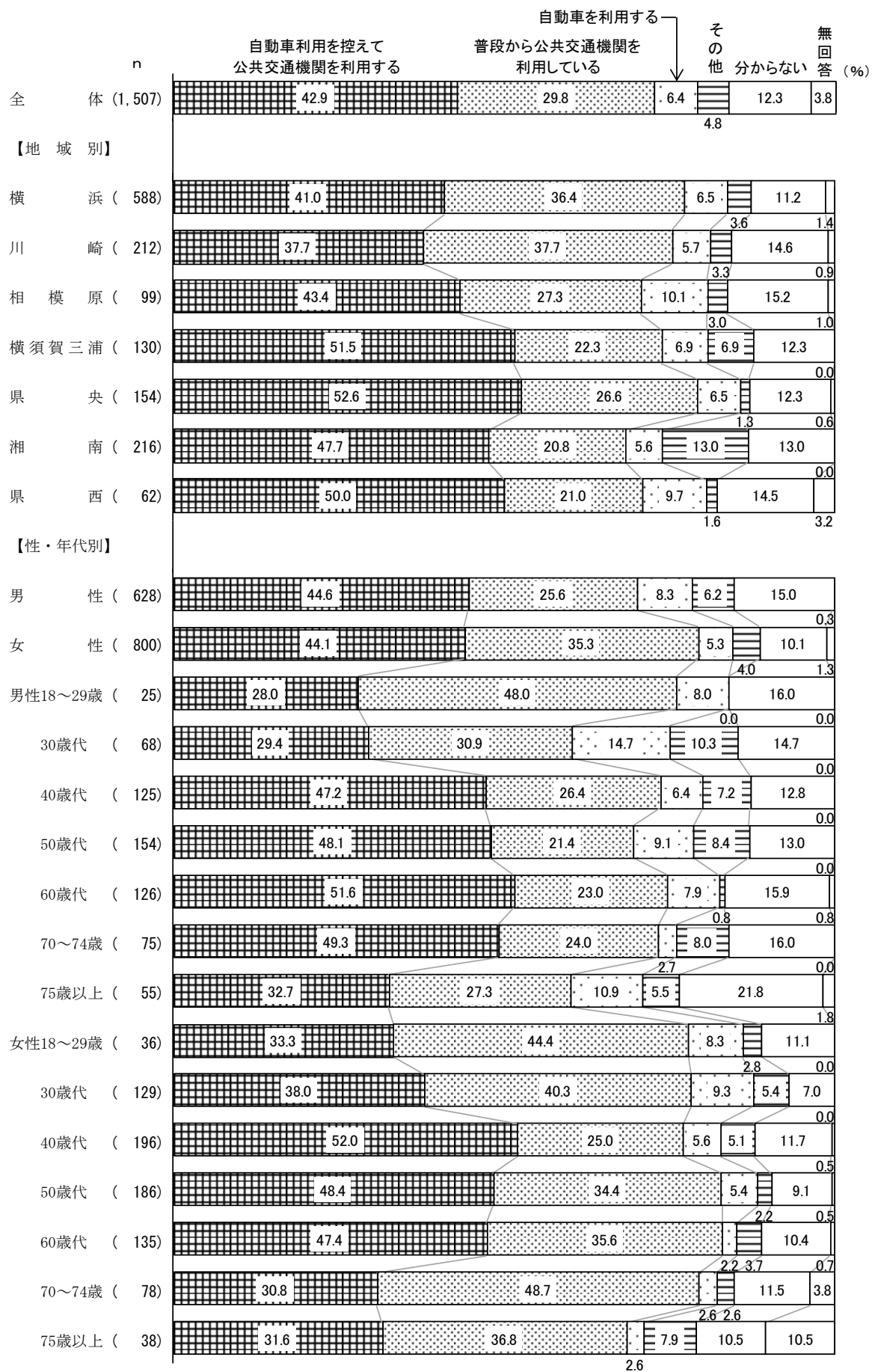
### 【全体の状況】

東京2020オリンピック競技大会開催時に、江の島周辺へ行く際、道路混雑緩和のため公共交通機関の利用を呼びかけられた場合、どう行動するか尋ねたところ、「自動車利用を控えて公共交通機関を利用する」が42.9%で最も多く、次いで「普段から公共交通機関を利用している」が29.8%であった。（図表14-6-1）

図表14-6-1 道路混雑緩和に向けた取組みへの協力意向



図表14-6-2 道路混雑緩和に向けた取組みへの協力意向—地域別、性・年代別



第 V 部 調査票と単純集計結果





調査期間 令和2年10月30日～11月24日  
 標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,507 (50.2%)  
 \* 「n」は、質問に対する回答者数の総数を表す。  
 「-」は、回答者が皆無であることを示す。  
 ※比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、  
 合計が100%にならないことがある。

## 令和2年度(2020年) 神奈川県『県民ニーズ調査』(第2回課題調査)

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

### 【アンケートのテーマ】

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 気候変動への適応       | 8 地域コミュニティ         |
| 2 環境に配慮した生活      | 9 子育てにおける体罰        |
| 3 生物多様性          | 10 消防団の認知度         |
| 4 アルコール依存症に対する意識 | 11 地震対策の取組み        |
| 5 肝炎対策           | 12 自転車損害賠償責任保険等の加入 |
| 6 「未病改善」の取組み     | 13 スポーツ            |
| 7 かながわの広報        | 14 東京2020大会に関する取組み |

### ◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前、ご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

- ▼ **ご記入いただいた調査票は、同封の返送用封筒**に入れ、**11月24日(火)まで**にご投函ください。(切手は不要です。お名前やご住所の記入も必要ありません。)
- ▼ **インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要**です。

### 【お問合せ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

- **問合せフォーム** (11月24日までの期間限定)  
 県民ニーズ調査HP (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)  
 に掲載している「令和2年度調査対象者」向けお問い合わせフォーム  
 から送信してください。
- **電話** (045)210-1111 (内線3672~3676)  
 ※ 受付時間：月～金 8:30～17:15(土日祝日は閉庁)

# 1 気候変動への適応

問1 「気候変動への適応」について知っていますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 知っている	48.0	3 知らなかった	19.4
2 言葉は聞いたことがある	30.6		(無回答 2.0)

近年、気温上昇や大雨の頻度増加などの気候変動により、健康や自然災害などの分野に影響が現れており、地球温暖化が進むとこれらの影響はさらに大きくなる恐れがあります。こうした影響による被害を避けたり、軽減することを「気候変動への適応」といいます。

問2 「気候変動への適応」に関心がありますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 関心がある	42.1	3 どちらかといえば関心がない	6.0
2 どちらかといえば関心がある	45.0	4 関心がない	1.8
		5 分からない	3.6
			(無回答 1.6)

問2で「1、2 (関心がある)」とお答えの方に

問2-1 次の気候変動の影響のうち、特に「気候変動への適応」の取組みが必要だと思うものはどれですか。 (○は2つまで) (n=1,312) (%)

1 米などの農作物の品質低下	15.0
2 漁獲量減少などの水産業への被害	21.9
3 ダムや湖の水質悪化	2.7
4 森林や海、湖などの生態系の変化	36.7
5 高波や土砂災害などの自然災害の増加	63.8
6 熱中症などの健康被害の拡大	32.9
7 交通・電気・水道などのインフラへの被害	15.8
8 その他 ( )	0.9
	(無回答 2.5)

問2で「3、4 (関心がない)」とお答えの方に

問2-2 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しいと思うのはなぜですか。 (○は2つまで) (n=117) (%)

1 気候変動の影響の内容がよく分からない	29.9
2 気候変動の影響の危機感が感じられない	20.5
3 具体的に何をしたらいいのかわからない	59.8
4 国や大企業が率先して取り組むべきだ	12.0
5 その他 ( )	6.8
6 特に理由はない	4.3
	(無回答 0.0)

## 2 環境に配慮した生活

- 問3 多少値段が高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思いますか。(〇は1つ)  
(n=1,507) (%)
- |              |      |             |           |
|--------------|------|-------------|-----------|
| 1 購入したいと思う   | 30.2 | 3 どちらともいえない | 48.5      |
| 2 購入したいと思わない | 20.3 |             | (無回答 1.0) |
- 問4 多少値段が高くても有機栽培など環境にやさしい方法で作られた農作物を購入したいと思いますか。  
(〇は1つ) (n=1,507) (%)
- |              |      |             |           |
|--------------|------|-------------|-----------|
| 1 購入したいと思う   | 46.2 | 3 どちらともいえない | 38.2      |
| 2 購入したいと思わない | 14.7 |             | (無回答 0.9) |
- 問5 興味のある環境問題について情報収集していますか。(〇は1つ) (n=1,507) (%)
- |           |      |             |           |
|-----------|------|-------------|-----------|
| 1 収集している  | 20.0 | 3 どちらともいえない | 28.3      |
| 2 収集していない | 50.7 |             | (無回答 1.0) |
- 問6 NPO等が行っている環境保全活動に参加したいと思いますか。(〇は1つ) (n=1,507) (%)
- |                      |      |             |           |
|----------------------|------|-------------|-----------|
| 1 参加したいと思う、すでに参加している | 10.9 | 3 どちらともいえない | 51.1      |
| 2 参加したいと思わない         | 36.8 |             | (無回答 1.3) |
- 問7 企業等の持つ技術力が地球温暖化などの環境問題の解決に生かされていると思いますか。  
(〇は1つ) (n=1,507) (%)
- |                |      |             |           |
|----------------|------|-------------|-----------|
| 1 生かされていると思う   | 40.8 | 3 どちらともいえない | 36.2      |
| 2 生かされていると思わない | 21.2 |             | (無回答 1.7) |

## 3 生物多様性

- 問8 「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(〇は1つ) (n=1,507) (%)
- |               |      |          |           |
|---------------|------|----------|-----------|
| 1 知っている       | 37.5 | 3 知らなかった | 23.5      |
| 2 言葉は聞いたことがある | 37.8 |          | (無回答 1.2) |

「生物多様性」とは、様々な自然が存在し、そこに住む様々な生きものたちに個性があり、お互いに関わりを持っていることをいいます。こうした様々な自然や生きものたちが育む水や空気、食べ物などの恵みにより、私たちの暮らしは支えられています。

- 問9 県における生物多様性の保全について、どの取組みが重要だと思いますか。(〇は3つまで)  
(n=1,507) (%)
- |                         |           |
|-------------------------|-----------|
| 1 山や海、里山などの自然環境を保全する取組み | 84.9      |
| 2 希少な動植物を保護する取組み        | 41.7      |
| 3 外来生物を防除する取組み          | 58.2      |
| 4 野生生物による被害を軽減する取組み     | 30.1      |
| 5 県民への普及啓発、保全に配慮した行動促進  | 30.2      |
| 6 その他 ( )               | 0.8       |
| 7 分からない                 | 3.0       |
|                         | (無回答 1.5) |

問 10 生物多様性について知る、または行動する機会として、どの取組みに参加したいと思いますか。  
(○は3つまで) (n=1,507) (%)

1	生物多様性の保全などに関する講座や研修会	19.8
2	自然や生きものとふれあう観察会	35.6
3	身近な生きものの生息状況の調査	26.5
4	緑地や里山などの自然環境の保全・再生活動	49.4
5	みどりの保全などに対する募金や寄付	23.2
6	その他 ( )	1.3
7	参加したいとは思わない	21.6

(無回答 2.1)

## 4 アルコール依存症に対する意識

問 11 適度な飲酒量※を知っていますか。(○は1つ) (n=1,507) (%)

1	知っている	67.8	2	知らなかった	30.3	(無回答 1.9)
---	-------	------	---	--------	------	-----------

※厚生労働省の示す指標では、適度な飲酒量は1日平均「純アルコール20g程度」の飲酒とされています。大体「ビール中ビン(500ml)1本」「日本酒1合」「チューハイ(7%)350ml缶1本」「ウイスキーダブル1杯(60ml)」などに相当します。

問 12 アルコールについて、知っていることを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,507) (%)

1	依存性がある飲み物である	87.8
2	継続的な多量飲酒は、肝臓だけでなく、すべての臓器に悪影響を及ぼす	79.4
3	多量飲酒者は、がんになる確率が飲まない人よりも高い	39.3
4	睡眠の質を落とす	48.6
5	うつ病を引き起こす原因となる	20.9
6	継続的な多量飲酒は、家庭生活に悪影響を与える可能性がある	71.2
7	うつ状態でのやけ酒は、自殺を引き起こす恐れがある	29.7
8	女性は、男性よりもアルコールによる身体のダメージを受けやすい	26.4
9	妊娠中の飲酒は、胎児に発達の遅れをきたす恐れがある	82.8
10	未成年の飲酒は、二次性徴や脳の発達に悪影響がある	66.2
11	どれも知らなかった	0.5

(無回答 1.1)

問 13 アルコール依存症について、知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,507) (%)

1	飲酒をコントロールすることができない精神疾患である	92.3
2	飲酒をしていれば誰もがなりえる	49.9
3	進行がゆっくりなため自覚症状がない	29.2
4	断酒を続けることにより回復する	44.0
5	お酒に強い人の方がなりやすい	19.0
6	どれも知らなかった	1.4

(無回答 1.3)

問 14 アルコール依存症について、相談できる場所として知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,507) (%)

1 医療機関 (病院や診療所等)	84.1
2 公的機関 (精神保健福祉センターや保健所等)	39.4
3 自助グループ (断酒会などの依存症当事者やその家族の組織)	38.5
4 自助グループ以外のNPOなどの民間団体	18.2
5 どれも知らなかった	9.0

(無回答 1.4)

問 15 アルコール依存症について、相談場所を知っていれば、相談しますか。(すでに相談したことがある場合を含む)

(○は1つ) (n=1,507) (%)

1 する (すでに相談したことがあるを含む)	48.6	2 しない	44.8	(無回答 6.6)
------------------------	------	-------	------	-----------

## 5 肝炎対策

問 16 ウイルス性肝炎という病気を知っていますか。

(○は1つ) (n=1,507) (%)

1 知っている	59.9	3 知らなかった	6.0
2 言葉は聞いたことがある	32.3		(無回答 1.9)

肝炎は、肝臓の細胞が破壊され炎症が起きる病気で、日本では特にB型、C型肝炎にかかる人が多くなっています。ウイルス性肝炎は、肝硬変や肝がんなどの命に関わる病気に進行することもあります。

問 17 これまでに「肝炎ウイルス検査」※を受けたことがありますか。(○は1つ) (n=1,507) (%)

1 ある	20.0	3 ない	55.7
2 受けた可能性がある	10.4	4 分からない	12.4

(無回答 1.5)

※「肝炎ウイルス検査」は、本人が自覚的に受検する場合と、大きな外科手術(全身麻酔での手術で1993年以降に経験)、妊娠・出産(1993年以降に経験)及び献血時(1990年以降に経験)に無自覚に受けた可能性があります。

問 17で「1 ある」または「2 受けた可能性がある」とお答えの方に

問 17-1 検査の結果をご存知ですか。

(○は1つ) (n=458) (%)

1 知っている	75.5	3 分からない、覚えていない	20.3
2 知らない (結果待ちを含む)	3.7		(無回答 0.4)

問 17で「3 ない」とお答えの方に

問 17-2 これまで「肝炎ウイルス検査」を受けなかった主な理由を選んでください。

(○は3つまで) (n=839) (%)

1 忙しいから	7.3	5 健康なので必要ないから	44.9
2 費用がかかるから	9.4	6 その他 ( )	4.1
3 日程や場所が分からなかったから	16.6	7 特に理由はない	36.0
4 検査の内容や結果が不安だから	3.2		(無回答 0.5)

## 6 「未病改善」の取組み

問 18 「未病（ME-BYO）」という言葉聞いたことがありますか。（○は1つ）（n=1,507）（%）

1 ある	54.6	2 ない	43.0	（無回答 2.4）
------	------	------	------	-----------

「未病」とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものと捉え、すべての変化の過程を表す概念です。

問 18 で「1 ある」とお答えの方に

問 18-1 「未病（ME-BYO）」の言葉の意味を知っていますか。（○は1つ）（n=823）（%）

1 知っている	66.3	2 知らなかった	32.2	（無回答 1.5）
---------	------	----------	------	-----------

問 19 過去1年間で「未病改善※」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流等）を以前と比べて行うようになったと思いますか。（○は1つ）（n=1,507）（%）

1 もともと行っており、今も行っている	23.6
2 以前ほどではないが、少しずつ行っている	17.1
3 以前は行っていたが、まったく行わなくなった	2.5
4 以前は行っていなかったが、行うようになった	5.6
5 以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった	13.6
6 以前から行っておらず、今も行っていない	30.3
（無回答 7.5）	

※「未病改善」とは、心身の状態の変化の中で、特定の疾患の予防にとどまらず、心身をより健康な状態に近づけていくことです。県では「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。

「食」：健康的な食生活へ改善すること。オーラルフレイル（心身の機能の低下につながる口腔機能の虚弱な状態）対策も重要です。

「運動」：日常生活にスポーツや運動を取り入れること。質の良い睡眠も重要です。

「社会参加」：ボランティアや趣味の活動等で他者と交流し、社会とのつながりを持つこと。

問 20 「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流等）をするにあたって必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）（n=1,507）（%）

1 医師等、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス	39.2
2 健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報	45.3
3 ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	5.2
4 スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設	35.3
5 家族、友人等、一緒に健康に良い行動ができる仲間	39.9
6 自分の健康状態を気軽に知ることができる施設やイベントなど	29.7
7 民間企業が提供する健康関連の商品サービス	2.7
8 将来(10~20年後)の自分に起こりうる健康リスク (生活習慣病や認知症など)を知ること	27.4
9 その他 ( )	1.1
10 特になし	5.9

（無回答 6.6）

## 7 かながわの広報

問 21 県では、広報紙や県提供のテレビ・ラジオ番組、インターネット、ホームページ等で様々な県政情報をお伝えしています。県は、県政の情報を十分に伝えていると思いますか。(〇は1つ)  
(n=1,507) (%)

1 伝えている	8.8	4 伝えていない	7.4
2 どちらかといえば伝えている	33.8	5 分からない	33.5
3 どちらかといえば伝えていない	13.5	(無回答)	3.0

問 22 県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを選んでください。  
(〇はいくつでも) (n=1,507) (%)

1 県の公式 YouTube 動画サイト「かなチャンTV」	6.6
2 県の広報紙「県のたより」	67.2
3 県の広報テレビ番組(tvk「カナフルTV」)	14.3
4 県の広報ラジオ番組(FM 横浜「KANAGAWA Muffin」)	11.8
5 県のホームページ	37.1
6 県のソーシャルメディア※	2.0
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシ等	19.2
8 新聞での紙面広報	16.6
9 タウン誌、ミニコミ誌等	24.0
10 知っているものはない	10.8
(無回答)	3.2

※ソーシャルメディアとは、例えば Twitter、Facebook、Instagram などがあります。

問 23 県の事業や行事、お知らせ等の情報をどこから入手していますか。  
(〇はいくつでも) (n=1,507) (%)

1 県の公式 YouTube 動画サイト「かなチャンTV」	2.5
2 県の広報紙「県のたより」	56.5
3 県の広報テレビ番組(tvk「カナフルTV」)	7.2
4 県の広報ラジオ番組(FM 横浜「KANAGAWA Muffin」)	7.0
5 県のホームページ	22.2
6 県のソーシャルメディア	3.5
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシ等	15.4
8 新聞での紙面広報	15.9
9 タウン誌、ミニコミ誌等	17.9
10 どこからも入手していない	19.6
(無回答)	2.9

## 8 地域コミュニティ

問 24 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、3密を避ける新しい生活様式が求められる中、地域住民・家族・親族・友人等とのコミュニティにおいて、どのような手段によるコミュニケーションが増えていると思いますか。 (〇はいくつでも) (n=1,507) (%)

1	マスク着用等による対面でのやりとり	79.0
2	顔が見えるテレビ電話・ビデオ通話	41.1
3	電子メール、LINE、チャット、ソーシャルメディア※等	68.5
4	電話	32.9
5	手紙やはがき	4.9
6	ファクシミリ	1.3
7	その他 ( )	0.4
8	分からない	3.1

(無回答 1.3)

※チャットとは、インターネットを介してリアルタイムに会話するしくみのことです。また、ソーシャルメディアには、例えば、Twitter、Facebook、Instagramなどがあります。

問 24 で 1～7 のいずれかをお答えの方に

問 24-1 このようなコミュニケーションは取りやすいと思いますか。

(〇は1つ) (n=1,442) (%)

1	そう思う	27.1	4	どちらかといえばそう思わない	14.0
2	どちらかといえばそう思う	35.0	5	そう思わない	3.6
3	どちらともいえない	18.9			(無回答 1.3)

問 24-1 で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」とお答えの方に

問 24-1-1 その理由は何ですか。

(〇はいくつでも) (n=896) (%)

1	表情を気にしなくてよい	20.0	4	相手の思いや考えが伝わりやすい	16.5
2	普段できないような話がしやすい	7.4	5	気軽に連絡しやすい	76.3
3	自分の思いや考えを伝えやすい	25.7	6	その他 ( )	3.5
					(無回答 1.8)

問 24-1 で「4 どちらかといえばそう思わない」または「5 そう思わない」とお答えの方に

問 24-1-2 その理由は何ですか。

(〇はいくつでも) (n=254) (%)

1	相手の表情が分かりにくい	70.5	4	相手の思いや考えが伝わりにくい	53.1
2	必要最小限の話だけに なりやすい	57.5	5	気軽に連絡しにくい	42.1
3	自分の思いや考えを伝える にくい	50.8	6	その他 ( )	5.9
					(無回答 0.8)



## 全員の方がお答えください

問 25 コロナ禍を機に始めたコミュニケーションの取り方を今後も続けたいと思いますか。(○は1つ)  
(n=1,507) (%)

1 そう思う	26.5	5 そう思わない	9.4
2 どちらかといえばそう思う	28.5	6 分からない	7.6
3 どちらともいえない	17.6	7 その他 ( )	0.9
4 どちらかといえばそう思わない	7.2		(無回答 2.3)

## 9 子育てにおける体罰

問 26 保護者から子どもへの体罰が許されないものである、と法律で定めていることを知っていますか。  
(○は1つ) (n=1,507) (%)

1 知っている	73.1	3 知らなかった	10.0
2 聞いたことはある	14.9		(無回答 2.1)

2019年6月に成立した児童福祉法等の改正法において、体罰禁止が法定化され、2020年4月1日から施行されました。この法律施行の背景には、保護者が「しつけ」と称して暴力・虐待を行い、子どもの命が失われる痛ましい事件が続いたことがあります。

問 27 体罰等は子どもの成長・発達に悪影響を与えることは科学的にも明らかになっており、体罰等が繰り返されると、心身にさまざまな悪影響が生じる可能性があることが報告されています。次に挙げるもののうち、体罰等が子どもに与える影響について知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,507) (%)

1 身体に苦痛、不快感を与える	85.5	6 感情をうまく表せない	69.6
2 親子関係を悪くする	70.9	7 落ち着いて話を聞けない	41.6
3 攻撃的になる	53.5	8 我慢ができない	33.2
4 びくびくして落ち込む	68.9	9 自信をなくす	68.1
5 子どもの心を傷つける	84.6	10 知っているものはない	2.1

(無回答 2.0)

問 28 子どものしつけで困った時に、誰に(どこに)相談すべきだと思いますか。(○はいくつでも)  
(n=1,507) (%)

1 家族や親戚	76.3	6 市役所や町役場、村役場	18.0
2 友人や知人	62.5	7 児童相談所	37.9
3 子どもの学校や幼稚園、保育園等	39.1	8 その他( )	2.1
4 子育てサークル	16.3	9 相談したくない	0.7
5 子育て支援センター	44.1		(無回答 2.4)

## 10 消防団の認知度

問 29 消防団を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 知っている	84.0	3 知らなかった	1.7
2 言葉は聞いたことがある	13.3	(無回答)	1.1

消防団とは、地域の安全・安心を守るため、普段は別の仕事などをしながら、消火・救助活動、防火啓発活動などを行う地域住民等で構成される市町村の消防機関です。

問 30 消防団に入団したいと思いますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 入団したい	0.7	5 入団したくない	
2 条件が合えば入団してもよい	7.8	(内容をよく知らないから)	12.4
3 入団したくない		6 すでに入団している	0.4
(活動する時間がないから)	31.3	7 どちらともいえない	18.8
4 入団したくない		(無回答)	4.1
(活動が大変そうだから)	24.5		

問 31 消防団の活動や消防団員の待遇で魅力を感じることは何ですか。 (○はいくつでも)

(n=1,507) (%)

1 地域社会に貢献できる	53.2	6 年額報酬や出動手当が支払われる	7.0
2 無線や船舶の資格を取得できる		7 功労に応じて表彰制度がある	2.9
機会がある	5.4	8 学生消防団には、就職活動を支援する	
3 応急手当の知識や救助技術が		制度がある	2.1
身につく	43.2	9 その他 ( )	0.7
4 女性が活躍できる場がある	3.9	10 特にない	15.5
5 制服や防火服を着て活動ができる	1.7	11 分からない	16.9

(無回答 3.1)

## 11 地震対策の取組み

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題となっています。

問 32 家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっていますか。 (○はいくつでも)

(n=1,507) (%)

1 非常持ち出し品の準備	54.9	7 防災訓練に積極的に参加	9.4
2 食料や飲料水の備蓄	67.9	8 感震ブレーカー等※の設置	6.6
3 住まいの耐震化	18.8	9 消火器の設置	25.0
4 家具・家電などの固定	36.5	10 その他 ( )	1.1
5 避難場所や避難経路の確認	42.3	11 特に対策はしていない	9.9
6 家族と連絡方法の確認	39.3	(無回答)	0.9

※感震ブレーカー等とは、揺れを感知して電気を止める器具のことをいいます。

問 33 海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動しますか。

(○は1つ) (n=1,507) (%)

1 すぐに海岸から避難する (5分以内)	92.6	3 津波が迫ってから避難する	0.6
2 用事を終えてから避難する (15分以内)	2.1	4 分からない	3.5

(無回答 1.3)

問 34 次のことを知っていましたか。「知っていた」、「知らなかった」のどちらかに○をつけてください。

(○はそれぞれ1つずつ)

(n=1,507) (%)	知っていた	知らなかった	(無回答)
(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある	69.3	29.2	1.5
(2) 津波は、早ければ地震発生後数分で到達する	91.3	7.4	1.3
(3) 津波は、繰り返し襲ってくる	89.9	8.5	1.6
(4) 津波の伝わる速さは非常に速い (津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)	60.8	37.0	2.1
(5) 「津波避難ビル」に指定されている建物がある	48.4	49.6	2.1
(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された「津波浸水予測図マップ」「津波ハザードマップ」がある	74.9	23.2	2.0
(7) 津波から避難するときは、「遠いところ」ではなく「高いところ」に逃げる必要がある	94.0	4.8	1.3
(8) 津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸に赤と白の格子模様の旗 (津波フラッグ) が出されることがある	15.9	82.0	2.1
(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある	80.4	17.8	1.8
(10) 東日本大震災の教訓を踏まえて、総合的な地域づくりの中で津波防災を推進する「津波防災地域づくりに関する法律」が2011年12月に施行された	19.3	78.9	1.8

問 35 津波に対する防災・減災の観点から、住んでいる地域で実施が望まれるものはありますか。

(○はいくつでも) (n=1,507) (%)

「津波災害警戒区域」の指定

津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域です。津波から「逃げる」ために、避難訓練の実施、津波ハザードマップの作成、避難施設の確保等、警戒避難体制を特に整備すべき区域です。建物の建築や開発行為は制限されません。

「津波災害特別警戒区域」の指定

津波災害警戒区域のうち、津波が発生した場合、建物が損壊・浸水し、住民等の生命・身体に著しい危害が生じるおそれがある区域です。身体的な理由などにより、津波から逃げるのが難しい住民等が、建物の中にも津波を「避ける」ことができるよう、社会福祉施設、医療施設、学校等を建築する場合などに、一定の規制があります。

「推進計画」の策定

津波防災地域づくりを推進するために市町村が作成する計画で、市町村が実施する施策だけでなく、国・都道府県・地域住民など多様な主体によるハード（津波防護施設の整備）・ソフト（避難訓練の実施等）のあらゆる施策を計画に位置付けることができます。

1 「津波災害警戒区域」の指定	30.0	5 その他 ( )	1.2
2 「津波災害特別警戒区域」の指定	27.1	6 特にない	8.1
3 津波防災ビジョンを示す「推進計画」の策定	21.3	7 分からない	19.5
4 内陸に住んでいるため特に望むものはない	29.3		(無回答 4.0)

## 12 自転車損害賠償責任保険等の加入

問 36 通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用していますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 利用している	31.9	2 利用していない	66.6	(無回答 1.5)
----------	------	-----------	------	-----------

問 36 で「1 利用している」とお答えの方に

問 36-1 自転車損害賠償責任保険等※に加入していますか。 (○は1つ) (n=480) (%)

1 加入している	74.8	3 分からない	4.2
2 加入していない	20.8		(無回答 0.2)

※自転車損害賠償責任保険等とは、自転車を利用中の交通事故で、相手の怪我などの被害に係る損害を補償する保険等のことです。保険等には、自転車専用の保険のほか、自動車保険などの特約（個人賠償責任保険）、自転車に付帯するTSマーク保険などがあります。

全員の方がお答えください

問 37 すべての自転車利用者が自転車損害賠償責任保険等に加入することについてどう思いますか。

(○は1つ) (n=1,507) (%)

1 加入すべきである	83.6	3 分からない	9.6
2 その必要はない	4.9		(無回答 1.9)

## 13 スポーツ

問 38 ご自身の体力に自信はありますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 ある	7.7	4 ない	25.0
2 どちらかといえばある	30.9	5 分からない	5.2
3 どちらかといえはない	29.9		(無回答 1.3)

問 39 この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツ※をした日数はどのくらいになりますか。

(○は1つ) (n=1,507) (%)

1 週に5日以上	9.9	5 月に1～3日程度	13.1
2 週に3日程度	14.5	6 3ヶ月に1～2日程度	7.0
3 週に2日程度	11.5	7 年に1～3日程度	12.9
4 週に1日程度	13.9	8 分からない	15.3

(無回答 1.9)

※1回10分程度の運動やスポーツを合計して30分でも構いません。また、レクリエーションとして行う身体活動やウォーキングなどの軽度の運動も含まれます。

問 40 「3033 (サンマルサンサン) 運動※」について知っていますか。 (○は1つ)

(n=1,507) (%)

1 知っている	3.8	3 知らなかった	83.4
2 言葉は聞いたことがある	11.6		(無回答 1.1)

※3033 (サンマルサンサン) 運動とは、運動やスポーツを1日30分、週3回、3ヶ月間継続して行い、暮らしの一部として習慣化する取組みのことです。

問 41 「総合型地域スポーツクラブ※」について知っていますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 知っている	9.0	3 知らなかった	78.6
2 言葉は聞いたことがある	11.1		(無回答 1.3)

※総合型地域スポーツクラブとは、地域住民が主体となって運営する多種目、多世代、多志向型のスポーツクラブのことです。

問 42 「かながわパラスポーツ※」について知っていますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 知っている	3.3	3 知らなかった	82.5
2 言葉は聞いたことがある	12.6		(無回答 1.5)

※かながわパラスポーツとは、すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えることです。

## 14 東京 2020 大会に関する取組み

問 43 東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング※競技が江の島で開催されます。

セーリング競技に興味・関心がありますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 興味・関心があり、定期的に競技を行っている	0.3
2 興味・関心があり、セーリングの体験や見学、競技観戦をしたことがある	1.7
3 どちらかといえば興味・関心がある	26.3
4 どちらかといえば興味・関心はない	38.8
5 興味・関心はない	31.2

(無回答 1.6)

※セーリングとは、セール(帆)に受ける風の力で動く小型の船を使用したヨットやウィンドサーフィンなどのスポーツのことです。

問 44 東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技を観戦したいと思いませんか。 (○は1つ)

(n=1,507) (%)

1 競技会場に行って観戦したい	10.7
2 ライブサイト※等大型スクリーンで観戦したい	1.1
3 テレビ・インターネットで観戦したい	35.6
4 観戦するつもりはない	49.2

(無回答 3.5)

※ライブサイトとは、広場などに大型スクリーンを設置し、大勢で一緒に観戦する形態のことです。

問 45 セーリング競技に関する情報を何で得ましたか。 (○はいくつでも) (n=1,507) (%)

1 自治体の広報物	10.0	5 イベント	0.9
2 ホームページ・SNS	3.9	6 家族・知人から	4.0
3 テレビ・ラジオ	34.2	7 その他( )	0.5
4 新聞・本・雑誌	12.9	8 得たことがない	47.0

(無回答 4.0)

問 46 東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技会場である江の島を大会開催時期(2021年7月23日から8月8日)も観光できることを知っていますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 知っている	13.7	2 知らなかった	82.3	(無回答 4.0)
---------	------	----------	------	-----------

問 47 来年の夏の東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技開催を機に、江の島を観光したいと思いませんか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 大会開催を機に観光したい	3.1	4 観光したいとは思わない	26.9
2 大会とは関係なく観光したい	20.0	5 その他( )	2.5
3 開催期間は避けて、観光したい	32.3	6 分からない	11.5

(無回答 3.6)



F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。 (○は1つ) (n=1,507) (%)

1 一人暮らし(単身世帯)	10.9	4 祖父母と親と子の世帯(3世代世帯)	6.3
2 夫婦のみ(1世代世帯)	26.5	5 その他の世帯	4.5
3 親と子の世帯(2世代世帯)	48.2	(無回答 3.5)	

F 6 現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。  
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,507) (%)

(n=978) (%)

1 自営業主	5.8	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア 農林水産業	0.4
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.7		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	5.8
			ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	4.5
3 勤め (フルタイム)	40.4	エ～ケから 1つ選んで ください。	エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	9.1
4 勤め (パートタイム)	16.9		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	19.6
5 内職	0.1		カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	21.8
6 主婦・主夫 (勤めていない)	16.7		キ 教育職(教諭、保育士など)	4.4
			ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	8.9
			ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	21.5
7 学生	0.6		(無回答 4.0)	
8 無職	13.4			
9 その他(具体的に: )	1.3			
	(無回答 3.3)			

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、11月24日(火)までにご投函ください。(切手は不要です。)

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

158 人 (10.5%) から自由意見が寄せられました。